

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2006-277424
(P2006-277424A)

(43) 公開日 平成18年10月12日(2006. 10. 12)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
GO 6 F 12/00 (2006. 01)	GO 6 F 12/00 5 3 1 D	2 G O 5 8
GO 1 N 35/00 (2006. 01)	GO 6 F 12/00 5 1 O B	5 B O 8 2
	GO 6 F 12/00 5 3 3 J	
	GO 1 N 35/00 A	

審査請求 未請求 請求項の数 23 O L (全 64 頁)

(21) 出願番号	特願2005-96684 (P2005-96684)	(71) 出願人	390014960
(22) 出願日	平成17年3月30日 (2005. 3. 30)		シスメックス株式会社
			兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
		(74) 代理人	100088867
			弁理士 西野 卓嗣
		(72) 発明者	三島 義博
			神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号
			シスメックス株式会社内
		(72) 発明者	屋内 照貴
			広島市中区広瀬北町3-14-801
		Fターム(参考)	2G058 GD01 GD05 GD06 GE06
			5B082 DE04 GA04 GB01 GB06

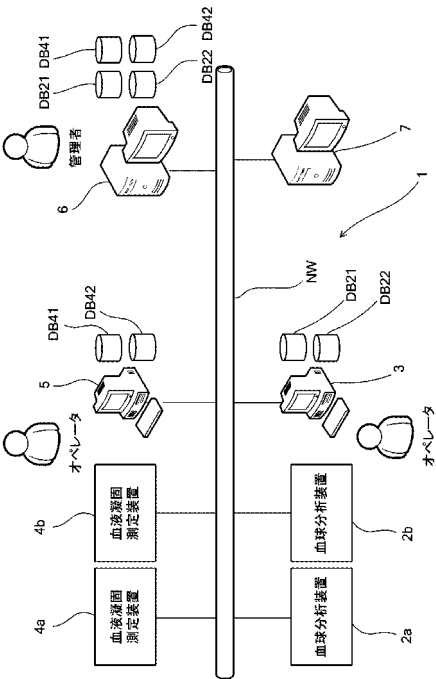
(54) 【発明の名称】 分析システム、データ処理装置、測定装置、及びアプリケーションプログラム

(57) 【要約】

【課題】 複数のデータ処理装置の機能を夫々十分に活用することができる分析システム、データ処理装置、測定装置、及びアプリケーションプログラムを提供する。

【解決手段】 血球分析装置2a、2bと、血液凝固測定装置4a、4bと、血球分析装置2a、2b用のデータ処理装置3と、血液凝固測定装置4a、4b用のデータ処理装置5と、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4b用のデータ処理装置6とをデータ通信可能に接続する。データ処理装置3には、データベースDB21、DB22を設け、データ処理装置5には、データベースDB41、DB42を設ける。データ処理装置6には、データベースDB21、DB22、DB41、DB42を設け、データベースを二重化する。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

検体に対して測定を行う第 1 測定装置と、
検体に対して前記第 1 測定装置とは異なる種類の測定を行う第 2 測定装置と、
前記第 1 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する第 1 データ処理装置と、
前記第 2 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する第 2 データ処理装置と、
を備え、

前記第 1 データ処理装置は、前記第 1 測定装置の測定データ及び当該測定データの処理結果の少なくともいずれか一方を格納する第 1 データベースを備え、 10

前記第 2 データ処理装置は、前記第 1 データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第 2 データベースを備え、前記第 2 データベースの内容を前記第 1 データベースの内容と同期的に整合させるように構成されている分析システム。

【請求項 2】

前記第 2 データ処理装置は、前記第 1 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理するように構成されている請求項 1 に記載の分析システム。

【請求項 3】

前記第 2 データベースは、前記第 1 データベースと同一内容のデータベースであり、
前記第 2 データ処理装置は、前記第 2 データベースの内容を前記第 1 データベースの内容と同期的に一致させるように構成されている請求項 1 又は 2 に記載の分析システム。 20

【請求項 4】

前記第 1 測定装置は、測定データを前記第 1 データ処理装置及び前記第 2 データ処理装置へ同時に送信するように構成されている請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の分析システム。

【請求項 5】

前記第 1 データ処理装置は、前記第 1 測定装置から測定データを受信した場合には、当該測定データを前記第 2 データ処理装置へ送信するように構成されている請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の分析システム。

【請求項 6】

前記第 1 データ処理装置は、前記測定データを処理した場合に、処理結果データを前記第 2 データ処理装置へ送信するように構成されている請求項 1 乃至 4 の何れかに記載の分析システム。 30

【請求項 7】

前記第 1 データ処理装置は、前記第 1 データベースを更新した場合に、更新前と更新後との差分データを生成し、当該差分データを前記第 2 データ処理装置へ送信するように構成されており、

前記第 2 データ処理装置は、前記差分データを受信した場合に、当該差分データにより前記第 2 データベースを更新するように構成されている請求項 1 乃至 6 の何れかに記載の分析システム。 40

【請求項 8】

前記第 1 データ処理装置は、前記第 1 測定装置の設定に使用する第 3 データベースを更に備え、

前記第 2 データ処理装置は、前記第 3 データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第 4 データベースを更に備え、前記第 4 データベースの内容を前記第 3 データベースの内容と同期的に整合させるように構成されている請求項 1 乃至 7 の何れかに記載の分析システム。

【請求項 9】

前記第 4 データベースは、前記第 3 データベースと同一内容のデータベースであり、
前記第 2 データ処理装置は、前記第 4 データベースの内容を前記第 3 データベースの内 50

容と同期的に一致させるように構成されている請求項 8 に記載の分析システム。

【請求項 10】

前記第 1 データ処理装置は、

第 1 表示部と、

前記第 1 測定装置の測定に関する第 1 画面を前記第 1 表示部に表示させる第 1 表示手段と、

を更に備え、

前記第 2 データ処理装置は、

第 2 表示部と、

前記第 2 測定装置の測定に関する画面であって、前記第 1 画面と同一の画面構成の第 2 画面を前記第 2 表示部に表示させる第 2 表示手段と、

を更に備える請求項 1 に記載の分析システム。

【請求項 11】

前記第 1 データ処理装置は、

第 1 表示部と、

前記第 1 測定装置の測定に関する第 1 画面を前記第 1 表示部に表示させる第 1 表示手段と、

を更に備え、

前記第 2 データ処理装置は、

第 2 表示部と、

前記第 1 測定装置又は前記第 2 測定装置の測定に関する画面であって、前記第 1 画面と同一の画面構成の第 2 画面を前記第 2 表示部に表示させる第 2 表示手段と、

を更に備える請求項 2 に記載の分析システム。

【請求項 12】

検体に対して測定を行う第 1 測定装置と、検体に対して前記第 1 測定装置とは異なる種類の測定を行う第 2 測定装置とに接続されており、前記第 2 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理するデータ処理装置であって、

前記第 1 測定装置の測定データ及び当該測定データの処理結果の少なくともいずれか一方を格納する外部の第 1 データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第 2 データベースを備え、

前記第 2 データベースの内容を前記第 1 データベースの内容と同期的に整合させるように構成されているデータ処理装置。

【請求項 13】

前記第 1 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理するように構成されている請求項 12 に記載のデータ処理装置。

【請求項 14】

前記第 2 データベースは、前記第 1 データベースと同一内容のデータベースであり、

前記第 2 データベースの内容を前記第 1 データベースの内容と同期的に一致させるように構成されている請求項 12 又は 13 に記載のデータ処理装置。

【請求項 15】

前記第 1 測定装置の測定データを外部から受信する受信部と、

当該受信部によって受信された測定データにより前記第 2 データベースを更新する更新手段と、

を更に備える請求項 12 乃至 14 の何れかに記載のデータ処理装置。

【請求項 16】

前記第 1 測定装置の測定データを処理した処理結果データを外部から受信する受信部と、

当該受信部によって受信された処理結果データにより前記第 2 データベースを更新する更新手段と、

を更に備える請求項 12 乃至 15 の何れかに記載のデータ処理装置。

【請求項 17】

前記第1データベースを更新した場合の更新前と更新後との差分データを外部から受信する受信部と、

当該受信部によって受信された差分データにより前記第2データベースを更新する更新手段と、

を更に備える請求項12乃至16の何れかに記載のデータ処理装置。

【請求項 18】

前記第1測定装置の設定に使用する第3データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第4データベースを更に備え、

前記第4データベースの内容を前記第3データベースの内容と同期的に整合させるように構成されている請求項12乃至17の何れかに記載のデータ処理装置。 10

【請求項 19】

前記第4データベースは、前記第3データベースと同一内容のデータベースであり、

前記第4データベースの内容を前記第3データベースの内容と同期的に一致させるように構成されている請求項18に記載のデータ処理装置。

【請求項 20】

表示部と、

前記第2測定装置の測定に関する表示画面を前記表示部に表示させる表示手段と、

を更に備え、

前記表示部によって表示される表示画面は、前記第1測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する外部のデータ処理装置の表示部に表示される画面と同一の画面構成である請求項12に記載のデータ処理装置。 20

【請求項 21】

表示部と、

前記第1測定装置又は第2測定装置の測定に関する表示画面を前記表示部に表示させる表示手段と、

を更に備え、

前記表示部によって表示される表示画面は、前記第1測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する外部のデータ処理装置の表示部に表示される画面と同一の画面構成である請求項13に記載のデータ処理装置。 30

【請求項 22】

検体に対して測定を行う測定装置であって、

測定データを処理する第1データ処理装置と、他の種類の測定装置の測定データを処理する第2データ処理装置とに接続されており、前記第1データ処理装置及び前記第2データ処理装置へ同時に測定データを送信する測定装置。

【請求項 23】

検体に対して測定を行う第1測定装置と、検体に対して前記第1測定装置とは異なる種類の測定を行う第2測定装置と、前記第1測定装置の測定データ及び当該測定データの処理結果の少なくともいずれか一方を格納する第1データベースを有し、前記第1測定装置の測定データを処理するデータ処理装置とに接続され、前記第1データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第2データベースを備えるコンピュータを、前記第2測定装置の測定データを取得し、当該測定データを処理するように機能させるためのアプリケーションプログラムであって、 40

前記コンピュータを、前記第2データベースの内容を前記第1データベースの内容と同期的に整合させる整合手段として機能させるためのアプリケーションプログラム。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、測定装置の測定データを処理するデータ処理装置を二重化し、データ処理の信頼性を高める分析システム、当該分析システムに使用されるデータ処理装置及び測定装 50

置、並びにコンピュータをデータ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

血液分析装置、尿分析装置、粒子分析装置といった血液検体、尿検体、又は粒子検体等の様々な性状についての項目を測定する測定装置が知られている。この種の測定装置は、測定データを処理し、また測定結果、解析結果を管理することが必要となるため、かかる用途に用いられるアプリケーションプログラムがインストールされたコンピュータによって構成されるデータ処理装置を測定装置とは別に設け、このデータ処理装置に測定データの処理、並びに測定結果の表示及び管理を行わせる構成となっていることが多い（例えば、特許文献1参照）。

10

【0003】

特許文献2には、2つの自動分析装置と主操作部（データ処理装置）と副操作部（データ処理装置）とが同一ネットワーク上に接続されており、主操作部に異常が発生し、処理を正常に行えなくなった場合に、副操作部が主操作部に代わって処理を行うことにより、信頼性を向上させたシステムが開示されている。この特許文献2に開示されたシステムでは、主操作部のデータベースと副操作部のデータベースとをミラーリングして、主操作部が故障した場合にもシステムの復旧を可能としている。

【0004】

【特許文献1】特開2003-202346号公報

20

【特許文献2】特開2002-90369号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、特許文献2に開示されたシステムにあっては、2つの自動分析装置は、共に濃度や活性値などに変換するための検量線に基づき、測定した反応液の吸光度や吸光度変化量から検体の濃度を算出するものであり、同一種類の自動分析装置である。したがって、主操作部及び副操作部は同一種類の自動分析装置用のデータ処理機能を有している。このように1つのシステム中に同一種類のデータ処理装置が設けられていても、一方のデータ処理装置（主操作部）を使用すれば通常の目的は達成されるため、他方のデータ処理装置（副操作部）は通常用いられることはなく、副操作部がデータ処理装置として機能するのは、主に主操作部に異常が生じた場合であり、副操作部がデータ処理装置としての機能を有していても、その機能を十分に活用できていたとはいえなかった。

30

【0006】

本発明は、かかる事情に鑑みてなされたものであり、システムの信頼性を確保することができると共に、複数のデータ処理装置の機能を夫々十分に活用することができる分析システム、データ処理装置、測定装置、及びアプリケーションプログラムを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

40

本発明に係る分析システムは、検体に対して測定を行う第1測定装置と、検体に対して前記第1測定装置とは異なる種類の測定を行う第2測定装置と、前記第1測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する第1データ処理装置と、前記第2測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する第2データ処理装置とを備え、前記第1データ処理装置は、前記第1測定装置の測定データ及び当該測定データの処理結果の少なくともいずれか一方を格納する第1データベースを備え、前記第2データ処理装置は、前記第1データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第2データベースを備え、前記第2データベースの内容を前記第1データベースの内容と同期的に整合させるように構成されていることを特徴とする。

【0008】

50

かかる構成とすることにより、第1データベース及び第2データベースの内容を整合させてデータベースを二重化するためシステムの信頼性が向上する。また、第1測定装置と第2測定装置とは異なる種類の測定装置であり、第1測定装置用の第1データ処理装置と、第2測定装置用の第2データ処理装置とは異なるデータ処理装置であるため、第1データ処理装置及び第2データ処理装置の夫々の機能を十分に活用することができる。

【0009】

上記発明においては、前記第2データ処理装置は、前記第1測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理するように構成されていることが好ましい。これにより、第2データ処理装置によって第1測定装置に関するデータ処理を実行することができるため、第1データ処理装置が故障等によって使用することができなくなったときでも、第2データ処理装置を使用して第1測定装置による測定を行うことができる。

10

【0010】

上記発明においては、前記第2データベースは、前記第1データベースと同一内容のデータベースであり、前記第2データ処理装置は、前記第2データベースの内容を前記第1データベースの内容と同期的に一致させるように構成されていてもよい。

【0011】

上記発明においては、前記第1測定装置を、測定データを前記第1データ処理装置及び前記第2データ処理装置へ同時に送信するように構成することが可能であるし、前記第1データ処理装置を、前記第1測定装置から受信した測定データを前記第2データ処理装置へ送信するように構成することも可能である。これにより、第1測定装置の測定データを第2データ処理装置へ確実に送信することができ、かかる測定データを使用して第1データベースと第2データベースとを整合させることができる。

20

【0012】

上記発明においては、前記第1データ処理装置を、前記測定データを処理した場合に、処理結果データを前記第2データ処理装置へ送信するように構成することが可能である。これにより、第2データ処理装置がかかる処理結果データを使用して第2データベースを更新し、第1データベースと第2データベースとを整合させることができる。

【0013】

上記発明においては、前記第1データ処理装置を、前記第1データベースを更新した場合に、更新前と更新後との差分データを生成し、当該差分データを前記第2データ処理装置へ送信するように構成し、前記第2データ処理装置を、前記差分データを受信した場合に、当該差分データにより前記第2データベースを更新するように構成することも可能である。

30

【0014】

上記発明においては、前記第1データ処理装置は、前記第1測定装置の設定に使用する第3データベースを更に備え、前記第2データ処理装置は、前記第3データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第4データベースを更に備え、前記第4データベースの内容を前記第3データベースの内容と同期的に整合させるように構成されていることが好ましい。これにより、測定装置の設定用のデータベースを二重化することができ、より一層システムの信頼性が向上する。

40

【0015】

上記発明においては、前記第4データベースは、前記第3データベースと同一内容のデータベースであり、前記第2データ処理装置は、前記第4データベースの内容を前記第3データベースの内容と同期的に一致させるように構成されていてもよい。

【0016】

上記発明においては、前記第1データ処理装置は、第1表示部と、前記第1測定装置の測定に関する第1画面を前記第1表示部に表示させる第1表示手段とを更に備え、前記第2データ処理装置は、第2表示部と、前記第2測定装置の測定に関する画面であって、前記第1画面と同一の画面構成の第2画面を前記第2表示部に表示させる第2表示手段とを更に備える構成とすることが好ましい。また、上記発明においては、前記第1データ処理

50

装置は、第 1 表示部と、前記第 1 測定装置の測定に関する第 1 画面を前記第 1 表示部に表示させる第 1 表示手段とを更に備え、前記第 2 データ処理装置は、第 2 表示部と、前記第 1 測定装置又は前記第 2 測定装置の測定に関する画面であって、前記第 1 画面と同一の画面構成の第 2 画面を前記第 2 表示部に表示させる第 2 表示手段とを更に備える構成とすることも可能である。

【0017】

かかる構成とすることにより、夫々の測定装置の表示画面が共通のユーザインタフェースとなり、ユーザの利便性が向上する。また、データ処理装置の多くの部分の設計を共通化することができるため、開発効率が向上する。

【0018】

本発明に係るデータ処理装置は、検体に対して測定を行う第 1 測定装置と、検体に対して前記第 1 測定装置とは異なる種類の測定を行う第 2 測定装置とに接続されており、前記第 2 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理するデータ処理装置であって、前記第 1 測定装置の測定データ及び当該測定データの処理結果の少なくともいずれか一方を格納する外部の第 1 データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第 2 データベースを備え、前記第 2 データベースの内容を前記第 1 データベースの内容と同期的に整合させるように構成されていることを特徴とする。

【0019】

かかる構成とすることにより、データベースを二重化するためシステムの信頼性が向上する。また、かかるデータ処理装置は第 2 測定装置用のものであり、第 1 測定装置用のデータ処理装置が外部に設けられていたとしても、夫々のデータ処理装置の機能は異なるものであるため、夫々のデータ処理装置の機能を十分に活用することができる。

【0020】

上記発明においては、前記第 1 測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理するように構成されていることが好ましい。これにより、かかるデータ処理装置によって第 1 測定装置に関するデータ処理を実行することができるため、外部の第 1 測定装置用のデータ処理装置が故障等によって使用することができなくなったときでも、このデータ処理装置を使用して第 1 測定装置による測定を行うことができる。

【0021】

上記発明においては、前記第 2 データベースは、前記第 1 データベースと同一内容のデータベースであり、前記第 2 データベースの内容を前記第 1 データベースの内容と同期的に一致させるように構成されていてもよい。

【0022】

上記発明においては、前記第 1 測定装置の測定データを外部から受信する受信部と、当該受信部によって受信された測定データにより前記第 2 データベースを更新する更新手段とを更に備える構成とすることが可能である。また、上記発明においては、前記第 1 データベースを更新した場合の更新前と更新後との差分データを外部から受信する受信部と、当該受信部によって受信された差分データにより前記第 2 データベースを更新する更新手段とを更に備える構成とすることが可能である。これにより、かかる測定データを使用して第 1 データベースと第 2 データベースとを整合させることができる。

【0023】

上記発明においては、前記第 1 測定装置の設定に使用する第 3 データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第 4 データベースを更に備え、前記第 4 データベースの内容を前記第 3 データベースの内容と同期的に整合させるように構成されていることが好ましい。また、この場合には、前記第 4 データベースは、前記第 3 データベースと同一内容のデータベースであり、前記第 4 データベースの内容を前記第 3 データベースの内容と同期的に一致させるように構成されていてもよい。これにより、測定装置の設定用のデータベースを二重化することができ、より一層システムの信頼性が向上する。

【0024】

上記発明においては、表示部と、前記第 2 測定装置の測定に関する表示画面を前記表示

10

20

30

40

50

部に表示させる表示手段とを更に備え、前記表示部によって表示される表示画面は、前記第1測定装置から測定データを取得し、当該測定データを処理する外部のデータ処理装置の表示部に表示される画面と同一の画面構成であることが好ましい。また、この場合においては、前記第1測定装置又は第2測定装置の測定に関する表示画面を前記表示部に表示させる構成とすることもできる。

【0025】

かかる構成とすることにより、夫々の測定装置の表示画面が共通のユーザインタフェースとなり、ユーザの利便性が向上する。また、データ処理装置の多くの部分の設計を共通化することができるため、開発効率が向上する。

【0026】

本発明に係る測定装置は、検体に対して測定を行う測定装置であって、測定データを処理する第1データ処理装置と、他の種類の測定装置の測定データを処理する第2データ処理装置とに接続されており、前記第1データ処理装置及び前記第2データ処理装置へ同時に測定データを送信することの特徴とする。

【0027】

かかる構成とすることにより、測定データを使用して第1データ処理装置のデータベースと第2データ処理装置のデータベースとを整合させることができる。

【0028】

本発明に係るアプリケーションプログラムは、検体に対して測定を行う第1測定装置と、検体に対して前記第1測定装置とは異なる種類の測定を行う第2測定装置と、前記第1測定装置の測定データ及び当該測定データの処理結果の少なくともいずれか一方を格納する第1データベースを有し、前記第1測定装置の測定データを処理するデータ処理装置とに接続され、前記第1データベースと同一内容を少なくとも一部に含む第2データベースを備えるコンピュータを、前記第2測定装置の測定データを取得し、当該測定データを処理するように機能させるためのアプリケーションプログラムであって、前記コンピュータを、前記第2データベースの内容を前記第1データベースの内容と同期的に整合させる整合手段として機能させることを特徴とする。

【0029】

かかる構成とすることにより、第1データベース及び第2データベースの内容を整合させてデータベースを二重化するためシステムの信頼性が向上する。また、第1測定装置と第2測定装置とは異なる種類の測定装置であり、第1測定装置用のデータ処理装置と、コンピュータによって実現される第2測定装置用のデータ処理装置とは異なるデータ処理装置であるため、夫々のデータ処理装置の機能を十分に活用することができる。

【発明の効果】

【0030】

本発明に係る分析システム、データ処理装置、測定装置、及びアプリケーションプログラムによれば、システムの信頼性を確保することができると共に、複数のデータ処理装置の機能を夫々十分に活用することが可能となる等、本発明は優れた効果を奏する。

【発明を実施するための最良の形態】

【0031】

以下、本発明の実施の形態に係る分析システム、データ処理装置、測定装置、及びアプリケーションプログラムについて、図面を参照しながら具体的に説明する。

（実施の形態1）

図1は、本発明の実施の形態1に係る分析システムの構成を示す模式図である。図1に示すように、本実施の形態1に係る分析システム1は、血球分析装置2a、2bと、血球分析装置2a、2b用のデータ処理装置3と、血液凝固測定装置4a、4bと、血液凝固測定装置4a、4b用のデータ処理装置5と、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bの全てに用いられるデータ処理装置6と、患者データ管理用のデータベースサーバ7とを主要な構成要素として構成されている。血球分析装置2a、2b、データ処理装置3、血液凝固測定装置4a、4b、データ処理装置5、データ処理装置6、及び

10

20

30

40

50

データベースサーバ7は、例えば、病院または病理検査施設等の医療機関の施設内に設けられている。また、例えば、血球分析装置2a、2b、データ処理装置3、血液凝固測定装置4a、4b、データ処理装置5、及びデータ処理装置6は、病理検査施設に設けられており、データベースサーバ7は、病院に設けられている等、分析システム1を構成する装置が複数の施設に別個に設けられていてもよい。また、血球分析装置2a、2b、データ処理装置3、血液凝固測定装置4a、4b、データ処理装置5、データ処理装置6、及びデータベースサーバ7は、互いにデータ通信が可能であるように、電話回線を使用した専用回線、LAN、またはインターネット等である通信ネットワークNWによって接続されている。

【0032】

図2は、血球分析装置2a及びデータ処理装置3の外観構成を示す斜視図である。血球分析装置2a、2bは、血液検査に使用される装置であり、血液検体中に含まれる成分について所定の測定を行うことが可能であるように構成されている。図2では、一方の血球分析装置2aのみを図示しているが、本実施の形態1に係る分析システム1では、同一構成の2つの血球分析装置2a、2bがデータ処理装置3にデータの送受信が可能であるように接続されている。図3は、血球分析装置2a(2b)の構成を示すブロック図である。血球分析装置2a(2b)は、光学式検出部21と、RBC検出部22と、HGB検出部23と、IMI検出部24と、制御部25と、通信部28とを主要な構成要素として構成されている。制御部25は、CPU、ROM、RAM等から構成されており、血球分析装置2aの各種構成要素の動作制御を行うようになっている。通信部28は、例えばEthernet(登録商標)インタフェースであり、データ処理装置3、5、6との間でデータの送受信を行うことが可能である。

【0033】

光学式検出部21は、白血球、有核赤血球、網赤血球を半導体レーザによるフローサイトメトリ法により測定することが可能である。図4は、光学式検出部21の構成を示す模式図である。血球分析装置2aは、図示しない試料供給部を有しており、当該試料供給部によって血液試料が吸引定量され、規定倍率で希釈、染色される。光学式検出部21には、シースフローセル21aが設けられており、前記試料供給部からシースフローセル21aに試料が供給されるようになっている。また、光学式検出部21には、図示しないシース液チャンバが設けられており、このシース液チャンバに貯められたシース液が、シースフローセル21aへと供給されるように構成されている。シースフローセル21aでは、シース液に取り囲まれるように試料が流れるようになっている。シースフローセル21aにはオリフィス21bが設けられており、このオリフィス21bによって試料の流れが細く絞り込まれ、試料に含まれる白血球、赤血球等の粒子が一つずつオリフィス21bを通過することとなる。

【0034】

光学式検出部21には、半導体レーザ光源が、シースフローセル21aのオリフィス21bへ向けてレーザ光を出射するように配置されている。半導体レーザ光源とシースフローセル21aとの間には、複数のレンズからなる照射レンズ系21cが配されている。この照射レンズ系21cによって、半導体レーザ光源から出射された平行ビームがビームストップ21dに集束されるようになっている。また、半導体レーザ光源からのレーザ光の光軸上には、シースフローセル21aを挟んで照射レンズ系21cに対向するように、ビームストップ21dが設けられた前方散乱光集光レンズ21eが配されており、半導体レーザ光源からの直接光はビームストップ21dによって遮光される。

【0035】

シースフローセル21aに試料が流れると、レーザ光により散乱光及び蛍光の光信号が発生する。このうち前方の信号光を前方散乱光集光レンズ21eで集めて後段の受光系に送るようになっている。受光系には、ピンホール21fが設けられており、さらに光軸下流側にはフォトダイオード21gが設けられている。前方散乱光集光レンズ21eから送られた信号光は、ピンホール21fによって迷光(測定以外の光)が除去された後、フォ

10

20

30

40

50

トダイオード 21g で光電変換され、これによって生じた電気信号（前方散乱光信号）がアンプ 21h によって増幅され、制御部 25 に出力される。かかる前方散乱光信号は、血球の大きさを反映しており、制御部 25 がこの前方散乱光信号を信号処理することによって、血球の大きさ等を得るようになっている。

【0036】

また、シースフローセル 21a の側方であって、照射レンズ系 21c 及び前方散乱光集光レンズ 21e を結ぶ光軸に対して直行する方向には、側方集光レンズ 21i が配されており、シースフローセル 21a 内を通過する血球に半導体レーザを照射したときに発生する側方光がこの側方集光レンズ 21i で集められるようになっている。側方集光レンズ 21i の下流側にはダイクロイックミラー 21j が設けられており、側方集光レンズ 21i から送られた信号光は、ダイクロイックミラー 21j で散乱光成分と蛍光成分とに分けられる。ダイクロイックミラー 21j の側方（側方集光レンズ 21i とダイクロイックミラー 21j を結ぶ光軸方向に交差する方向）には、側方散乱光受光用の光電子増倍管 21k が設けられており、ダイクロイックミラー 21j の前記光軸下流側には、光学フィルタ 21m、ピンホール 21n、及び光電子増倍管 21o が設けられている。そして、ダイクロイックミラー 21j で分けられた側方散乱光成分は、光電子増倍管 21k で光電変換され、これによって生じた電気信号（側方散乱光信号）がアンプ 21p によって増幅され、制御部 25 に出力される。この側方散乱光信号は、血球の内部情報（核の大きさ等）を反映しており、制御部 25 がこの側方散乱光信号を信号処理することによって、血球の核の大きさ等を得るようになっている。また、ダイクロイックミラー 21j から発せられた側方蛍光成分は光学フィルタ 21m によって波長選択された後、光電子増倍管 21o で光電変換され、これによって生じた電気信号（側方蛍光信号）がアンプ 21q によって増幅され、制御部 25 に出力される。この側方蛍光信号は、血球の染色度合いに関する情報を反映しており、この側方蛍光信号を信号処理することによって、血球の染色性等を得るようになっている。

【0037】

RBC 検出部 22 は、赤血球数及び血小板数を、シースフロー DC 検出法により測定することが可能である。図 5 は、RBC 検出部 22 の構成を示す模式図である。RBC 検出部 22 は、図 5 に示すようなシースフローセル 22a を有している。このシースフローセル 22a には、上方へ向けて開口した試料ノズル 22b が設けられており、試料供給部からこの試料ノズル 22b に試料が供給されるようになっている。また、シースフローセル 22a は、上方へ向かうにしたがって細くなっているテーパ状のチャンバ 22c を有しており、このチャンバ 22c の内部中央に前述した試料ノズル 22b が配されている。また、チャンバ 22c の上端には、アパーチャ 22d が設けられており、このアパーチャ 22d は、試料ノズル 22b と中心位置が合わせられている。試料供給部から供給された試料は、試料ノズル 22b の先端から上方へ向けて送出され、それと同時にチャンバ 22c にはフロントシース液が供給され、フロントシース液がアパーチャ 22d へ向けて上方へと流れる。ここで、フロントシース液に取り囲まれるように試料が流れ、テーパ状のチャンバ 22c によって試料の流れが細く絞り込まれて、試料中の血球が一つずつアパーチャ 22d を通過することとなる。アパーチャ 22d には電極が設けられており、この電極間に直流電流が供給されるようになっている。そして、試料がアパーチャ 22d を通流するときのアパーチャ 22d における直流抵抗の変化を検出し、この電気信号を制御部 25 へ出力するようになっている。前記直流抵抗は、アパーチャ 22d を血球が通過するときに増大するため、この電気信号はアパーチャ 22d の血球の通過情報を反映しており、この電気信号を信号処理することによって、赤血球及び血小板を計数するようになっている。

【0038】

また、アパーチャ 22d の上方には、上下に延びた回収管 22e が設けられている。また、この回収管 22e は、アパーチャ 22d を介してチャンバ 22c と連なるチャンバ 22f の内部に配されている。回収管 22e の下端部は、チャンバ 22f の内壁から離隔している。チャンバ 22f は、バックシース液が供給されるようになっており、このバック

シース液は、チャンバ 2 2 f の回収管 2 2 e の外側領域を下方へ向けて通流する。回収管 2 2 e の外側を流れるバックシース液は、チャンバ 2 2 f の下端部に到達した後、回収管 2 2 e の下端部とチャンバ 2 2 f の内壁との間を通り、回収管 2 2 e の内部へと流入する。このため、アパーチャ 2 2 d を通過した血球の舞い戻りが防止され、これにより血球の誤検出が防止される。

【 0 0 3 9 】

H G B 検出部 2 3 は、血色素量 (H G B) を、S L S ヘモグロビン法によって測定することが可能である。図 6 は、H G B 検出部 2 3 の構成を示す斜視図である。H G B 検出部 2 3 は、希釈試料を収容するセル 2 3 a と、セル 2 3 a へ向けて発光する発光ダイオード 2 3 b と、セル 2 3 a を透過した透過光を受光する受光素子 2 3 c とを有している。試料供給部では、定量された血液が希釈液及び所定の溶血剤によって所定希釈率で希釈され、希釈試料が作成される。この溶血剤は、血液中のヘモグロビンを S L S - ヘモグロビンへと転化する性質を有している。かかる希釈試料は、試料供給部からセル 2 3 a へと供給され、セル 2 3 a に収容される。この状態で、発光ダイオード 2 3 b を発光させ、セル 2 3 a を挟んで発光ダイオード 2 3 b に対向配置された受光素子 2 3 c にて透過光が受光される。発光ダイオード 2 3 b は、S L S - ヘモグロビンによる吸光率が高い波長の光を発するようになっており、また、セル 2 3 a は透光性の高いプラスチック材料で構成されているので、受光素子 2 3 c では、発光ダイオード 2 3 b の発光が略希釈試料によってのみ吸光された透過光が受光されることとなる。受光素子 2 3 c は、受光量 (吸光度) に応じた電気信号を制御部 2 5 へと出力するようになっており、制御部 2 5 では、この吸光度と予め測定された希釈液のみの吸光度とを比較し、ヘモグロビン値を算出するようになっている。

【 0 0 4 0 】

I M I 検出部 2 4 は、検体中の幼若球の出現度合いを R F / D C 検出法により測定することが可能である。図 7 は、I M I 検出部 2 4 の構成を示す模式図である。I M I 検出部 2 4 は、検出器チャンバ 2 4 a と、吸引チャンバ 2 4 b と、電極 2 4 c , 2 4 d に接続された直流電流供給回路 2 4 e と、電極 2 4 c , 2 4 d に接続された高周波電流供給回路 2 4 f とを有している。検出器チャンバ 2 4 a には、試料供給部によって吸引定量され、また所定倍率で希釈された血液試料が供給されるようになっている。また、検出器チャンバ 2 4 a と、吸引チャンバ 2 4 b とは隣接しており、両チャンバ 2 4 a , 2 4 b はアパーチャ 2 4 g を介して連通している。吸引チャンバ 2 4 b は、図示しないポンプに連通されており、このポンプによって希釈試料が吸引されるようになっている。吸引された希釈試料は、検出器チャンバ 2 4 a からアパーチャ 2 4 g を通って吸引チャンバ 2 4 b に流入する。また、電極 2 4 c は、検出器チャンバ 2 4 a 内に設けられており、電極 2 4 d は、吸引チャンバ 2 4 b 内に設けられている。直流電流供給回路 2 4 e は、抵抗 2 4 h と直流電源 2 4 i とが直列接続された回路であり、電極 2 4 c , 2 4 d 間に直流電流を供給するようになっている。したがって、希釈試料が前記ポンプで吸引されているときには、この希釈試料に含まれる血球がアパーチャ 2 4 g を通過し、このときに電極 2 4 c , 2 4 d 間の直流抵抗が変化することとなる。直流電流供給回路 2 4 e からは、この直流抵抗の変化を示す電気信号が制御部 2 5 に出力される。この直流抵抗の変化はアパーチャ 2 4 g を通過した血球の大きさ情報を反映しており、制御部 2 5 は、この電気信号を信号処理することによって、血球の大きさを得ることができるようになっている。

【 0 0 4 1 】

また、高周波電流供給回路 2 4 f は、コンデンサ 2 4 j と高周波電源 2 4 k とが直列接続された回路であり、電極 2 4 c , 2 4 d 間に高周波電流を供給するようになっている。したがって、希釈試料が前記ポンプで吸引されているときには、この希釈試料に含まれる血球がアパーチャ 2 4 g を通過し、このときに電極 2 4 c , 2 4 d 間の高周波抵抗が変化することとなる。高周波電流供給回路 2 4 f からは、この高周波抵抗の変化を示す電気信号が制御部 2 5 に出力される。この高周波抵抗の変化はアパーチャ 2 4 g を通過した血球の内部密度情報を反映しており、制御部 2 5 は、この電気信号を信号処理することによ

て、血球の内部密度を得ることができるようになっている。

【0042】

次に、データ処理装置3の構成について説明する。図8は、本発明の実施の形態1に係る血球分析装置2a、2b用のデータ処理装置3の構成を示すブロック図である。データ処理装置3は、本体31と、画像表示部32と、入力部33とから主として構成されたコンピュータ3aによって構成されている。本体31は、CPU31aと、ROM31bと、RAM31cと、ハードディスク31dと、読出装置31eと、入出力インタフェース31fと、通信インタフェース31gと、画像出力インタフェース31hとから主として構成されており、CPU31a、ROM31b、RAM31c、ハードディスク31d、読出装置31e、入出力インタフェース31f、通信インタフェース31g、および画像出力インタフェース31hは、バス31iによって接続されている。

10

【0043】

CPU31aは、ROM31bに記憶されているコンピュータプログラムおよびRAM31cにロードされたコンピュータプログラムを実行することが可能である。そして、後述するようなアプリケーションプログラム34aを当該CPU31aが実行することにより、コンピュータ3aがデータ処理装置3として機能する。

【0044】

ROM31bは、マスクROM、PROM、EPROM、EEPROM等によって構成されており、CPU31aに実行されるコンピュータプログラムおよびこれに用いるデータ等が記録されている。

20

【0045】

RAM31cは、SRAMまたはDRAM等によって構成されている。RAM31cは、ROM31bおよびハードディスク31dに記録されているコンピュータプログラムの読み出しに用いられる。また、これらのコンピュータプログラムを実行するときに、CPU31aの作業領域として利用される。

【0046】

ハードディスク31dは、オペレーティングシステムおよびアプリケーションプログラム等、CPU31aに実行させるための種々のコンピュータプログラムおよび当該コンピュータプログラムの実行に用いるデータがインストールされている。後述するアプリケーションプログラム34aも、このハードディスク31dにインストールされている。

30

【0047】

読出装置31eは、フレキシブルディスクドライブ、CD-ROMドライブ、またはDVD-ROMドライブ等によって構成されており、可搬型記録媒体34に記録されたコンピュータプログラムまたはデータを読み出すことができる。また、可搬型記録媒体34には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム34aが格納されており、コンピュータ3aが当該可搬型記録媒体34から本発明に係るアプリケーションプログラム34aを読み出し、当該アプリケーションプログラム34aをハードディスク31dにインストールすることが可能である。

【0048】

なお、前記アプリケーションプログラム34aは、可搬型記録媒体34によって提供されるのみならず、電気通信回線（有線、無線を問わない）によってコンピュータ3aと通信可能に接続された外部の機器から前記電気通信回線を通じて提供することも可能である。例えば、前記アプリケーションプログラム34aがインターネット上のサーバコンピュータのハードディスク内に格納されており、このサーバコンピュータにコンピュータ3aがアクセスして、当該コンピュータプログラムをダウンロードし、これをハードディスク31dにインストールすることも可能である。

40

【0049】

また、ハードディスク31dには、例えば米マイクロソフト社が製造販売するWindows（登録商標）等のグラフィカルユーザインタフェース環境を提供するオペレーティングシステムがインストールされている。以下の説明においては、本実施の形態1に係るアプリ

50

ケーションプログラム 34 a は当該オペレーティングシステム上で動作するものとしている。

【0050】

図 9 は、本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置 2 a , 2 b 用のアプリケーションプログラム 34 a の構成を示す模式図である。アプリケーションプログラム 34 a は、プレゼンテーション層 34 b と、ビジネスロジック層 34 c と、データアクセス層 34 d とを有する 3 階層アーキテクチャとなっている。プレゼンテーション層 34 b は、アプリケーションプログラム 34 a におけるユーザインタフェース部及び通信部に相当する階層であり、かかるプレゼンテーション層 34 b には、当該アプリケーションプログラム 34 a のウィンドウにおける基本的なパーツの表示を実行するための基本表示モジュール 35 a、血球分析装置 2 a , 2 b による測定結果を画像表示部 32 に表示するための測定結果表示モジュール 35 b、検体が異常であること、又は異常の疑いがあることを示す IP メッセージを表示するための IP メッセージ表示モジュール 35 c、精度管理画面を表示するための精度管理図チャート表示モジュール 35 d、及び血球分析装置 2 a , 2 b と通信するための通信モジュール 35 e 等が属している。

10

【0051】

また、ビジネスロジック層 34 c は、アプリケーションプログラム 34 a におけるデータの処理、加工部に相当する階層であり、かかるビジネスロジック層 34 c には、データの単位換算を行う単位換算モジュール、精度管理用グラフを表示するためのデータを作成する精度管理グラフ表示用データ作成モジュール等を含む各機種共通の共通ロジックモジュール 35 f、及び血球分析装置固有のデータ処理を実行するための血球分析ロジックモジュール 35 g 等が属している。

20

【0052】

また、データアクセス層 34 d は、アプリケーションプログラム 34 a におけるデータアクセス部に相当する階層であり、かかるデータアクセス層 34 d には、後述するデータベース DB 21 , DB 22 にアクセスするためのデータベースアクセスモジュール 35 h が属している。これらのプログラムモジュール 35 a ~ 35 h は、アプリケーションプログラムのコンポーネントであり、実行形式ファイル又はダイナミックリンクライブラリに含まれている。また、ここでは、アプリケーションプログラム 34 a を構成するプログラムモジュールとして、上記のプログラムモジュール 35 a ~ 35 h のみを記載しているが、これは説明を簡略化するために代表的なプログラムモジュールのみを示したものであって、実際にはこれら以外のプログラムモジュールも存在する。

30

【0053】

ここで、基本表示モジュール 35 a、精度管理図チャート表示モジュール 35 d、共通ロジックモジュール 35 f、及びデータベースアクセスモジュール 35 h は、血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラムと共用のプログラムモジュール（以下、共通モジュールという）であり、これに対して、測定結果表示モジュール 35 b、IP メッセージ表示モジュール 35 c、通信モジュール 35 e、及び血球分析ロジックモジュール 35 g は、血球分析装置用のアプリケーションプログラム特有のプログラムモジュール（以下、機種依存モジュールという）である。図 10 は、ハードディスク 31 d における共通モジュールおよび機種依存モジュールの格納状態を示す模式図である。図 10 に示すように、基本表示モジュール 35 a、精度管理図チャート表示モジュール 35 d、共通ロジックモジュール 35 f、及びデータベースアクセスモジュール 35 h は、一つのダイナミックリンクライブラリ 35 i に格納されている。また、測定結果表示モジュール 35 b、IP メッセージ表示モジュール 35 c、通信モジュール 35 e、及び血球分析ロジックモジュール 35 g は、もう一つのダイナミックリンクライブラリ 35 j に格納されている。即ち、共通モジュールと機種依存モジュールとは別々のダイナミックリンクライブラリ 35 i , 35 j に格納され、これらのダイナミックリンクライブラリ 35 i , 35 j がハードディスク 31 d に保存されている。このように共通モジュールと機種依存モジュールとが別々のファイル（ダイナミックリンクライブラリ）に格納されているので、共通モジュールに

40

50

についてはコンパイル、リンクの処理を行わずにバイナリデータであるダイナミックリンクライブラリの形式のまま他のアプリケーションプログラムに利用することができ、利便性、開発効率が向上する。なお、共通モジュールは、本実施の形態で説明したように一つのダイナミックリンクライブラリ 35 i に格納されていてもよいが、複数のダイナミックリンクライブラリに分割して格納されていてもよい。同様に、機種依存モジュールは、本実施の形態で説明したように一つのダイナミックリンクライブラリ 35 j に格納されていてもよいが、複数のダイナミックリンクライブラリに分割して格納されていてもよい。

【0054】

また、上述したようにアプリケーションプログラム 34 a は、プレゼンテーション層 34 b、ビジネスロジック層 34 c、およびデータアクセス層 34 d によって 3 階層に構成されており、プレゼンテーション層 34 b は、各測定装置によって異なるプログラムモジュールが多く属し、ビジネスロジック層 34 c は、測定原理が同一であって種類の異なる測定装置（例えば、血球分析装置の上位機種および下位機種）では共用するが、測定原理の異なる測定装置（例えば、血球分析装置および血液凝固測定装置）では共用することができないプログラムモジュールが多く属し、また、データアクセス層 34 d は、測定原理の異同を問わず、多種類の測定装置間で共用するプログラムモジュールが多く属するようになっている。このように、かかる階層はアプリケーションプログラムの部品の共用化のレベルに応じて分かれており、プログラムモジュールが共用化レベルで切り分けられているため、多機種間で効率的にプログラムモジュールを共用することができ、多機種のアプリケーションプログラムの開発をより一層効率化することが可能となる。

10

20

【0055】

また、ハードディスク 31 d には、データベース DB 21、DB 22 がインストールされている。データベース DB 21 は、検体番号及び血球分析装置 2 a、2 b の測定結果データを互いに対応付けて格納するためのリレーショナルデータベースである。血球分析装置 2 a、2 b の測定によって得られた測定結果データは、アプリケーションプログラム 34 a によってこのデータベース DB 21 に格納されるようになっている。また、アプリケーションプログラム 34 a は、データベース DB 21 にアクセスして、過去の測定結果データを読み出し、画像表示部 32 に表示させることが可能である。

【0056】

データベース DB 22 は、アプリケーションプログラム 34 a 及び血球分析装置 2 a、2 b の設定値を格納するためのデータベースである。かかるデータベース DB 22 は、各種の設定データを互いに対応付けて格納するためのリレーショナルデータベースである。アプリケーションプログラム 34 a は、複数のユーザによって使用されるマルチユーザ型のソフトウェアであり、ユーザ毎にアプリケーションプログラム 34 a の機能の使用権限を設定することができたり、ユーザ毎に異なる表示形式を設定することができるようになっている。したがって、このようなユーザ毎の設定値等が、データベース DB 22 に保存され、アプリケーションプログラム 34 a は、起動時にデータベース DB 22 の設定データを読み出し、これによりユーザ毎の設定に合わせた動作を実現している。

30

【0057】

アプリケーションプログラム 34 a は、起動時にデータベース DB 22 から設定データを読み出し、これらの設定データによってデータツリー T を構成する。図 11 及び図 12 は、データツリー T の一例を示す概念図である。データベース DB 22 は、アプリケーションプログラム 34 a 及び血球分析装置 2 a、2 b の設定データが格納されており、アプリケーションプログラム 34 a からは、設定データの読み出し、及び設定データの更新のためにアクセスされる。例えば、「項目“HGB”の表示単位は“g/dL”である。」という設定内容は、設定条件を示す第 1 データ“項目＝HGB”と、設定項目と設定値とが互いに関連づけられた第 2 データ“表示単位＝g/dL”とを含むデータセット（設定データ）で与えられる。また、「ユーザ名“Admin”はデータ変更権限を有する。」という設定内容は、設定条件を示す第 1 データ“ユーザ名＝Admin”と、設定項目と設定値とが互いに関連づけられた第 2 データ“データ変更権限＝有”とを含むデータセッ

40

50

トで与えられ、「ユーザ名“U s e r 1”はデータ変更権限を有さない。」という設定内容は、第1データ“ユーザ名=U s e r 1”と、第2データ“データ変更権限=無”とを含むデータセットで与えられる。夫々のデータセットは、このように複数のデータ(第1データ、第2データ)を含んでおり、同一のデータセットに含まれるデータ郡は、互いに関連付けられてデータベースD B 2 2に格納される。

【0058】

ここで、アプリケーションプログラム34aによってデータベースD B 2 2を使用する場合の動作について説明する。図13は、アプリケーションプログラム34aによる設定動作の流れを示すフローチャートである。ユーザがデータ処理装置3の画像表示部32の画面に表示されたアイコンをマウスでダブルクリックする等、アプリケーションプログラム34aの動作開始の指示をデータ処理装置3に入力した場合には、C P U 3 1 aは、この動作開始指示を受け付けて、アプリケーションプログラム34aを起動する(ステップS101)。次にC P U 3 1 aは、データベースD B 2 2から設定データ(データセット)を読み出し(ステップS102)、かかる設定データを加工する(ステップS103)。上述したように、各設定データは、設定条件を示す第1データと、設定項目と設定値とが互いに関連づけられた第2データとを含んでいる。このステップS103の処理では、かかるデータセットを、「設定項目」、「設定条件」、及び「設定値」に分解する加工を行う。つまり、“項目=H G B”、“表示単位=g / d L”のデータセットは、「設定項目」としてのデータ“表示単位”と、「設定条件」としてのデータ“項目=H G B”と、「設定値」としてのデータ“g / d L”とに加工される。同様に、“ユーザ名=A d m i n”、“データ変更権限=有”のデータセットは、「設定項目」としてのデータ“データ変更権限”と、「設定条件」としてのデータ“ユーザ名=A d m i n”と、「設定値」としてのデータ“有”とに加工され、“ユーザ名=U s e r 1”、“データ変更権限=無”のデータセットは、「設定項目」としてのデータ“データ変更権限”と、「設定条件」としてのデータ“ユーザ名=U s e r 1”と、「設定値」としてのデータ“無”とに加工される。加工後のデータは、C P U 3 1 aによってR A M 3 1 cに構成されたハッシュテーブルにセットされ(ステップS104)、これによって図11に示すようなデータツリーT1, T2が構成される。アプリケーションプログラム34aのデータベースアクセスモジュール35hは、かかるデータツリーT1, T2にアクセスして、例えば、“表示単位”、“項目=H G B”、“g / d L”の順に探索して、「設定項目」が“表示単位”であり、「設定条件」が“項目=H G B”である設定値データ“g / d L”を取得することができる。こうして、アプリケーションプログラム34aの設定動作が完了する。

【0059】

ここで、図11に示した例から、「ユーザ毎に各項目の表示単位を変更可能」とするようにアプリケーションプログラム34aの仕様を変更する場合について説明する。例えば、上記例から「ユーザ名“A d m i n”における表示項目“H G B”の表示単位は“g / d L”である。」という設定内容に夫々変更された場合、与えられるデータセットは、設定条件を示す第1データである“ユーザ名=A d m i n”及び“項目=H G B”と、設定項目と設定値とが互いに関連づけられた第2データである“表示単位=g / d L”とを含んでおり、「ユーザ名“U s e r 1”における表示項目“H G B”の表示単位は“g / L”である。」という設定内容に夫々変更された場合、与えられるデータセットは、第1データである“ユーザ名=U s e r 1”及び“項目=H G B”と、第2データである“表示単位=g / L”とを含んでいる。そして、アプリケーションプログラム34aが起動した場合には、“ユーザ名=A d m i n”、“項目=H G B”、“表示単位=g / d L”のデータセットは、「設定項目」としてのデータ“表示単位”と、「設定条件」としてのデータ“ユーザ名=A d m i n”及び“項目=H G B”と、「設定値」としてのデータ“g / d L”とに加工される。同様に、“ユーザ名=U s e r 1”、“項目=H G B”、“表示単位=g / L”のデータセットは、「設定項目」としてのデータ“表示単位”と、「設定条件」としてのデータ“ユーザ名=U s e r 1”及び“項目=H G B”と、「設定値」としてのデータ“g / L”とに加工される。加工後のデータは、ハッシュテーブルにセット

され、これによって図 1 2 に示すようなデータツリー T 1 1 , T 2 が構成されることとなる。このように、ルートノードを「設定項目」とし、中間ノードを「設定条件」とし、リーフノードを「設定値」としたツリーに設定データを展開することとしたので、「設定項目」毎に独立したデータツリーが構成されることとなる。例えば、「設定項目」が“表示単位”のデータツリー T 1 1 と、「設定項目」が“データ変更権限”のデータツリー T 2 は別々に構成されることとなる。したがって、上述したようにアプリケーションプログラム 3 4 a の“表示単位”の設定仕様が変更された場合には、「設定項目」が“表示単位”のデータツリー T 1 はデータツリー T 1 1 へと変更されるが、その変更は“データ変更権限”のデータツリー T 2 には影響を及ぼさない(図 1 2 参照)。したがって、アプリケーションプログラム 3 4 a のバージョンアップ等により、一部の設定仕様を変更する場合には、アプリケーションプログラム 3 4 a のうち、変更されるデータツリーに関する部分のみを変更すればよく、開発工数を抑制することができる。また、かかる変更後のデータツリー T 1 1 は、データベースの構造自体は変更されないの、データベースアクセスモジュール 3 5 h を何ら変更しなくても、アプリケーションプログラム 3 4 a からアクセスすることが可能である。したがって、このように、設定値の仕様を変更した場合にも、アプリケーションプログラム 3 4 a の変更を最小限に抑えることができ、利便性、開発効率が向上する。

10

【0060】

入出力インタフェース 3 1 f は、例えば USB , IEEE1394 , RS-232C 等のシリアルインタフェース、SCSI , IDE , IEEE1284 等のパラレルインタフェース、および D / A 変換器、A / D 変換器等からなるアナログインタフェース等から構成されている。入出力インタフェース 3 1 f には、キーボードおよびマウスからなる入力部 3 3 が接続されており、ユーザが当該入力部 3 3 を使用することにより、コンピュータ 3 a にデータを入力することが可能である。

20

【0061】

通信インタフェース 3 1 g は、例えば Ethernet (登録商標) インタフェースであり、データ処理装置 3 は、当該通信インタフェース 3 1 g により、所定の通信プロトコルを使用して通信ネットワーク NW に接続された血球分析装置 2 a , 2 b 、血液凝固測定装置 4 a , 4 b 、データ処理装置 5 , 6 、及びデータベースサーバ 7 の夫々との間でデータの送受信が可能である。

30

【0062】

画像出力インタフェース 3 1 h は、LCD または CRT 等で構成された画像表示部 3 2 に接続されており、CPU 3 1 a から与えられた画像データに応じた映像信号を画像表示部 3 2 に出力するようになっている。画像表示部 3 2 は、入力された映像信号にしたがって、画像(画面)を表示する。

【0063】

次に、血液凝固測定装置 4 a , 4 b の構成について説明する。図 1 4 は、血液凝固測定装置 4 a (4 b) の構成を示すブロック図である。血液凝固測定装置 4 a (4 b) は、測定部 4 1 と、制御部 4 2 と、通信部 4 5 とを主要な構成要素として構成されている。制御部 4 2 は、CPU , ROM , RAM 等から構成されており、血液凝固測定装置 4 a の各種構成要素の動作制御を行うようになっている。通信部 4 5 は、例えば Ethernet (登録商標) インタフェースであり、データ処理装置 3 , 5 , 6 との間でデータの送受信を行うことが可能である。

40

【0064】

測定部 4 1 は、発光ダイオード 4 1 a と、ハロゲンランプ 4 1 b と、光学フィルタ 4 1 c と、光ファイバ 4 1 d と、フォトダイオード 4 1 e , 4 1 f とを有しており(図 1 5 及び図 1 6 参照)、また図示しないヒータを有している。かかる測定部 4 1 は、生物活性法を利用して血液の凝固時間を測定することが可能であり、また、合成基質法を利用して、血漿に特定の試薬及び発色性合成基質を添加したときの吸光度変化量を測定することが可能であり、また、免疫比濁法を利用して、血漿又は血清に安定化試薬及び抗体感作試薬を

50

添加したときの吸光度変化量を測定することが可能であるように構成されている。

【0065】

図15は、生物活性法による測定原理を説明するための模式図である。図15に示すように、測定部41では、発光ダイオード41aが試料を収容するキュベット41gへ向けて発光するように配置されている。また、キュベット41gの側方には、受光面がキュベット41gへと向けられてフォトダイオード41eが配置されており、このフォトダイオード41eの受光光軸方向は、発光ダイオード41aの発光光軸に対して水平方向に約90度をなしている。発光ダイオード41aは、約660nmの波長の光を発するようになっている。定量された血漿がキュベット41gに収容され、一定時間ヒータによって加温された後、凝固試薬が添加される。この後、発光ダイオード41aから試料へ向けて光が照射され、試料による散乱光がフォトダイオード41eで受光される。この受光量は、試料の濁度を表しており、試薬を添加した直後の試料は散乱光が弱く（濁度が低く）、受光量の変化はほとんどないが、反応が進むにつれて試料中にフィブリン塊が形成され始め、それに伴って試料が白濁して散乱光が急速に増加する。凝固反応が終了すると散乱光の増加はなくなり、一定の受光レベルになる。フォトダイオード41eは、受光量に応じた電気信号を出力するようになっており、この電気信号が制御部42に与えられるようになっている。制御部42では、この受光量データから試料の凝固時間を算出するようになっており、また、この凝固時間から特定の血液成分の濃度又は活性パーセントを演算することができるようになっている。

10

【0066】

図16は、合成基質法及び免疫比濁法による測定原理を説明するための模式図である。図16に示すように、測定部41では、ハロゲンランプ41bがキュベット41gへ向けて発光するように配置されている。ハロゲンランプ41bとキュベット41gとの間には、光学フィルタ41cと光ファイバ41dとが配されており、ハロゲンランプ41bから照射された光が光学フィルタ41cによって800nm、575nm、405nmの3つの波長に分光され、分光された光が光ファイバ41dを通じて試料に照射されるようになっている。キュベット41gに対向するようにフォトダイオード41fが配置されており、試料を透過した光はこのフォトダイオード41fに到達し、フォトダイオード41fが受光を電気信号へ変換して制御部42へ出力するようになっている。制御部42は、この受光量データから吸光度変化量を算出し、また、前記吸光度変化量、及び吸光度変化量と特定の血液成分の濃度又は活性パーセントとの関係を示す検量線に基づいて、特定の血液成分の濃度又は活性パーセントを演算することができるようになっている。A T I I I（アンチトロンビンI I I）、2 P I（2 - アンチプラスミン）等を合成基質法により測定する場合には、血漿を一定時間ヒータにより加温した後に、発色性合成基質を添加し、405nmの光を照射して、このときの吸光度変化を測定する。また、F D P（フィブリン分解産物）、D - Dダイマー等を免疫比濁法により測定する場合には、試料（血漿又は血清）を一定時間ヒータにより加温した後に、安定化試薬、抗体感作試薬を添加し、575nm又は800nmの光を照射して、このときの吸光度変化を測定する。

20

30

【0067】

次に、データ処理装置5の構成について説明する。図17は、本発明の実施の形態1に係る血液凝固測定装置4a、4b用のデータ処理装置5の構成を示すブロック図である。図17に示すように、データ処理装置5は、本体51と、画像表示部52と、入力部53とから主として構成されたコンピュータ5aによって構成されている。本体51は、C P U 5 1 aと、R O M 5 1 bと、R A M 5 1 cと、ハードディスク51dと、読出装置51eと、入出力インタフェース51fと、通信インタフェース51gと、画像出力インタフェース51hとから主として構成されており、C P U 5 1 a、R O M 5 1 b、R A M 5 1 c、ハードディスク51d、読出装置51e、入出力インタフェース51f、通信インタフェース51g、および画像出力インタフェース51hは、バス51iによって接続されている。C P U 5 1 a、R O M 5 1 b、R A M 5 1 c、読出装置51e、入出力インタフェース51f、通信インタフェース51g、及び画像出力インタフェース51hの構成は

40

50

、上述したCPU 31 a、ROM 31 b、RAM 31 c、読出装置 31 e、入出力インタフェース 31 f、通信インタフェース 31 g、及び画像出力インタフェース 31 hの構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0068】

読出装置 51 eによってデータの読み出しが可能な可搬型記録媒体 54 には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム 54 aが格納されており、コンピュータ 5 aが当該可搬型記録媒体 54 から本発明に係るアプリケーションプログラム 54 aを読み出し、当該アプリケーションプログラム 54 aをハードディスク 51 dにインストールすることが可能である。なお、前述したアプリケーションプログラム 34 aと同様に、アプリケーションプログラム 54 aは、可搬型記録媒体 54 によって提供されるのみならず、電気通信回線（有線、無線を問わない）によってコンピュータ 5 aと通信可能に接続された外部の機器から前記電気通信回線を通じて提供することも可能である。

10

【0069】

ハードディスク 51 dには、例えば米マイクロソフト社が製造販売するWindows（登録商標）等のグラフィカルユーザインタフェース環境を提供するオペレーティングシステム、及びアプリケーションプログラム 54 aがインストールされている。以下の説明においては、本実施の形態 1に係るアプリケーションプログラム 54 aは前記オペレーティングシステム上で動作するものとしている。

【0070】

20

図 18 は、本発明の実施の形態 1に係る血液凝固測定装置 4 a、4 b用のアプリケーションプログラム 54 aの構成を示す模式図である。アプリケーションプログラム 54 aは、アプリケーションプログラム 34 aと同様に、プレゼンテーション層 54 bと、ビジネスロジック層 54 cと、データアクセス層 54 dとを有する 3 階層アーキテクチャとなっている。プレゼンテーション層 54 bは、アプリケーションプログラム 54 aにおけるユーザインタフェース部及び通信部に相当する階層であり、かかるプレゼンテーション層 54 bには、当該アプリケーションプログラム 54 aのウィンドウにおける基本的なパーツの表示を実行するための基本表示モジュール 35 a、血液凝固測定装置 4 a、4 bによる測定結果を画像表示部 52に表示するための測定結果表示モジュール 55 b、測定結果の演算に用いられる検量線を表示するための検量線表示モジュール 55 c、精度管理画面を表示するための精度管理図チャート表示モジュール 35 d、及び血液凝固測定装置 4 a、4 bと通信するための通信モジュール 55 e等が属している。

30

【0071】

また、ビジネスロジック層 54 cは、アプリケーションプログラム 54 aにおけるデータの処理、加工部に相当する階層であり、かかるビジネスロジック層 54 cには、データの単位換算を行う単位換算モジュール、精度管理用グラフを表示するためのデータを作成する精度管理グラフ表示用データ作成モジュール等を含む各機種共通の共通ロジックモジュール 35 f、及び血液凝固測定装置固有のデータ処理を実行するための血液凝固測定ロジックモジュール 55 g等が属している。

【0072】

40

また、データアクセス層 54 dは、アプリケーションプログラム 54 aにおけるデータアクセス部に相当する階層であり、かかるデータアクセス層 54 dには、後述するデータベース DB 41、DB 42にアクセスするためのデータベースアクセスモジュール 35 hが属している。これらのプログラムモジュール 35 a、35 d、35 f、35 h、55 b、55 c、55 e、55 gは、アプリケーションプログラムのコンポーネントであり、実行形式ファイル又はダイナミックリンクライブラリに含まれている。また、ここでは、アプリケーションプログラム 54 aを構成するプログラムモジュールとして、上記のプログラムモジュール 35 a、35 d、35 f、35 h、55 b、55 c、55 e、55 gのみを記載しているが、これは説明を簡略化するために代表的なプログラムモジュールのみを示したものであって、実際にはこれら以外のプログラムモジュールも存在する。

50

【 0 0 7 3 】

上述したように、基本表示モジュール 3 5 a、精度管理図チャート表示モジュール 3 5 d、共通ロジックモジュール 3 5 f、及びデータベースアクセスモジュール 3 5 h は、血球分析装置用のアプリケーションプログラムと共用の共通モジュールであり、これに対して、測定結果表示モジュール 5 5 b、検量線表示モジュール 5 5 c、通信モジュール 5 5 e、及び血液凝固測定ロジックモジュール 5 5 g は、血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラム特有の機種依存モジュールである。

【 0 0 7 4 】

また、上述したアプリケーションプログラム 3 4 a と同様に、アプリケーションプログラム 5 4 a の共通モジュールと機種依存モジュールとは別々のダイナミックリンクライブラリに格納されている。また、アプリケーションプログラム 5 4 a の共通モジュールは、1 つのダイナミックリンクライブラリ 3 5 i に格納されており、機種依存モジュールは、他の 1 つのダイナミックリンクライブラリに格納されている（図示せず）。また、共通モジュールのダイナミックリンクライブラリは、血球分析装置用のアプリケーションプログラム 3 4 a のダイナミックリンクライブラリ 3 5 i と同一のものである。これにより、ダイナミックリンクライブラリ 3 5 i は、新たに開発する必要はなく、アプリケーションプログラム 3 4 a のダイナミックリンクライブラリ 3 5 i のコピーをハードディスク 5 1 d 内の所定の格納場所（ディレクトリ）に格納するだけで、アプリケーションプログラム 5 4 a に流用することができる。なお、共通モジュールは、一つのダイナミックリンクライブラリに格納されていてもよいし、複数のダイナミックリンクライブラリに分割して格納されていてもよく、また機種依存モジュールは、一つのダイナミックリンクライブラリに格納されていてもよいし、複数のダイナミックリンクライブラリに分割して格納されていてもよい。

【 0 0 7 5 】

また、ハードディスク 5 1 d には、データベース D B 4 1 , D B 4 2 がインストールされている。データベース D B 4 1 は、検体番号及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定結果データを互いに対応付けて格納するためのリレーショナルデータベースである。このデータベース D B 4 1 は、データベース D B 2 1 と同様のスキーマで構成されており、血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定によって得られた測定結果データは、アプリケーションプログラム 5 4 a によってこのデータベース D B 4 1 に格納されるようになっている。また、アプリケーションプログラム 5 4 a は、データベース D B 4 1 にアクセスして、過去の測定結果データを読み出し、画像表示部 5 2 に表示させることが可能である。

【 0 0 7 6 】

データベース D B 4 2 は、アプリケーションプログラム 5 4 a の設定データを格納するためのリレーショナルデータベースである。このデータベース D B 4 2 に格納された設定データは、アプリケーションプログラム 5 4 a の動作時に C P U 5 1 a によって読み出され、データベース D B 2 2 の場合と同様に「設定項目」、「設定条件」、及び「設定値」のデータに加工される。そして、加工された各データによって設定用のデータツリーが構成され、このデータツリーによって表現された設定内容がアプリケーションプログラム 5 4 a の動作時に反映される。かかるデータツリーの構造は、アプリケーションプログラム 3 4 a によって使用されるデータツリー t 1 , t 2 , t 1 1 の構造と同様であるので、その説明を省略する。

【 0 0 7 7 】

次に、データ処理装置 6 の構成について説明する。図 1 9 は、本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定結果参照用のデータ処理装置 6 の構成を示すブロック図である。図 1 9 に示すように、データ処理装置 6 は、本体 6 1 と、画像表示部 6 2 と、入力部 6 3 とから主として構成されたコンピュータ 6 a によって構成されている。本体 6 1 は、C P U 6 1 a と、R O M 6 1 b と、R A M 6 1 c と、ハードディスク 6 1 d と、読出装置 6 1 e と、入出力インタフェース 6 1 f と、通信インタフェース 6 1 g と、画像出力インタフェース 6 1 h とから主として構成されており

、CPU 61a、ROM 61b、RAM 61c、ハードディスク 61d、読出装置 61e、入出力インタフェース 61f、通信インタフェース 61g、および画像出力インタフェース 61hは、バス 61iによって接続されている。CPU 61a、ROM 61b、RAM 61c、読出装置 61e、入出力インタフェース 61f、通信インタフェース 61g、及び画像出力インタフェース 61hの構成は、上述したCPU 31a、ROM 31b、RAM 31c、読出装置 31e、入出力インタフェース 31f、通信インタフェース 31g、及び画像出力インタフェース 31hの構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0078】

読出装置 61eによってデータの読み出しが可能な可搬型記録媒体 64には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム 64aが格納されており、コンピュータ 6aが当該可搬型記録媒体 64から本発明に係るアプリケーションプログラム 64aを読み出し、当該アプリケーションプログラム 64aをハードディスク 61dにインストールすることが可能である。なお、前述したアプリケーションプログラム 34aと同様に、アプリケーションプログラム 64aは、可搬型記録媒体 64によって提供されるのみならず、電気通信回線（有線、無線を問わない）によってコンピュータ 6aと通信可能に接続された外部の機器から前記電気通信回線を通じて提供することも可能である。

10

【0079】

ハードディスク 61dには、例えば米マイクロソフト社が製造販売するWindows（登録商標）等のグラフィカルユーザインタフェース環境を提供するオペレーティングシステム、及びアプリケーションプログラム 64aがインストールされている。以下の説明においては、本実施の形態 1に係るアプリケーションプログラム 64aは前記オペレーティングシステム上で動作するものとしている。

20

【0080】

図 20は、本発明の実施の形態 1に係る血球分析装置 2a、2b及び血液凝固測定装置 4a、4bの測定結果参照用のアプリケーションプログラム 64aの構成を示す模式図である。アプリケーションプログラム 64aは、アプリケーションプログラム 34aと同様に、プレゼンテーション層 64bと、ビジネスロジック層 64cと、データアクセス層 64dとを有する 3 階層アーキテクチャとなっている。プレゼンテーション層 64bは、アプリケーションプログラム 64aにおけるユーザインタフェース部及び通信部に相当する階層であり、かかるプレゼンテーション層 64bには、当該アプリケーションプログラム 64aのウィンドウにおける基本的なパーツの表示を実行するための基本表示モジュール 35a、血球分析装置 2a、2bによる測定結果を画像表示部 62に表示するための測定結果表示モジュール 35b、血液凝固測定装置 4a、4bによる測定結果を画像表示部 62に表示するための測定結果表示モジュール 55b、血球分析装置 2a、2bの検体が異常であること、又は異常の疑いがあることを示す IP メッセージを表示するための IP メッセージ表示モジュール 35c、血液凝固測定装置 4a、4bの測定結果の演算に用いられる検量線を表示するための検量線表示モジュール 55c、血球分析装置 2a、2b及び血液凝固測定装置 4a、4bの精度管理画面を表示するための精度管理図チャート表示モジュール 35d、血球分析装置 2a、2bと通信するための通信モジュール 35e、及び血液凝固測定装置 4a、4bと通信するための通信モジュール 55e等が属している。

30

40

【0081】

また、ビジネスロジック層 64cは、アプリケーションプログラム 64aにおけるデータの処理、加工部に相当する階層であり、かかるビジネスロジック層 64cには、データの単位換算を行う単位換算モジュール、精度管理用グラフを表示するためのデータを作成する精度管理グラフ表示用データ作成モジュール等を含む各機種共通の共通ロジックモジュール 35f、血球分析装置固有のデータ処理を実行するための血球分析ロジックモジュール 35g、及び血液凝固測定装置固有のデータ処理を実行するための血液凝固測定ロジックモジュール 55g等が属している。

【0082】

50

また、データアクセス層 6 4 d は、アプリケーションプログラム 6 4 a におけるデータアクセス部に相当する階層であり、かかるデータアクセス層 6 4 d には、データベース D B 2 1 , D B 2 2 , D B 4 1 , D B 4 2 にアクセスするためのデータベースアクセスモジュール 3 5 h が属している。これらのプログラムモジュール 3 5 a , 3 5 b , 3 5 c , 3 5 d , 3 5 e , 3 5 f , 3 5 g , 3 5 h , 5 5 b , 5 5 c , 5 5 e , 5 5 g は、アプリケーションプログラムのコンポーネントであり、実行形式ファイル又はダイナミックリンクライブラリに含まれている。また、ここでは、アプリケーションプログラム 6 4 a を構成するプログラムモジュールとして、上記のプログラムモジュール 3 5 a , 3 5 b , 3 5 c , 3 5 d , 3 5 e , 3 5 f , 3 5 g , 3 5 h , 5 5 b , 5 5 c , 5 5 e , 5 5 g のみを記載しているが、これは説明を簡略化するために代表的なプログラムモジュールのみを示したものであって、実際にはこれら以外のプログラムモジュールも存在する。 10

【 0 0 8 3 】

基本表示モジュール 3 5 a、精度管理図チャート表示モジュール 3 5 d、共通ロジックモジュール 3 5 f、及びデータベースアクセスモジュール 3 5 h は、血球分析装置用のアプリケーションプログラム 3 4 a 及び血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラム 5 4 a と共用の共通モジュールであり、測定結果表示モジュール 3 5 b、I P メッセージ表示モジュール 3 5 c、通信モジュール 3 5 e、及び血球分析ロジックモジュール 3 5 g は、血球分析装置用のアプリケーションプログラム 3 4 a と共通のプログラムモジュールである。また、測定結果表示モジュール 5 5 b、検量線表示モジュール 5 5 c、通信モジュール 5 5 e、血液凝固測定ロジックモジュール 5 5 g は、血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラム 5 4 a と共通のプログラムモジュールである。 20

【 0 0 8 4 】

また、上述したアプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a と同様に、共通モジュールは、一つのダイナミックリンクライブラリに格納されていてもよいし、複数のダイナミックリンクライブラリに分割して格納されていてもよく、また機種依存モジュールは、一つのダイナミックリンクライブラリに格納されていてもよいし、複数のダイナミックリンクライブラリに分割して格納されていてもよいが、共通モジュールと機種依存モジュールとは別々のダイナミックリンクライブラリに格納されていることが好ましい。

【 0 0 8 5 】

また、ハードディスク 6 1 d には、データベース D B 2 1 , D B 2 2 , D B 4 1 , D B 4 2 がインストールされている。ハードディスク 6 1 d にインストールされているデータベース D B 2 1 , D B 2 2 は、上述したデータ処理装置 3 に設けられたデータベース D B 2 1 , D B 2 2 と同一の内容のデータベースであり、ハードディスク 6 1 d にインストールされているデータベース D B 4 1 , D B 4 2 は、上述したデータ処理装置 5 に設けられたデータベース D B 4 1 , D B 4 2 と同一の内容のデータベースである。これらのデータベース D B 2 1 , D B 2 2 , D B 4 1 , D B 4 2 は、アプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a , 6 4 a の機能によってデータ処理装置 3 , 5 に設けられたデータベース D B 2 1 , D B 2 2 , D B 4 1 , D B 4 2 とリアルタイムで同期が取られるようになっている。これにより、故障等によってデータ処理装置 3 に障害が発生した場合にも、データ処理装置 6 を用いて血球分析装置 2 a , 2 b のデータ処理を行うことが可能であり、またデータ処理装置 5 に障害が発生した場合にも、同様にデータ処理装置 6 を用いて血液凝固測定装置 4 a , 4 b のデータ処理を行うことが可能である。 30 40

【 0 0 8 6 】

データベースサーバ 7 は、コンピュータによって構成されており、ハードディスク等によって構成された記憶装置には、過去に実施した検査に関する情報のデータベースが設けられている。このデータベースはリレーショナルデータベースであり、検査日、検体番号、患者 I D、血球分析装置による測定結果、血液凝固測定装置による測定結果、患者名、生年月日、性別、年齢、血液型、病棟、担当医、検体コメント、患者コメント等のデータが互いに関連付けて格納されている。データ処理装置 3 , 5 , 6 は、このデータベースサーバ 7 にアクセスし、検体番号等に対応付けて測定結果のデータをデータベースから取得 50

し、又はデータベースに登録することが可能である。

【0087】

次に、本実施の形態1に係る分析システム1の動作について説明する。分析システム1では、ユーザがデータ処理装置3を使用して、血球分析装置2a、2bの動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血球分析装置2a、2bでの測定結果を表示することが可能である。また、ユーザがデータ処理装置5を使用して、血液凝固測定装置4a、4bの動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血液凝固測定装置4a、4bでの測定結果を表示することが可能である。更に、ユーザがデータ処理装置6を使用して、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bの動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bでの測定結果を表示することも可能である。各データ処理装置3、5、6は、どのようなユーザが使用することも可能であるが、例えば、データ処理装置3は、血球分析装置2a、2bを使用するオペレータ、血液検体の血球分析検査を行う検査技師、検査を実施し、又は検査結果を確認、もしくは使用する検査医等が使用することができ、データ処理装置5は、血液凝固測定装置4a、4bを使用するオペレータ、血液検体の血液凝固検査を行う検査技師、検査を実施し、又は検査結果を確認、もしくは使用する検査医等が使用することができ、またデータ処理装置6は、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bの全てデータを参照することが可能な管理者（技師長等）が使用することができるよう、ユーザ権限を設定してもよい。また、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bのサポート技術者には、全てのデータ処理装置3、5、6の使用及び設定を行うことができるようなユーザ権限が設定される。

【0088】

まず、血球分析装置2a、2bのオペレータであるユーザが、データ処理装置3を使用して血球分析装置2a、2bを動作させ、検体を測定する場合の分析システム1の動作について説明する。図21～図23は、データ処理装置3を使用して血球分析装置2a、2bを動作させ、検体を測定する場合のアプリケーションプログラム34aの処理手順を示すフローチャートである。まず、オペレータは、アプリケーションプログラム34aを起動する。コンピュータ3aのCPU31aは、画像表示部32にログオンウィンドウを表示させる（ステップS1）。このログオンウィンドウには、ログオンID及びパスワードを夫々入力するための入力エリアが設けられており、ユーザはこの入力エリアにカーソルを移動させ、ログオンID及びパスワードを入力する（図示せず）。CPU31aは、このようなログオンID及びパスワードの入力を受け付けた場合には（ステップS2においてYes）、ハードディスク31dに格納されたアプリケーションプログラム34aのユーザ認証用のデータベース（図示せず）を参照して、ログオンID及びパスワードが登録されたアカウントのものであるか否か、アカウントが有効であるか否か、及び有効期限が満了しているか否かを判別することにより、ユーザ認証を行う（ステップS3）。ユーザ認証が失敗した場合には（ステップS3においてNo）、CPU31aは、ステップS1へと処理を戻す。ステップS3において、ユーザ認証が成功した場合には（ステップS3においてYes）、CPU31aは、画像表示部32に初期ウィンドウ81を表示させる（ステップS4）。このステップS4の初期ウィンドウ81の表示処理は、主として基本表示モジュール35aの機能である。

【0089】

図24は、初期ウィンドウ81の構成を示す模式図である。図24に示すように、初期ウィンドウ81は、ウィンドウ最上部に設けられたタイトル表示領域81aと、タイトル表示領域81aの下方に設けられたメニューバー81bと、メニューバー81bの下方に設けられたツールバー81cと、ツールバー81cの下方に設けられたウィンドウ表示領域81dとを有している。タイトル表示領域81aには、装置名称、表示ウィンドウ名称、記憶検体数等が表示される。メニューバー81bには、「ファイル」、「編集」、「表示」、「データ操作」、「実行」、「出力」、「設定」、「ウィンドウ」、「ヘルプ」の各メニューが表示される。夫々のメニューにはサブメニューが設けられており、メニュー

上にマウスポインタを位置させ、マウスの左ボタンをクリック（以下、左クリックという）することにより、当該メニューに対応するサブメニューがプルダウン表示されるようになっている。メニューには、ユーザのアクセス権限等によって使用不可能なものもあり、このようなメニューは淡色（灰色）表示されるようになっている。なお、使用可能なメニューは黒色表示される。

【0090】

また、ツールバー 81c には、複数のボタンが横に並べられて表示される。これらのボタンは、メニューからプルダウン表示されるサブメニューの中から、比較的使用頻度が高いものに対応付けられており、ツールバー 81c のボタンを左クリックすることにより、サブメニューをすばやく実行することができるようになっている。

10

【0091】

ウィンドウ表示領域 81d には、各種の処理及び操作を行うためのウィンドウが表示される。図 24 に示すように、初期ウィンドウ 81 では、ウィンドウ表示領域 81d にメニューウィンドウ 81e が表示される。このメニューウィンドウ 81e には、複数のボタンが表示される。これらのボタンは、使用頻度が比較的高いサブメニューに対応しており、ボタンを左クリックすることにより、対応するサブメニューを実行し、目的とするウィンドウを開くことが可能である。このボタンは、ユーザによって自由に追加、削除されることが可能となっている。また、ウィンドウ表示領域 81d に表示されるウィンドウの上端には、タブが設けられている。このタブには、ウィンドウの名称が表示される。ウィンドウ表示領域 81d に複数のウィンドウが存在する場合には、このタブを選択することでアクティブなウィンドウ（最前面に表示されるウィンドウ）を変更することができる。このように、複数のウィンドウをウィンドウ表示領域 81d に表示させることによって、複数の処理又は操作を並行して実行することが可能である。

20

【0092】

データ処理装置 3 は、この状態でユーザからの指示入力を待機する。ここでユーザがメニューウィンドウ 81e のボタンを左クリックしたり、ツールバー 81c のボタンを左クリックしたり、又は血球分析装置 2a の動作を開始させることによって、夫々に対応する処理を実行することができる。このように、ここでの処理はイベントドリブン型の処理であり、この状態からは、ユーザの指示に応じて実行する処理が異なることとなるが、ここでは説明を簡単にするために、メニューウィンドウ 81e 内の測定登録ボタン 81f が左

30

をクリックされた場合の動作についてのみ述べる。CPU 31a は、測定登録ボタン 81f が左クリックされた場合には（ステップ S5 において Yes）、測定登録ウィンドウ 82

を表示する（ステップ S6）。

【0093】

図 25 は、測定登録ウィンドウ 82 の構成を示す模式図である。図 25 に示すように、測定登録ウィンドウ 82 は、ウィンドウ上部に設けられた測定項目グループ選択ボックス 82a と、後述する測定選択項目テーブル 82b を表示する測定選択項目テーブル表示領域 82c と、後述する測定項目リスト 82d を表示する測定項目リスト表示領域 82e と、検体に関する情報を入力するための検体情報入力領域 82f と、患者に関する情報を表示するための患者情報表示領域 82g と、測定選択項目を選択するための複数のボタン 82h, 82i, 82j, 82k, 82m, 82n が表示されるボタン表示領域 82o とを有している。

40

【0094】

測定項目グループ選択ボックス 82a は、右端に表示された三角矢印ボタンを左クリックすることによって、測定項目グループのプルダウンメニューが表示されるようになっている。このプルダウンメニューからユーザが所望の測定項目グループを選択することが可能であるようになっている。測定項目グループは、データ処理装置がデータ処理対象とする測定装置毎に予め設定されており、ここでは血球分析に関する測定項目グループとして「MCC」というグループが設定されている場合について説明する。ユーザは、測定項目グループ選択ボックス 82a のプルダウンメニューを表示し、その中から「MCC」を選

50

択する。または、データ処理装置 3 の対象とする測定装置が血球分析装置 2 a , 2 b であることから、測定項目グループとして「M C C」がデフォルト設定されていてもよい。この場合には、ユーザが操作を行わなくても「M C C」が選択される。図 2 1 ~ 図 2 3 に示すフローチャートでは、説明を簡単にするために、測定項目グループのデフォルト設定で「M C C」が設定されていることとしている。

【 0 0 9 5 】

測定項目グループに M C C が選択されたときには、C P U 3 1 a は、測定選択項目テーブル 8 2 b 及び測定項目リスト 8 2 d を作成して夫々測定選択項目テーブル表示領域 8 2 c 及び測定項目リスト表示領域 8 2 e に表示する（ステップ S 7）。図 2 5 に示すように、測定選択項目テーブル 8 2 b は、検体番号フィールド 8 2 p、ラックフィールド 8 2 q、チューブフィールド 8 2 r、患者 I D フィールド 8 2 s、コメントフィールド 8 2 t、C B C フィールド 8 2 u、D I F F フィールド 8 2 v、R E T フィールド 8 2 w、及び N R B C フィールド 8 2 x を有している。検体番号フィールド 8 2 p には、ユーザによって入力された検体番号が表示される。ラックフィールド 8 2 q 及びチューブフィールド 8 2 r には、ユーザによって入力されたラック番号及びチューブ番号が表示される。患者 I D フィールド 8 2 s には、同一レコードの検体番号に対応する患者の患者 I D が表示される。コメントフィールド 8 2 t には、この検体についてのコメントが入力された場合にこれが表示される。C B C フィールド 8 2 u には、対象の検体に対して、測定選択項目として C B C が選択された場合に、丸印、黒丸印、及び黒三角印のいずれかの記号が表示される。ここで、丸印の記号は、この測定選択項目（C B C）が未測定であることを示し、黒丸印の記号は、この測定選択項目について測定済みであることを示し、黒三角印の記号は、この測定選択項目について測定中であることを示している。C B C とは、白血球数（W B C）、赤血球数（R B C）、血色素量（H G B）、ヘマトクリット値（H C T）、平均赤血球容積（M C V）、平均赤血球血色素量（M C H）、平均赤血球血色素濃度（M C H C）、血小板数（P L T）、赤血球分布幅（R D W - S D）、赤血球分布幅（R D W - C V）、血小板分布幅（P D W）、平均血小板容積（M P V）、大型血小板比率（P - L C R）、及び血小板クリット値（P C T）の測定項目のグループである。D I F F フィールド 8 2 v には、対象の検体に対して、測定選択項目として D I F F が選択された場合に、上記記号が表示される。D I F F とは、好中球数比率（N E U T %）、リンパ球数比率（L Y M P H %）、単球数比率（M O N O %）、好酸球数比率（E O %）、好塩基球数比率（B A S O %）、好中球数（N E U T #）、リンパ球数（L Y M P H #）、単球数（M O N O #）、好酸球数（E O #）、及び好塩基球数（B A S O #）の測定項目のグループである。R E T フィールド 8 2 w には、対象の検体に対して、測定選択項目として R E T が選択された場合に、上記記号が表示される。R E T とは、網赤血球比率（R E T %）、網赤血球数（R E T #）、高蛍光網赤血球比率（H F R）、中蛍光網赤血球比率（M F R）、低蛍光網赤血球比率（L F R）、及び網赤血球成熟指数（I R F）の測定項目のグループである。N R B C フィールド 8 2 x には、対象の検体に対して、測定選択項目として N R B C が選択された場合に、上記記号が表示される。N R B C とは、有核赤血球数比率（N R B C %）及び有核赤血球数（N R B C #）の測定項目のグループである。図 2 5 の例を用いて説明すると、検体番号「8 0 1 - 0 5」の検体は、C B C、D I F F、及び N R B C が測定選択項目として選択されており、このうち C B C 及び N R B C は測定済みであり、D I F F は測定中であることとなる。

【 0 0 9 6 】

このような測定選択項目テーブル 8 2 b に表示されたレコードのうち、ユーザによって 1 つの検体番号に関する行が選択されたときには、この行が他の行とは異なる色でハイライト表示される。そして、C P U 3 1 a は、この選択された検体番号について測定項目の設定状態を測定項目リスト 8 2 d に表示する。図 2 5 に示すように、測定項目リスト 8 2 d には、血球分析における測定項目がリスト表示され、夫々の測定項目について測定対象として設定されている場合には丸印が表示されるようになっている。図 2 5 の例で説明すると、検体番号「8 0 1 - 0 4」の行が選択されており、この検体については測定選択項

目としてCBCとNRBCとが設定されているので、測定項目リスト82dでは、WBC、RBC、HGB、HCT、MCV、MCH、MCHC、PLT、RDW-SD、RDW-CV、PDW、MPV、P-LCR、PCT、NRBC%、NRBC#に対して丸印が表示されることとなる。

【0097】

また、検体情報入力領域82fには、入力された検体情報が表示され、患者情報表示領域82gには、この検体情報に対応する患者情報が表示される。検体情報入力領域82fには、検体番号、ラック、チューブ、及びコメントを入力するための入力ボックスが設けられており、ユーザはこれらの入力ボックスにカーソルを移動させた状態でこれらの検体情報（検体番号、ラック、チューブ、及びコメント）を入力することが可能である。これらの入力ボックスに入力された結果は測定選択項目テーブル82bに反映され、データベースDB21に該当データが登録される。また、患者情報表示領域82gには、患者ID、名字、名前、性別、生年月日、病棟、担当医、及び患者コメントを表示するための表示ボックスが設けられており、これらの表示ボックスに該当する患者の情報が表示される。ここで、検体情報がユーザによって入力されたとき場合には（ステップS8でYes）、CPU31aがデータベースサーバ7にこの検体番号を送信し、この検体番号に対応する患者情報をデータベースサーバ7に問い合わせる。データベースサーバ7は、かかる検体番号を検索キーとして患者情報を検索し、前記検体番号に対応する患者情報をデータ処理装置3へと送信する。このようにして、CPU31aは患者情報を取得する（ステップS9）。図25の例を用いて説明すると、検体番号の入力ボックスに「801-04」が、コメントの入力ボックスに「コメント」が夫々入力されている。このとき、データ処理装置3は、検体番号「801-04」を示すデータをデータベースサーバ7へと送信し、対応する患者情報を要求する。データベースサーバ7は、検体番号「801-04」を検索キーとして対応する患者情報を検索し、この結果、この検体に対応する患者情報を獲得する。データベースサーバ7は、かかる患者情報をデータ処理装置3へと送信し、データ処理装置3は、受信した患者情報である患者の患者ID「ABC12345」、名字「シスメックス」、名前「タロウ」、性別「Male」、生年月日「1943/01/15」、病棟「01」、担当医「0839」を患者情報表示領域82gの夫々対応する表示ボックスに表示させる。

【0098】

また、測定項目リスト表示領域82eの右方には、ボタン82h、82i、82j、82k、82m、82nが縦に並べられて設けられている。ボタン82hは、CBCを登録するためのボタンであり、ユーザがこのボタン82hを左クリックすることにより、その時点で検体情報入力領域82fの入力ボックスに入力されている検体番号に対して、測定選択項目としてCBCが登録される。同様に、ボタン82i、82j、82k、82m、82nは、夫々CBC+DIFF、CBC+DIFF+RET、CBC+DIFF+RET+NRBC、RET、NRBCを測定選択項目として登録するためのボタンである。検体情報が入力され、患者情報が表示された状態で、更にユーザがボタン82iを左クリックした場合（ステップS10でYes）、CPU31aは、測定選択項目テーブル82bに新たな行を追加し、入力ボックスに入力された検体番号をこの行の検体番号フィールドに表示し、CBCフィールド及びDIFFフィールドに丸印を表示する（ステップS11）。また、ステップS11の処理では、測定項目リスト82dにおいて、WBC、RBC、HGB、HCT、MCV、MCH、MCHC、PLT、RDW-SD、RDW-CV、PDW、MPV、P-LCR、PCT、NEUT%、LYMPH%、MONO%、EO%、BASO%、NEUT#、LYMPH#、MONO#、EO#、BASO#に対して丸印が表示されることとなる。また、CPU31aは、データベースDB21にアクセスして、これらの検体情報、患者情報、および測定項目を登録する（ステップS12）。このようにして、新たな検体についての測定登録を行うことが可能である。

【0099】

検体の測定を開始する場合、オペレータは、検体が収容された採血管をラックにセット

し、このラックを血球分析装置 2 a (2 b) の前部に設けられた搬送部にセットする。採血管には、この検体の検体番号を示すバーコードラベルが貼付されている。搬送部によって、血球分析装置 2 a (2 b) の試料供給部 (図示せず) の下方の検体供給位置に採血管がラックごと搬送され、その途中で血球分析装置 2 a に設けられたバーコードリーダによって前記バーコードが読み取られる。血球分析装置 2 a の制御部 2 5 は、このようにバーコードから読み取られた検体番号を示す検体番号データをデータ処理装置 3 へと送信する。C P U 3 1 a は、血球分析装置 2 a から検体番号データを受信した場合には (ステップ S 1 3 で Y e s) 、この検体番号について前述したような測定登録のデータが存在するかどうかを判別する (ステップ S 1 4) 。この処理は、データベース D B 2 1 を参照して該当する検体番号のレコードが存在するかどうかを判別することによって行われる。ステップ S 1 4 の処理で、この検体番号について測定登録データが存在する場合には (ステップ S 1 4 で Y e s) 、C P U 3 1 a は、データベース D B 2 1 からこの検体番号に対応する測定項目を読み出し (ステップ S 1 5) 、後述するステップ S 1 8 へと処理を移す。 10

【 0 1 0 0 】

一方、ステップ S 1 4 において、この検体番号について測定登録データが存在しない場合には (ステップ S 1 4 で N o) 、C P U 3 1 a は、検体番号データをデータベースサーバ 7 へと送信し、この検体の測定項目を問い合わせる (ステップ S 1 6) 。このときのデータの流れを図 2 6 を用いて説明する。図 2 6 は、測定装置へのオーダ発行までのデータの流れを示す模式図である。血球分析装置 2 a からの検体番号データの受信は、通信モジュール 3 5 e によって実行される。通信モジュール 3 5 e によって受信された検体番号データは、キュー 8 3 a に入れられる。キュー 8 3 a から取り出された検体番号データは、ビジネスロジック層 3 4 c のプログラムモジュール (例えば共通ロジックモジュール 3 5 f) に与えられ、このプログラムモジュールから通信モジュール 3 5 e へと送られる。そして、通信モジュール 3 5 e は、受け取った検体番号データをデータベースサーバ 7 へと送信し、これによって測定項目の問い合わせが行われる。 20

【 0 1 0 1 】

データベースサーバ 7 は、検体番号データを検索キーとして、この検体に対応する測定項目を検索する。検索の結果得られた測定項目は、測定項目データとして要求元のデータ処理装置 3 へと送信される。C P U 3 1 a は、測定項目データを受信した場合には (ステップ S 1 7 で Y e s) 、この測定項目データを R A M 3 1 c に設けられたオーダ発行用測定項目管理バッファ 8 3 b に格納する (ステップ S 1 8) 。このときのデータの流れを図 2 6 を用いて説明する。データベースサーバ 7 からの測定項目データの受信は、通信モジュール 3 5 e によって実行される。通信モジュール 3 5 e によって受信された測定項目データは、キュー 8 3 a に入れられる。キュー 8 3 a から取り出された測定項目データは、ビジネスロジック層 3 4 c のプログラムモジュール (例えば、共通ロジックモジュール 3 5 f) に与えられる。このプログラムモジュールは、取り出した測定項目データを、検体番号データと対応付けてオーダ発行用測定項目管理バッファ 8 3 b に格納する。 30

【 0 1 0 2 】

その後、例えば血球分析装置 2 a の検体供給位置に測定対象の検体が収容された採血管が到達したことを、図示しないセンサによって制御部 2 5 が検出したときに、制御部 2 5 は測定項目の送信を要求する送信要求データをデータ処理装置 3 へと送信する。この送信要求データには、測定対象の検体の検体番号データが含まれている。C P U 3 1 a は、この送信要求データを受信した場合に (ステップ S 1 9 で Y e s) 、この送信要求データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファ 8 3 b から取得し (ステップ S 2 0) 、この測定項目データを血球分析装置 2 a へと送信する (ステップ S 2 1) 。このときのデータの流れを図 2 6 を用いて説明する。血球分析装置 2 a からの送信要求データの受信は、通信モジュール 3 5 e によって実行される。通信モジュール 3 5 e によって受信された送信要求データは、キュー 8 3 a に入れられる。キュー 8 3 a から取り出された送信要求データは、ビジネスロジック層 3 4 c のプログラムモジュール (例えば、共通ロジックモジュール 3 5 f) に与えられる。このプログラム 40 50

モジュールは、取り出した送信要求データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファ 8 3 b から読み出し、この測定項目データを通信モジュール 3 5 e に与える。そして、通信モジュール 3 5 e は、受け取った測定項目データを血球分析装置 2 a に送信する。

【0103】

その後、血球分析装置 2 a の制御部 2 5 は、試料供給部に採血管から検体を吸引させる。この吸引が完了した後に、制御部 2 5 は、吸引の完了を通知するための吸引完了通知データをデータ処理装置 3 へ送信する。この吸引完了通知データには、吸引した検体の検体番号データが含まれている。CPU 3 1 a は、この吸引完了通知データを受信した場合に（ステップ S 2 2 で Yes）、この吸引完了通知データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファ 8 3 b から取得し（ステップ S 2 3）、検体番号に対応付けてデータベース DB 2 1 に登録する（ステップ S 2 4）。このときのデータの流れを図 2 6 を用いて説明する。血球分析装置 2 a からの吸引完了通知データの受信は、通信モジュール 3 5 e によって実行される。通信モジュール 3 5 e によって受信された吸引完了通知データは、キュー 8 3 a に入れられる。キュー 8 3 a から取り出された吸引完了通知データは、ビジネスロジック層 3 4 c のプログラムモジュール（例えば、共通ロジックモジュール 3 5 f）に与えられる。このプログラムモジュールは、取り出した吸引完了通知データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファ 8 3 b から読み出し、この測定項目データと検体番号データとをデータベースアクセスモジュール 3 5 h に与える。そして、データベースアクセスモジュール 3 5 h は、検体番号と測定項目とを対応付けてデータベース DB 2 1 に登録する。

【0104】

次に、血球分析装置 2 a は、採血管から吸引した検体を光学式検出部 2 1、RBC 検出部 2 2、HGB 検出部 2 3、及びIMI 検出部 2 4 の何れかに供給し、データ処理装置 3 から与えられた測定項目について測定を開始する。測定終了後は、制御部 2 5 が測定値データをデータ処理装置 3 へと送信する。この測定値データには、検体番号データが含まれている。CPU 3 1 a は、この測定値データを受信した場合に（ステップ S 2 5 で Yes）、データベース DB 2 1 に検体番号に対応付けて測定値を登録する（ステップ S 2 6）。ここで、ユーザが測定結果の表示を指示する入力を行った場合には（ステップ S 2 7 で Yes）、CPU 3 1 a は、データベース DB 2 1 から測定値データを読み出し（ステップ S 2 8）、測定結果表示ウィンドウを表示する（ステップ S 2 9）。本実施の形態 1 においては、測定結果表示ウィンドウの表示は、ユーザがメニューウィンドウ 8 1 e 内のサンプルエクスポローラボタン 8 1 h を左クリックした場合に実行される。

【0105】

図 2 7 は、測定結果表示ウィンドウ 8 4 の構成を示す模式図である。図 2 7 に示すように、測定結果表示ウィンドウ 8 4 は、後述する検体情報テーブル 8 4 a を表示する検体情報テーブル表示領域 8 4 b と、後述する数値データテーブル 8 4 c を表示する数値データテーブル表示領域 8 4 d と、患者に関する情報を表示するための患者情報表示領域 8 4 e とを有している。患者情報表示領域 8 4 e は、上述した測定登録ウィンドウ 8 2 の患者情報表示領域 8 2 g と同様であるので、その説明を省略する。

【0106】

上述したように、サンプルエクスポローラボタン 8 1 h が左クリックされた場合には、CPU 3 1 a は、過去に測定が行われた検体に関する検体情報及び当該検体に関する測定値データをデータベース DB 2 1 から取得し、これらの情報から検体情報テーブル 8 4 a 及び数値データテーブル 8 4 c を作成して夫々検体情報テーブル表示領域 8 4 b 及び数値データテーブル表示領域 8 4 d に表示し、また患者情報を患者情報表示領域 8 4 e に表示する（ステップ S 3 0）。図 2 7 に示すように、検体情報テーブル 8 4 a には、検体番号フィールド 8 4 f、測定装置 ID フィールド 8 4 h、測定時刻フィールド 8 4 i、及び測定値フィールド 8 4 j、8 4 k、8 4 m、8 4 n、8 4 o、8 4 p、8 4 q、8 4 r を有

している。検体番号フィールド 8 4 f には、過去に測定された検体の検体番号が表示される。測定装置 I D フィールド 8 4 h には、検体を測定した測定装置の測定装置 I D が表示される。測定時刻フィールド 8 4 i には、検体を測定した時刻が表示される。測定値フィールド 8 4 j , 8 4 k , 8 4 m , 8 4 n , 8 4 o , 8 4 p , 8 4 q , 8 4 r には、検体の各測定値が表示される。このような検体情報テーブル表示領域 8 4 b の下部には、測定項目切替タブ 8 4 s ~ 8 4 u が設けられている。ここでは、C B C タブ 8 4 s 、 D I F F タブ 8 4 t 、及び R E T タブ 8 4 u が設けられている場合について説明する。C B C タブ 8 4 s が選択されているときには、測定値フィールド 8 4 j , 8 4 k , 8 4 m , 8 4 n , 8 4 o , 8 4 p , 8 4 q , 8 4 r に、W B C , R B C , H G B , H C T , M C V , M C H , M C H C , P L T の各測定値が表示されるようになっている。D I F F タブ 8 4 t がクリ
 ックされた場合には、検体情報テーブル 8 4 a が切り替わり、測定値フィールドに D I F F の測定項目についての測定値が表示される。また R E T タブ 8 4 u が選択されたときには、測定値フィールドに R E T の測定項目についての測定値が表示される。なお、検体番号フィールド 8 4 f 、測定装置 I D フィールド 8 4 h 、測定時刻フィールド 8 4 i はどのタブが選択されている場合でも表示される。また、この他にも、N R B C タブを設けて、このタブが選択されているときには、N R B C の測定項目についての測定値が表示されるようにしてもよい。

10

【 0 1 0 7 】

このような検体情報テーブル 8 4 a に表示されたレコードのうち、ユーザによって 1 つの検体番号に関する行が選択されたときには、この行が他の行とは異なる色でハイライト表示される。そして、C P U 3 1 a は、この選択された検体番号についての測定値を数値データテーブル 8 4 c に表示する。図 2 7 に示すように、数値データテーブル 8 4 c は、血球分析における測定項目フィールド 8 4 v 、数値データフィールド 8 4 w 、及び単位フィールド 8 4 x を有している。測定項目フィールド 8 4 v には、測定項目の名称が表示される。数値データフィールド 8 4 w には、その行の測定項目に対応する検体の測定値が表示される。単位フィールド 8 4 x には、その行の測定値の単位が表示される。このような測定結果表示ウィンドウ 8 4 が表示されることによって、ユーザは血球分析装置 2 a による測定結果を確認することができる。

20

【 0 1 0 8 】

データ処理装置 3 が血球分析装置 2 a から測定値データを受信してから、測定結果表示ウィンドウを表示するまでのデータの流れを図を用いて説明する。図 2 8 は、データ処理装置 3 が測定装置から測定値データを受信してから、測定結果を表示するまでのデータの流れを示す模式図である。血球分析装置 2 a からの測定値データの受信は、通信モジュール 3 5 e によって実行される。通信モジュール 3 5 e によって受信された測定値データはキュー 8 3 a に入れられる。キュー 8 3 a から取り出された測定値データは、ビジネスロジック層 3 4 c のプログラムモジュール (例えば共通ロジックモジュール 3 5 f) に与えられ、このプログラムモジュールからデータベースアクセスモジュール 3 5 h へと送られる。そして、データベースアクセスモジュール 3 5 h は、受け取った測定値データを対応する検体番号に関連付けてデータベースサーバ D B 2 1 に登録する。また、ビジネスロジックモジュールは、ビジネスロジック層 3 4 c に属するキーリストマネージャクラス 8 5 a へデータベース D B 2 1 の内容を書き換えたことを通知する。キーリストマネージャクラス 8 5 a は、登録されたレコードの主キーをデータベースアクセスモジュール 3 5 h に問合せる。また、キーリストマネージャクラス 8 5 a は、アクティブキーリスト管理バッファ 8 5 b を参照し、変更対象のキーリストバッファを特定する。R A M 3 1 c には、前述したアクティブキーリスト管理バッファ 8 5 b 及び複数のキーリストバッファ 8 5 c ~ 8 5 e が設けられている。アクティブキーリスト管理バッファ 8 5 b は、処理対象のキーリストバッファを特定する情報を格納するバッファであり、キーリストバッファ 8 5 c ~ 8 5 e は、データベース D B 2 1 から取得した主キーを格納するバッファである。キーリストマネージャクラス 8 5 a は、データベースアクセスモジュール 3 5 h から取得した主キーを、アクティブキーリスト管理バッファ 8 5 b で特定したキーリストバッファに格納

30

40

50

し、次のキーリストバッファをアクティブとするようにアクティブキーリスト管理バッファ 85b を更新する。次に、測定結果表示ウィンドウを表示するイベントが発生したときに、ビジネスロジック層 34c に属するアイテムクラス 85f が、アクティブキーリスト管理バッファ 85b を参照して表示すべき測定値に対応するキーリストバッファを特定し、このキーリストバッファを参照して主キーを取得する。アイテムクラス 85f は、ビジネスロジック層 34c に属するデータマネージャクラス 85g にこの主キーを与えて測定値を問い合わせる。データマネージャクラス 85g は、測定値データを管理するクラスであり、データベースアクセスモジュール 35h を通じてデータベース DB21 から測定値データを取得する。こうしてアイテムクラス 85f は、主キーに対応する測定値データを取得し、これをビジネスロジック層 34c に属する単位換算モジュールに渡す。単位換算モジュールは、測定値データの単位換算を行い、変換後の測定値データを測定結果表示モジュール 35b 等に与える。そして、測定結果表示ウィンドウの表示が行われる。

10

【0109】

また、ユーザが測定結果の詳細情報の表示を指示する入力を行った場合には（ステップ S31 で Yes）、CPU 31a は、データベース DB21 から測定値データを読み出し（ステップ S32）、測定結果詳細情報表示ウィンドウを表示する（ステップ S33）。本実施の形態 1 においては、ユーザが測定結果表示ウィンドウ 84 内の検体情報テーブル 84a をダブルクリックした場合に測定結果詳細情報表示ウィンドウが開き、この測定結果詳細情報表示ウィンドウには、ダブルクリックされたデータについての詳細情報が表示される。また、測定結果詳細情報表示ウィンドウは、ユーザがメニューウィンドウ 81e 内のデータブラウザボタン 81i を左クリックした場合等にも表示される。

20

【0110】

図 29 は、測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86 の構成を示す模式図である。図 29 に示すように、測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86 は、測定結果に異常が認められるか否かを表示する異常表示領域 86a と、検体情報を表示する検体情報表示領域 86b と、測定結果の各種詳細情報を表示する詳細情報表示領域 86c とを有している。異常表示領域 86a は、測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86 の左上部に設けられ、血球測定値あるいは血球像に異常が認められた場合には「Positive」と表示され、これがダブルクリックされることによって異常の分類を表示するようになっている。また、この異常表示領域 86a には、異常および測定エラーのない場合に「Negative」と表示されるようになっている。また、検体情報表示領域 86b には、検体番号、患者 ID、患者名、性別、生年月日、病棟、担当医、測定年月日、測定時刻、及びコメントを表示するための表示ボックスが設けられており、これらの表示ボックスに該当する検体の情報が表示される。

30

【0111】

詳細情報表示領域 86c には、各種測定結果に関する詳細情報を表示するためのウィンドウが表示される。図 29 では、詳細情報表示領域 86c に血球分析メインウィンドウ 86d を表示した場合を示している。血球分析メインウィンドウ 86d は、各測定項目の数値データを表示するための数値データ表示領域 86e と、5 分類された白血球の個数及び比率を表示するための白血球 5 分類表示領域 86f と、各種の測定項目について、検体が異常であること、又は以上の疑いがあることを示す IP メッセージを表示するフラグ表示領域 86g とを有している。

40

【0112】

数値データ表示領域 86e には、各測定項目についての数値データとその単位とを表示する数値データテーブル 86h が表示される。この数値データテーブル 86h は、測定項目、数値データ、及び単位のフィールドを有しており、測定項目毎に数値データが表形式で表示されるようになっている。また、数値データテーブル 86h には、各測定項目毎に測定数値の正常範囲からのずれをグラフィカル表示する SD バーが表示されるようになっている。これによりユーザが測定数値の正常範囲に対するずれの程度を容易に確認することができるようになっている。

50

【0113】

白血球5分類表示領域86fには、白血球の個数に関する測定項目についての数値データとその単位とを表示する白血球個数データテーブル86iと、白血球の個数の比率に関する測定項目についての数値データとその単位を表示する白血球比率データテーブル86jとが表示される。白血球個数データテーブル86iは、測定項目、数値データ、及び単位のフィールドを有しており、白血球の個数に関する測定項目、即ちNEUT#、LYMPH#、MONO#、EO#、及びBASO#について数値データが表形式で表示されるようになっている。また、白血球個数データテーブル86iには、各測定項目毎に測定数値の正常範囲からのずれをグラフィカル表示するSDバーが表示されるようになっている。白血球比率データテーブル86jは、測定項目、数値データ、及び単位のフィールドを有しており、白血球の個数比率に関する測定項目、即ちNEUT%、LYMPH%、MONO%、EO%、及びBASO%について数値データが表形式で表示されるようになっている。

10

【0114】

フラグ表示領域86gには、WBCに関するIPメッセージを表示する第1IPメッセージ表示ボックス86kと、RBC及びRETに関するIPメッセージを表示する第2IPメッセージ表示ボックス86mと、PLTに関するIPメッセージを表示する第3IPメッセージ表示ボックス86nとが表示される。IPメッセージには、検体が明らかに異常であることを示すアブノーマルIPメッセージと、検体に異常の疑いがあることを示すサスペクトIPメッセージとがあり、第1IPメッセージ表示ボックス86k、第2IPメッセージ表示ボックス86m、及び第3IPメッセージ表示ボックス86nには、対応する測定項目についてのIPメッセージがリスト表示されるようになっている。

20

【0115】

上述したように、検体情報テーブル84aの中のデータがダブルクリックされた場合、又はデータブラウザボタン81iが左クリックされた場合等には、CPU31aは、過去に測定が行われた検体に関する検体情報及び当該検体に関する測定値データをデータベースDB21から取得し、これらの情報から数値データテーブル86h、白血球個数データテーブル86i、及び白血球比率データテーブル86jを作成して夫々数値データ表示領域86e及び白血球5分類表示領域86fに表示し、また検体情報を検体情報表示領域86bに、IPメッセージをフラグ表示領域86gに夫々表示する(ステップS34)。そして、ユーザから終了の指示入力を受け付けた場合には、CPU31aは、処理を終了する。なお、上述のような詳細情報表示領域86cには、血球分析メインウィンドウ86dの他、測定結果をグラフ表示するグラフウィンドウ、白血球に関する詳細情報を表示するWBCウィンドウ、赤血球に関する詳細情報を表示するRBCウィンドウ等を開くことができるようになっている。これらのウィンドウの表示は、詳細情報表示領域86cの上部に設けられたタブで切り替えることができる。例えば、「メイン(MCC)」と表記されたタブが左クリックされた場合には、血球分析メインウィンドウ86dが表示され、「グラフ(MCC)」と表記されたタブが左クリックされた場合には、グラフウィンドウが表示されることとなる。

30

【0116】

次に、血液凝固測定装置4a, 4bのオペレータであるユーザが、データ処理装置5を使用して血液凝固測定装置4a, 4bを動作させ、検体を測定する場合の分析システム1の動作について説明する。まず、オペレータは、アプリケーションプログラム54aを起動する。この場合も、アプリケーションプログラム34aの場合と同様に、コンピュータ5aのCPU51aは、画像表示部52にログオンウィンドウを表示させ、ここでログオンID及びパスワードの入力を受け付けた場合には、ユーザ認証を行う。そして、ユーザ認証が成功した場合には、画像表示部52に初期ウィンドウが表示される。この初期ウィンドウの表示処理は、主として基本表示モジュール35aの機能である。

40

【0117】

この初期ウィンドウの構成は、図24に示す血球分析装置2a, 2b用のアプリケーション

50

ョンプログラム 3 4 a における初期ウィンドウ 8 1 の構成と同様となっている。これは、アプリケーションプログラム 3 4 a と共用している基本表示モジュール 3 5 a 等によって初期ウィンドウが表示されるためである。また、血球分析装置 2 a , 2 b、及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b は夫々測定装置であるため、これらの測定結果の表示等に使用するアプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a の処理内容には共通点が多い。したがって、アプリケーションプログラムの構成の一部を無理なく共通化することができ、アプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a の開発工数を低減することができる。また、このようにユーザインタフェースを統一することによって、アプリケーションプログラム毎にユーザインタフェースが異なることによるユーザの負担、例えば各アプリケーションプログラム毎に操作を覚える手間等を軽減することができ、一つのアプリケーションプログラム 3 4 a の操作さえ覚えておけば、他のアプリケーションプログラム 5 4 a をある程度操作することができ、また操作を容易に覚えることができるので利便性が向上する。

10

【 0 1 1 8 】

この初期ウィンドウにおいて、ユーザがメニューウィンドウの測定登録ボタンを左クリックした場合には、CPU 5 1 a は、測定登録ウィンドウ 1 8 2 を表示する。図 3 0 は、測定登録ウィンドウ 1 8 2 の構成を示す模式図である。図 3 0 に示すように、測定登録ウィンドウ 1 8 2 は、ウィンドウ上部に設けられた測定項目グループ選択ボックス 1 8 2 a と、ラック番号を選択するためのラック番号選択ボックス 1 8 2 j と、測定項目テーブル 1 8 2 b を表示する測定項目テーブル表示領域 1 8 2 c と、測定項目リスト 1 8 2 d を表示する測定項目リスト表示領域 1 8 2 e と、検体に関する情報を入力するための検体情報入力領域 1 8 2 f と、患者に関する情報を表示するための患者情報表示領域 1 8 2 g と、測定項目を選択するための複数のボタン 1 8 2 h , 1 8 2 i が表示されるボタン表示領域 1 8 2 o とを有している。このように、測定登録ウィンドウ 1 8 2 の構成は、アプリケーションプログラム 3 4 a の測定登録ウィンドウ 8 2 の構成と同様となっている。なお、測定項目グループ選択ボックス 1 8 2 a、検体情報入力領域 1 8 2 f、及び患者情報表示領域 1 8 2 g の構成は、測定登録ウィンドウ 8 2 の測定項目グループ選択ボックス 8 2 a、検体情報入力領域 8 2 f、及び患者情報表示領域 8 2 g の構成と夫々同様であるので、説明を省略する。

20

【 0 1 1 9 】

ここでは、測定項目グループとして、血液凝固測定に関する測定項目グループ「C A __凝固法」というグループが設定されている場合について説明する。この C A __凝固法は、生物活性法により測定される測定項目、即ち、プロトロンビン時間 (P T)、活性化部分トロンボプラスチン時間 (A P T T)、フィブリノーゲン量 (F b g) 等の測定項目のグループである。ユーザは、測定項目グループ選択ボックス 1 8 2 a のプルダウンメニューを表示し、その中から「C A __凝固法」を選択する。また、この「C A __凝固法」がデフォルト設定されている場合には、ユーザは入力操作を省略することができる。このように「C A __凝固法」が選択された場合には、CPU 5 1 a は測定項目テーブル 1 8 2 b 及び測定項目リスト 1 8 2 d を作成し、夫々測定項目テーブル表示領域 1 8 2 c 及び測定項目リスト表示領域 1 8 2 e に表示する。

30

【 0 1 2 0 】

図 3 0 に示すように、測定項目テーブル 1 8 2 b は、チューブフィールド 1 8 2 p、検体番号フィールド 1 8 2 q、測定指定フィールド 1 8 2 s、P T フィールド 1 8 2 t、A P T T フィールド 1 8 2 u、F b g フィールド 1 8 2 v、患者 I D フィールド 1 8 2 w、及び検体コメントフィールド 1 8 2 x を有している。チューブフィールド 1 8 2 p には、チューブ番号が表示される。検体番号フィールド 1 8 2 q には、検体情報入力領域 1 8 2 f に入力された検体番号が表示される。P T フィールド 1 8 2 t には、対象の検体に対して、測定項目として P T が登録されている場合に、丸印、黒丸印、及び黒三角印のいずれかの記号が表示される。これらの記号の意味は、上述したアプリケーションプログラム 3 4 a における記号の意味と同様であるので、その説明を省略する。A P T T フィールド 1 8 2 u には、対象の検体に対して、測定項目として A P T T が登録されている場合に、

40

50

上記記号が表示される。また、F b g フィールド 1 8 2 v には、対象の検体に対して、測定項目として F b g が登録されている場合に、上記記号が表示される。図 3 0 の例を用いて説明すると、ラック番号「3」、チューブ番号「2」、検体番号「1 2 3」の検体は、P T、及び F b g が測定項目として登録されており、その両方が未測定であることとなる。

【0 1 2 1】

このような測定項目テーブル 1 8 2 b に表示されたレコードのうち、ユーザによって 1 つの検体番号に関する行が選択されたときには、この行が他の行とは異なる色でハイライト表示される。そして、C P U 5 1 a は、この選択された検体番号について測定項目の設定状態を測定項目リスト 1 8 2 d に表示する。図 3 0 に示すように、測定項目リスト 1 8 2 d には、生物活性法における測定項目がリスト表示され、夫々の測定項目について測定対象として設定されている場合には丸印が表示されるようになっている。図 3 0 の例で説明すると、検体番号「1 2 3」の行が選択されており、この検体については測定項目として P T と F b g とが登録されているので、測定項目リスト 1 8 2 d では、P T、F b g に対して丸印が表示されることとなる。

10

【0 1 2 2】

また、測定項目リスト表示領域 1 8 2 e の右方には、ボタン 1 8 2 h、1 8 2 i が縦に並べられて設けられている。ボタン 1 8 2 h は、P T + A P T T + F b g を登録するためのボタンであり、ユーザがこのボタン 1 8 2 h を左クリックすることにより、その時点で検体情報入力領域 1 8 2 f の入力ボックスに入力されている検体番号に対して、測定項目として P T、A P T T、F b g が登録される。同様に、ボタン 1 8 2 i は、P T + A P T T を測定項目として登録するためのボタンである。

20

【0 1 2 3】

ここで、検体情報がユーザによって入力されたとき場合には、C P U 5 1 a がデータベースサーバにこの検体番号を送信し、この検体番号に対応する患者情報をデータベースサーバに問い合わせる。データベースサーバは、かかる検体番号を検索キーとして患者情報を検索し、前記検体番号に対応する患者情報をデータ処理装置 5 へと送信する。このようにして、C P U 5 1 a は患者情報を取得する。図 3 0 の例を用いて説明すると、検体番号の入力ボックスに「1 2 3」が、ラックの入力ボックスに「3」が夫々入力されている。このとき、データ処理装置 3 は、検体番号「1 2 3」を示すデータをデータベースサーバへと送信し、対応する患者情報を要求する。データベースサーバは、検体番号「1 2 3」を検索キーとして対応する患者情報を検索し、この結果、この検体に対応する患者情報を獲得する。データベースサーバは、かかる患者情報をデータ処理装置 3 へと送信し、データ処理装置 3 は、受信した患者情報である患者の患者 ID「A B C 1 2 3 4 5」、名字「シスメックス」、名前「タロウ」、性別「M a l e」、生年月日「1 9 4 3 / 0 1 / 1 5」、病棟「0 1」、担当医「0 8 3 9」を患者情報表示領域 1 8 2 g の夫々対応する表示ボックスに表示させる。

30

【0 1 2 4】

また、ユーザは、上述のようにラック番号の入力ボックスにラック番号を入力する以外に、ラック番号選択ボックス 1 8 2 j でラック番号を指定することが可能である。このときユーザは、ラック番号選択ボックス 1 8 2 j のプルダウンメニューを表示し、その中から所望のラック番号を選択する。

40

【0 1 2 5】

また、検体番号の入力後、更にユーザがボタン 1 8 2 i を左クリックした場合には、そこで入力されているラック番号及びチューブ番号に対応する行の検体番号フィールドに、入力ボックスに入力された検体番号が表示され、またこの行の P T フィールド及び A P T T フィールドに丸印が表示される。また、この場合には、測定項目リスト 1 8 2 d において、P T、A P T T に対して丸印が表示されることとなる。また、C P U 5 1 a は、データベース D B 4 1 にアクセスして、これらの情報を登録する。このようにして、新たな検体についての測定登録を行うことが可能である。

50

【0126】

検体の測定を開始する場合、オペレータは、検体が収容された採血管（チューブ）をラックにセットし、このラックを血液凝固測定装置4a（4b）の前部に設けられた搬送部にセットする。ラックには、このラックを特定するラック番号を示すバーコードラベルが貼付されており、またチューブには、このチューブを特定するチューブ番号を示すバーコードラベル及びこのチューブに収容された検体の検体番号を示すバーコードラベルが貼付されている。搬送部によって、血液凝固測定装置4a（4b）の試料供給部（図示せず）の下方の検体供給位置に採血管がラックごと搬送され、その途中で血液凝固測定装置4aに設けられたバーコードリーダによってバーコードが読み取られる。血液凝固測定装置4aの制御部42は、このようにバーコードから読み取られたラック番号、チューブ番号、及び検体番号を示すデータをデータ処理装置5へと送信する。CPU51aは、血液凝固測定装置4aからデータを受信した場合には、このラック番号、チューブ番号、及び検体番号に対応する測定登録のデータが存在するか否かを判別する。この処理は、データベースDB41を参照して該当するラック番号、チューブ番号、及び検体番号のレコードが存在するか否かを判別することによって行われる。このラック番号、チューブ番号、及び検体番号について測定登録データが存在する場合には、CPU51aは、データベースDB41からこれに対応する測定項目を読み出す。

10

【0127】

かかるラック番号、チューブ番号、及び検体番号に対応する測定登録データが存在しない場合には、CPU51aは、検体番号データをデータベースサーバ7へと送信し、この検体の測定項目を問い合わせる。データベースサーバ7は、検体番号データを検索キーとして、この検体に対応する測定項目を検索する。検索の結果得られた測定項目は、測定項目データとして要求元のデータ処理装置5へと送信される。CPU51aは、測定項目データを受信した場合には、この測定項目データをRAM51cに設けられたオーダ発行用測定項目管理バッファに格納する。

20

【0128】

その後、例えば血液凝固測定装置4aの検体供給位置に測定対象の検体が収容された採血管が到達したことを、図示しないセンサによって制御部42が検出したときに、制御部42は測定項目の送信を要求する送信要求データをデータ処理装置5へと送信する。この送信要求データには、測定対象の検体の検体番号データが含まれている。CPU51aは、この送信要求データを受信した場合に、この送信要求データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファから取得し、この測定項目データを血液凝固測定装置4aへと送信する。以上の場合のデータの流れは、図26を用いて説明したデータ処理装置3でのデータの流れと同様であるので、その説明を省略する。

30

【0129】

その後、血液凝固測定装置4aの制御部42は、試料供給部に採血管から検体を吸引させる。この吸引が完了した後に、制御部42は、吸引の完了を通知するための吸引完了通知データをデータ処理装置5へと送信する。この吸引完了通知データには、吸引した検体の検体番号データが含まれている。CPU51aは、この吸引完了通知データを受信した場合に、この吸引完了通知データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファから取得し、検体番号に対応付けてデータベースDB41に登録する。

40

【0130】

次に、血液凝固測定装置4aは、採血管から吸引した検体を測定部41に供給し、データ処理装置5から与えられた測定項目について測定を開始する。測定終了後は、制御部42が測定値データをデータ処理装置5へと送信する。この測定値データには、検体番号データが含まれている。CPU51aは、この測定値データを受信した場合に、データベースDB41に検体番号に対応付けて測定値を登録する。ここで、ユーザが測定結果の表示を指示する入力を行った場合には、CPU51aは、データベースDB41から測定値デ

50

ータを読み出し、測定結果表示ウィンドウを表示する。本実施の形態 1 においては、この測定結果表示ウィンドウの表示は、データ処理装置 3 の場合と同様に、ユーザがメニューウィンドウ内のサンプルエクスプローラボタンを左クリックした場合に実行される。

【0131】

図 3 1 は、測定結果表示ウィンドウ 1 8 4 の構成を示す模式図である。図 3 1 に示すように、測定結果表示ウィンドウ 1 8 4 は、検体情報テーブル 1 8 4 a を表示する検体情報テーブル表示領域 1 8 4 b と、後述する数値データテーブル 1 8 4 c を表示する数値データテーブル表示領域 1 8 4 d と、患者に関する情報を表示するための患者情報表示領域 1 8 4 e とを有している。患者情報表示領域 1 8 4 e は、図 2 7 で示した測定結果表示ウィンドウ 8 4 の患者情報表示領域 8 4 e と同様であるので、その説明を省略する。

10

【0132】

上述したように、サンプルエクスプローラボタンが左クリックされた場合には、C P U 5 1 a は、過去に測定が行われた検体に関する検体情報及び当該検体に関する測定値データをデータベース D B 4 1 から取得し、これらの情報から検体情報テーブル 1 8 4 a 及び数値データテーブル 1 8 4 c を作成して夫々検体情報テーブル表示領域 1 8 4 b 及び数値データテーブル表示領域 1 8 4 d に表示し、また患者情報を患者情報表示領域 1 8 4 e に表示する。図 3 1 に示すように、検体情報テーブル 1 8 4 a には、検体番号フィールド 1 8 4 f、測定装置 I D フィールド 1 8 4 h、測定時刻フィールド 1 8 4 i、及び測定値フィールド 1 8 4 j, 1 8 4 k, 1 8 4 m, 1 8 4 n, 1 8 4 o, 1 8 4 p, 1 8 4 q, 1 8 4 r が設けられている。検体番号フィールド 1 8 4 f には、過去に測定された検体の検体番号が表示される。測定装置 I D フィールド 1 8 4 h には、検体を測定した測定装置の測定装置 I D が表示される。測定時刻フィールド 1 8 4 i には、検体を測定した時刻が表示される。測定値フィールド 1 8 4 j, 1 8 4 k, 1 8 4 m, 1 8 4 n, 1 8 4 o, 1 8 4 p, 1 8 4 q, 1 8 4 r には、検体の各測定値が表示される。このような検体情報テーブル表示領域 1 8 4 b の下部には、測定項目切替タブ 1 8 4 s が設けられている。ここでは、C A タブ 1 8 4 s のみが設けられている場合について説明する。即ち、本実施の形態 1 では、C A タブ 1 8 4 s が常時選択されており、血液凝固測定の測定項目に関する検体情報テーブル 1 8 4 a 以外は表示させることができない。かかる検体情報テーブル 1 8 4 a の測定値フィールド 1 8 4 j, 1 8 4 k, 1 8 4 m, 1 8 4 n, 1 8 4 o, 1 8 4 p, 1 8 4 q, 1 8 4 r には、P T __ % (プロトロンビン活性パーセント)、P T __ R (プロトロンビン比)、P T __ I N R (プロトロンビン I N R (国際標準比))、A P T T、F b g、F b g __ C (フィブリノーゲン濃度)、A T 3 __ d O D (アンチプロトロンビン I I I 透過光変化率)、A T 3 __ % (アンチプロトロンビン I I I 活性パーセント)、A P L __ d O D (アンチプラスミン透過光変化率)等の各測定値が表示されるようになっている。なお、検体番号フィールド 1 8 4 f、測定装置 I D フィールド 1 8 4 h、測定時刻フィールド 1 8 4 i はどのタブが選択されている場合でも表示される。

20

30

【0133】

このような検体情報テーブル 1 8 4 a に表示されたレコードのうち、ユーザによって 1 つの検体番号に関する行が選択されたときには、この行が他の行とは異なる色でハイライト表示される。そして、C P U 5 1 a は、この選択された検体番号についての測定値を数値データテーブル 1 8 4 c に表示する。図 3 1 に示すように、数値データテーブル 1 8 4 c は、血液凝固測定における測定項目フィールド 1 8 4 v、数値データフィールド 1 8 4 w、及び単位フィールド 1 8 4 x を有している。測定項目フィールド 1 8 4 v には、測定項目の名称が表示される。数値データフィールド 1 8 4 w には、その行の測定項目に対応する検体の測定値が表示される。単位フィールド 1 8 4 x には、その行の測定値の単位が表示される。このような測定結果表示ウィンドウ 1 8 4 が表示されることによって、ユーザは血液凝固測定装置 4 a による測定結果を確認することができる。また、データ処理装置 5 が血液凝固測定装置 4 a から測定値データを受信してから、測定結果表示ウィンドウを表示するまでのデータの流れは、図 2 8 を用いて説明したデータ処理装置 3 でのデータの流れと同様であるので、その説明を省略する。

40

50

【0134】

このように、測定結果表示ウィンドウ184は、上述したアプリケーションプログラム34aにおける測定結果表示ウィンドウ84と同様の構成となっている。これは、上述した初期ウィンドウの場合と同様に、アプリケーションプログラム34aと共用している基本表示モジュール35a等によって測定結果表示ウィンドウ184が表示されるためである。また、このようにユーザインタフェースを統一させることにより、ユーザの利便性を向上させることができる。また、共通のユーザインタフェースに関しては、共通モジュールにより実現することができるので、アプリケーションプログラム34a、54aの設計、開発の効率を向上させることが期待できる。

【0135】

また、ユーザが測定結果の詳細情報の表示を指示する入力を行った場合には、CPU51aは、データベースDB41から測定値データを読み出し、測定結果詳細情報表示ウィンドウを表示する。本実施の形態1においては、上述したアプリケーションプログラム34aにおける測定結果詳細情報表示ウィンドウの表示と同様に、ユーザが測定結果表示ウィンドウ184内の検体情報テーブル184aをダブルクリックした場合に測定結果詳細情報表示ウィンドウが開き、この測定結果詳細情報表示ウィンドウには、ダブルクリックされたデータについての詳細情報が表示される。また、測定結果詳細情報表示ウィンドウは、ユーザがメニューウィンドウ内のデータブラウザボタンを左クリックした場合等にも表示される。

【0136】

図32は、測定結果詳細情報表示ウィンドウ186の構成を示す模式図である。図32に示すように、測定結果詳細情報表示ウィンドウ186は、測定結果に異常が認められるか否かを表示する異常表示領域186aと、検体情報を表示する検体情報表示領域186bと、測定結果の各種詳細情報を表示する詳細情報表示領域186cとを有している。図29に示した測定結果詳細情報表示ウィンドウ86と同様に、異常表示領域186aは、測定結果詳細情報表示ウィンドウ186の左上部に設けられ、測定結果に異常が認められた場合には「Positive」と表示され、これがダブルクリックされることによって異常の分類を表示するようになっている。また、この異常表示領域186aは、異常および測定エラーのない場合に「Negative」と表示されるようになっている。また、検体情報表示領域186bは、図29で示した測定結果詳細情報表示ウィンドウ86の検体情報表示領域86bと同様であるので、その説明を省略する。

【0137】

詳細情報表示領域186cには、各種測定結果に関する詳細情報を表示するためのウィンドウが表示される。図32では、詳細情報表示領域186cに血液凝固測定メインウィンドウ186dを表示した場合を示している。血液凝固測定メインウィンドウ186dは、各測定項目の数値データを表示するための数値データ表示領域186eと、各測定項目の凝固曲線をグラフ表示するためのグラフ表示領域186fとを有している。

【0138】

数値データ表示領域186eには、各測定項目についての数値データとその単位とを表示する数値データテーブル186hが表示される。この数値データテーブル186hは、図29に示した測定結果詳細情報表示ウィンドウ86における数値データテーブル86hと同様に、測定項目、数値データ、及び単位のフィールドを有しており、測定項目毎に数値データが表形式で表示されるようになっている。また、数値データテーブル186hには、各測定項目毎に測定数値の正常範囲からのずれをグラフィカル表示するSDバーが表示されるようになっており、これによりユーザが測定数値の正常範囲に対するずれの程度を容易に確認することができるようになっている。

【0139】

グラフ表示領域186fには、測定項目毎に、凝固曲線のグラフと測定値データと演算項目の数値データとが表示される。図32では、PT、APTT、Fgb、AT3、APL、Plgの6つの測定項目を測定対象としている場合を示している。このグラフ表示領

10

20

30

40

50

域 1 8 6 f には、各測定項目についての表示領域 1 8 6 i , 1 8 6 j , 1 8 6 k , 1 8 6 m , 1 8 6 n , 1 8 6 o がマトリックス状に並べられており、夫々の表示領域 1 8 6 i , 1 8 6 j , 1 8 6 k , 1 8 6 m , 1 8 6 n , 1 8 6 o に凝固曲線グラフ、測定値データ、及び演算項目の数値データが表示される。凝固曲線グラフは、縦軸が散乱光強度、横軸が時間のグラフである。この凝固曲線グラフの下には、各項目の凝固時間又は d O D (透過光変化率) が表示される。また凝固時間 (d O D) の下には、演算項目の数値データが表示される。図 3 2 では、P T , A P T T , F b g の各測定項目には測定データが存在するため、これらの測定項目についての表示領域 1 8 6 i , 1 8 6 j , 1 8 6 k には凝固曲線グラフ等が表示されているが、A T 3 , A P L , P l g の各測定項目に測定データがないため、これらの測定項目についての表示領域 1 8 6 m , 1 8 6 n , 1 8 6 o は空白となっている。

10

【 0 1 4 0 】

なお、上述のような詳細情報表示領域 1 8 6 c には、血液凝固測定メインウィンドウ 1 8 6 d の他、各測定項目についての詳細な情報を表示する測定項目詳細ウィンドウ等を開くことができるようになっていいる。これらのウィンドウの表示は、詳細情報表示領域 1 8 6 c の上部に設けられたタブで切り替えることができる。例えば、「メイン (C A) 」と表記されたタブが左クリックされた場合には、血液凝固測定メインウィンドウ 1 8 6 d が表示され、「詳細」と表記されたタブが左クリックされた場合には、測定項目詳細ウィンドウが表示されることとなる。

【 0 1 4 1 】

20

このように、データ処理装置 5 の測定結果詳細情報表示ウィンドウ 1 8 6 は、データ処理装置 3 の測定結果詳細情報表示ウィンドウ 8 6 に対して詳細情報表示領域 1 8 6 c の表示内容が異なっているが、その他のウィンドウ構成 (例えば、異常表示領域 1 8 6 a 、検体情報表示領域 1 8 6 b 、及び詳細情報表示領域 1 8 6 c の配置) は同様となっている。上述したように、詳細情報表示領域 1 8 6 c に表示する内容は、血液凝固測定特有のものであり、この詳細情報表示領域 1 8 6 c の表示内容まで測定結果詳細情報表示ウィンドウ 8 6 と共通化することはできない。これに対して、詳細情報表示領域 1 8 6 c 以外の部分、即ち異常表示領域 1 8 6 a 及び検体情報表示領域 1 8 6 b に表示する内容は、概ね血球分析の場合と一致している。このように測定結果詳細情報表示ウィンドウ 8 6 及び 1 8 6 は、表示する情報の共通点が多く、そのため測定結果詳細情報表示ウィンドウ 1 8 6 のウィンドウ構成は、測定結果詳細情報表示ウィンドウ 8 6 と多くの部分を共通化されている。また、詳細情報表示領域 1 8 6 c に表示させる内容についても、数値データテーブル 1 8 6 h 等、詳細情報表示領域 8 6 c の表示内容と一致する部分の構成が共通化されている。このようにデータ処理装置 3 , 5 のユーザインタフェースを統一することによって、ユーザに共通の操作性を提供することができ、ユーザが各データ処理装置毎に学習しなければならない操作手順を可及的に少なくすることができ、ユーザの利便性が向上する。また、共通のユーザインタフェースに関しては、共通モジュールにより実現することができるので、アプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a の設計、開発の効率を向上させることが期待できる。

30

【 0 1 4 2 】

40

次に、血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の全てデータを参照することが可能な管理者 (技師長等) であるユーザが、データ処理装置 6 を使用して血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定結果を確認する場合の分析システム 1 の動作について説明する。まず、ユーザは、アプリケーションプログラム 6 4 a を起動する。この場合も、アプリケーションプログラム 3 4 a の場合と同様に、コンピュータ 6 a の C P U 6 1 a は、画像表示部 6 2 にログオンウィンドウを表示させ、ここでログオン I D 及びパスワードの入力を受け付けた場合には、ユーザ認証を行う。そして、ユーザ認証が成功した場合には、画像表示部 6 2 に初期ウィンドウが表示される。この初期ウィンドウの表示処理は、主として基本表示モジュール 3 5 a の機能である。

【 0 1 4 3 】

50

この初期ウィンドウの構成は、図 2 4 に示す血球分析装置 2 a , 2 b 用のアプリケーションプログラム 3 4 a における初期ウィンドウ 8 1、及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b 用のアプリケーションプログラム 5 4 a における初期ウィンドウの構成と同様となっている。これは、アプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a と共用している基本表示モジュール 3 5 a 等によって初期ウィンドウが表示されるためである。また、上述したようにアプリケーションプログラムの構成の一部を共通化することで、アプリケーションプログラム 3 4 a , 5 4 a , 6 4 a の開発工数を低減することができる。また、ユーザインタフェースを統一することによって、アプリケーションプログラム毎にユーザインタフェースが異なることによるユーザの負担を軽減することができ、ユーザの利便性を向上させることができる。

10

【 0 1 4 4 】

この初期ウィンドウにおいて、ユーザがメニューウィンドウの測定登録ボタンを左クリックした場合には、CPU 6 1 a は、測定登録ウィンドウ 2 8 2 を表示する（図 2 5 参照）。測定登録ウィンドウ 2 8 2 は、ウィンドウ上部に設けられた測定項目グループ選択ボックス 2 8 2 a と、測定項目テーブル 2 8 2 b を表示する測定項目テーブル表示領域 2 8 2 c と、測定項目リスト 2 8 2 d を表示する測定項目リスト表示領域 2 8 2 e と、検体に関する情報を入力するための検体情報入力領域 2 8 2 f と、患者に関する情報を表示するための患者情報表示領域 2 8 2 g と、測定項目を選択するための複数のボタン 2 8 2 h , 2 8 2 i , 2 8 2 j , 2 8 2 k , 2 8 2 m , 2 8 2 n が表示されるボタン表示領域 2 8 2 o とを有している。このように、測定登録ウィンドウ 2 8 2 の構成は、アプリケーション

20

【 0 1 4 5 】

かかるデータ処理装置 6 は、血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の全ての動作設定を行うことができるようになっている。したがって、データ処理装置 6 においては、上述した「MCC」と「CA__凝固法」の測定項目グループが設定されている。ユーザは、測定項目グループ選択ボックス 2 8 2 a から所望の測定項目グループを選択することができる。ここでユーザが「MCC」を選択した場合には、CPU 6 1 a がハードディスク 6 1 d のデータベース DB 2 1 にアクセスし、図 2 5 に示すようなデータ処理装置 3 の測定登録ウィンドウ 8 2 と同様の測定登録ウィンドウ 2 8 2 を表示する。また、ユーザが「CA__凝固法」を選択した場合には、CPU 6 1 a がハードディスク 6 1 d のデータベース DB 4 1 にアクセスし、図 3 0 に示した測定登録ウィンドウ 1 8 2 と同様の測定登録ウィンドウを表示する。なお、測定登録ウィンドウ 2 8 2 の使用方法、及び CPU 6 1 a の処理については、上述したデータ処理装置 3 , 5 の場合における測定登録ウィンドウ 8 2 , 1 8 2 の使用方法、及び CPU 3 1 a , 5 1 a の処理と夫々同様であるので、その説明を省略する。

30

【 0 1 4 6 】

検体の血球分析を開始する場合、ユーザは、検体が収容された採血管をラックにセットし、このラックを血球分析装置 2 a (2 b) の前部に設けられた搬送部にセットする。搬送部によって採血管がラックごと搬送され、その途中でバーコードリーダによってバーコード（検体番号）が読み取られ、検体番号データがデータ処理装置 6 へと送信される。CPU 6 1 a は、上述したデータ処理装置 3 における処理と同様に、データベース DB 2 1 又はデータベースサーバ 7 からこの検体番号に対応する測定項目を取得し、この測定項目データを RAM 6 1 c に設けられたオーダ発行用測定項目管理バッファに格納する。その後、データ処理装置 6 は、血球分析装置 2 a から測定項目の送信を要求する送信要求データを受信した場合に、この送信要求データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データを前記オーダ発行用測定項目管理バッファから取得し、この測定項目データを血球分析装置 2 a へと送信する。

40

【 0 1 4 7 】

その後、血球分析装置 2 a において採血管からの検体の吸引が完了したときに、吸引の

50

完了を通知するための吸引完了通知データが血球分析装置 2 a からデータ処理装置 6 へ送信される。データ処理装置 6 は、この吸引完了通知データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファから取得し、検体番号に対応付けてデータベース D B 2 1 に登録する。

【 0 1 4 8 】

次に、血球分析装置 2 a は、採血管から吸引した検体を光学式検出部 2 1、R B C 検出部 2 2、H G B 検出部 2 3、及び I M I 検出部 2 4 の何れかに供給し、データ処理装置 6 から与えられた測定項目について測定を開始する。測定終了後は、血球分析装置 2 a から測定値データがデータ処理装置 6 へと送信される。C P U 6 1 a は、この測定値データを受信した場合に、データベース D B 2 1 に検体番号に対応付けて測定値を登録する。

10

【 0 1 4 9 】

これに対して、検体の血液凝固測定を開始する場合、ユーザは、検体が収容された採血管をラックにセットし、このラックを血液凝固測定装置 4 a (4 b) の前部に設けられた搬送部にセットする。搬送部によって採血管がラックごと搬送され、その途中でバーコードリーダによってバーコードが読み取られ、検体番号データがデータ処理装置 6 へと送信される。C P U 6 1 a は、データベース D B 4 1 又はデータベースサーバ 7 からこの検体番号に対応する測定項目を取得し、この測定項目データを R A M 6 1 c に設けられたオーダ発行用測定項目管理バッファに格納する。その後、データ処理装置 6 は、血液凝固測定装置 4 a から測定項目の送信を要求する送信要求データを受信した場合に、この送信要求データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データを前記オーダ発行用測定項目管理バッファから取得し、この測定項目データを血液凝固測定装置 4 a へと送信する。以上の場合のデータの流れは、図 2 6 を用いて説明したデータ処理装置 3 でのデータの流れと同様であるので、その説明を省略する。

20

【 0 1 5 0 】

その後、血液凝固測定装置 4 a において採血管からの検体の吸引が完了したときに、吸引の完了を通知するための吸引完了通知データが血液凝固測定装置 4 a からデータ処理装置 6 へ送信される。データ処理装置 6 は、この吸引完了通知データに含まれる検体番号データに対応する測定項目データをオーダ発行用測定項目管理バッファから取得し、検体番号に対応付けてデータベース D B 4 1 に登録する。

【 0 1 5 1 】

30

次に、血液凝固測定装置 4 a は、採血管から吸引した検体を測定部 4 1 に供給し、データ処理装置 6 から与えられた測定項目について測定を開始する。測定終了後は、血液凝固測定装置 4 a から測定値データがデータ処理装置 6 へと送信される。C P U 6 1 a は、この測定値データを受信した場合に、データベース D B 4 1 に検体番号に対応付けて測定値を登録する。なお、以上説明したデータ処理装置 6 を用いて検体の血球分析及び血液凝固測定を行う場合におけるデータの流れは、図 2 6 を用いて説明したデータ処理装置 3 でのデータの流れと同様であるので、その説明を省略する。

【 0 1 5 2 】

このように、データ処理装置 6 を用いることにより、血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の両方に対して測定項目を提供することができ、また、データ処理装置 6 で血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の両方の測定データを受信し、データ処理装置 6 に設けられたデータベース D B 2 1 , D B 4 1 に測定値を登録することができる。したがって、データ処理装置 3 , 5 のいずれか一方が故障等により使用することができない場合にも、データ処理装置 6 を用いることにより血球分析装置 2 a , 2 b 又は血液凝固測定装置 4 a , 4 b による検体の測定を行うことができる。

40

【 0 1 5 3 】

ここで、ユーザが測定結果の表示を指示する入力を行った場合には、C P U 6 1 a は、データベース D B 2 1 , D B 4 1 から測定値データを読み出し、測定結果表示ウィンドウを表示する。本実施の形態 1 においては、測定結果表示ウィンドウの表示は、ユーザがメニューウィンドウ内のサンプルエクスプローラボタンを左クリックした場合に実行される

50

。

【 0 1 5 4 】

図 3 3 は、測定結果表示ウィンドウ 2 8 4 の構成を示す模式図である。図 3 3 に示すように、測定結果表示ウィンドウ 2 8 4 は、検体情報テーブル 2 8 4 a を表示する検体情報テーブル表示領域 2 8 4 b と、数値データテーブル 2 8 4 c を表示する数値データテーブル表示領域 2 8 4 d と、患者に関する情報を表示するための患者情報表示領域 2 8 4 e とを有している。患者情報表示領域 2 8 4 e は、図 2 7 で示した測定結果表示ウィンドウ 8 4 の患者情報表示領域 8 4 e と同様であるので、その説明を省略する。

【 0 1 5 5 】

上述したようにサンプルエクスプローラボタンが左クリックされた場合には、C P U 3 1 a は、過去に測定が行われた検体に関する検体情報及び当該検体に関する測定値データをデータベース D B 2 1 , D B 4 1 から取得し、これらの情報から検体情報テーブル 2 8 4 a 及び数値データテーブル 2 8 4 c を作成して夫々検体情報テーブル表示領域 2 8 4 b 及び数値データテーブル表示領域 2 8 4 d に表示し、また患者情報を患者情報表示領域 2 8 4 e に表示する。図 3 3 に示すように、検体情報テーブル 2 8 4 a には、検体番号フィールド 2 8 4 f、測定装置 I D フィールド 2 8 4 h、測定時刻フィールド 2 8 4 i、及び測定値フィールド 2 8 4 j , 2 8 4 k , 2 8 4 m , 2 8 4 n , 2 8 4 o , 2 8 4 p , 2 8 4 q , 2 8 4 r が設けられている。かかる検体情報テーブル 2 8 4 a のフィールド 2 8 4 f ~ 2 8 4 r は、データ処理装置 3 における測定結果表示ウィンドウ 8 4 に含まれる検体情報テーブル 8 4 a のフィールド 8 4 f ~ 8 4 r と同様であるので、その説明を省略する。このような検体情報テーブル表示領域 2 8 4 b の下部には、測定項目切替タブ 2 8 4 s , 2 8 4 t , 2 8 4 u , 2 8 4 y が設けられている。ここでは、C B C タブ 2 8 4 s、D I F F タブ 2 8 4 t、R E T タブ 2 8 4 u、及び C A タブ 2 8 4 y が設けられている場合について説明する。C B C タブ 2 8 4 s が選択されているときには、測定値フィールド 2 8 4 j , 2 8 4 k , 2 8 4 m , 2 8 4 n , 2 8 4 o , 2 8 4 p , 2 8 4 q , 2 8 4 r に、W B C , R B C , H G B , H C T , M C V , M C H , M C H C , P L T の各測定値が表示されるようになってい。D I F F タブ 2 8 4 t がクリックされた場合には、検体情報テーブル 2 8 4 a が切り替わり、測定値フィールドに D I F F の測定項目についての測定値が表示される。また R E T タブ 2 8 4 u が選択されたときには、測定値フィールドに R E T の測定項目についての測定値が表示され、C A タブ 2 8 4 y が選択されたときには、測定値フィールドに血液凝固測定の測定項目についての測定値が表示される。このように、データ処理装置 6 の測定結果表示ウィンドウ 2 8 4 においては、血球分析装置 2 a , 2 b の測定項目についての測定値を表示するための C B C タブ 2 8 4 s , D I F F タブ 2 8 4 t , R E T タブ 2 8 4 u と、血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定項目についての測定値を表示するための C A タブ 2 8 4 y が設けられており、これらを切り替えることにより、血球分析装置 2 a , 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a , 4 b の両方の測定結果を表示させることができるようになってい。なお、検体番号フィールド 8 4 f、測定装置 I D フィールド 8 4 h、測定時刻フィールド 8 4 i はどのタブが選択されている場合でも表示される。また、この他にも、N R B C タブを設けて、このタブが選択されているときには、N R B C の測定項目についての測定値が表示されるようにしてもよい。

【 0 1 5 6 】

このような検体情報テーブル 2 8 4 a には、データベース D B 2 1 から読み出した測定結果（即ち、血球分析装置 2 a , 2 b の測定結果）とデータベース D B 4 1 から読み出した測定結果（即ち、血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定結果）とが混在して表示される。ここで、血球分析装置 2 a , 2 b の測定項目についての測定値を表示するためのタブ（例えば、C B C タブ 2 8 4 s）が選択されている場合には、血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定結果についてのデータにおいては血球分析装置の測定項目の測定値が存在しないため、血液凝固測定装置 4 a , 4 b の測定結果の行の各測定項目のマスが空白で表示されることとなる。

【 0 1 5 7 】

10

20

30

40

50

このような検体情報テーブル 284 a に表示されたレコードのうち、ユーザによって 1 つの検体番号に関する行が選択されたときには、この行が他の行とは異なる色でハイライト表示される。そして、CPU 61 a は、この選択された検体番号についての測定値を数値データテーブル 284 c に表示する。図 33 に示すように、数値データテーブル 284 c には、測定項目フィールド 284 v、数値データフィールド 284 w、及び単位フィールド 284 x が設けられている。検体情報テーブル 284 a において血球分析装置 2 a, 2 b の測定結果の行が選択されている場合には、数値データテーブル 284 c の測定項目フィールド 284 v には、血球分析装置 2 a, 2 b の測定項目の名称が表示される。数値データフィールド 284 w には、その行の測定項目に対応する検体の測定値が表示される。単位フィールド 284 x には、その行の測定値の単位が表示される。また、検体情報テーブル 284 a において血液凝固測定装置 4 a, 4 b の測定結果の行が選択された場合には、数値データテーブル 284 c の表示が切り替わり、測定項目フィールド 284 v には血液凝固測定装置 4 a, 4 b の測定項目の名称が表示され、数値データフィールド 284 w には、その行の測定項目に対応する検体の測定値が表示され、単位フィールド 284 x には、その行の測定値の単位が表示されることとなる。このような測定結果表示ウィンドウ 284 が表示されることによって、ユーザは血球分析装置 2 a, 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a, 4 b による測定結果を確認することができる。また、データ処理装置 6 が血球分析装置 2 a 又は血液凝固測定装置 4 から測定値データを受信してから、測定結果表示ウィンドウを表示するまでのデータの流れは、図 28 を用いて説明したデータ処理装置 3 でのデータの流れと同様であるので、その説明を省略する。

10

20

【0158】

このように、測定結果表示ウィンドウ 184 は、上述したアプリケーションプログラム 34 a, 54 a における測定結果表示ウィンドウ 84, 184 と同様の構成となっている。これは、上述した初期ウィンドウの場合と同様に、アプリケーションプログラム 34 a, 54 a と共用している基本表示モジュール 35 a 等によって測定結果表示ウィンドウ 284 が表示されるためである。また、このようにユーザインタフェースを統一させることにより、ユーザの利便性を向上させることができる。また、共通のユーザインタフェースに関しては、共通モジュールにより実現することができるので、アプリケーションプログラム 34 a, 54 a, 64 a の設計、開発の効率を向上させることが期待できる。

【0159】

また、ユーザは、データ処理装置 6 を使用することによって、血球分析装置 2 a, 2 b の測定結果及び分析結果と、血液凝固測定装置 4 a, 4 b の測定結果及び分析結果とを選択的に切り替えて画面に表示させ、種類の異なる測定結果を確認した上で、分析結果のバリデーションを行う。なお、分析結果のバリデーションは、ユーザが入力部 33 を操作して、バリデーションする対象の分析結果を選択した状態で図示しないバリデーションメニューを選択することにより実行される。また、分析結果のバリデーションは、データ処理装置 6 だけでなく、データ処理装置 3, 5 によっても実行することが可能である。このように、データ処理装置 6 では、タブによって測定項目グループを選択するだけで、その測定項目グループの測定結果及び分析結果を確認することができるため、容易に種類の異なる測定結果を参照することが可能であり、バリデーション対象の分析結果と同じ測定装置による測定結果だけでなく、異なる種類の測定装置による測定結果をも分析結果のバリデーションの判断材料として利用することができ、この結果バリデーションの妥当性を向上させることができる。

30

40

【0160】

また、正常な測定結果及び分析結果が既知のコントロール物質を対象として血球分析装置 2 a, 2 b 及び血液凝固測定装置 4 a, 4 b にて測定を実行させ、データ処理装置 6 でこのときの測定結果及び分析結果を表示させ、正常な測定結果及び分析結果と比較することにより、一つのデータ処理装置 6 を使用して種類の異なる測定装置 2 a (2 b), 4 a (4 b) の精度管理を容易に行うことができる。これにより、従来、専用のデータ処理装置では 1 種類の測定装置の精度管理しか行えなかったため、複数種類の測定装置の精度管理を行うためには、ユーザが各データ処理装置間を移動して夫々の測定装置の精度管理を

50

行わなければならなかったが、かかる煩雑な手間を削減することができ、ユーザの利便性を大幅に向上させることができる。

【0161】

また、検体番号に対応して血球分析装置2a, 2b及び血液凝固測定装置4a, 4bの測定結果及び分析結果を選択的に切り替えて表示することとしたため、ユーザは同一検体の様々な測定結果及び分析結果を容易に確認することができ、非常に便利である。また、バリデートされた分析結果はデータベースサーバ7に送信され、蓄積されることとなるが、ユーザはデータベースサーバ7にアクセスして分析結果を確認しなくても、データ処理装置6を使用して、測定結果も含めたより詳細な分析結果情報を得ることができる。このことは、データベースサーバ7に対するアクセス量の削減をもたらし、これによってデータベースサーバ7の負荷分散が実現でき、分析システム1全体のパフォーマンスが向上する。

10

【0162】

また、ユーザが測定結果の詳細情報の表示を指示する入力を行った場合には、CPU61aは、データベースDB21, DB41から測定値データを読み出し、測定結果詳細情報表示ウィンドウを表示する。本実施の形態1においては、上述したアプリケーションプログラム34a, 54aにおける測定結果詳細情報表示ウィンドウの表示と同様に、ユーザが測定結果表示ウィンドウ284内の検体情報テーブル284aをダブルクリックした場合に測定結果詳細情報表示ウィンドウが開き、この測定結果詳細情報表示ウィンドウには、ダブルクリックされたデータについての詳細情報が表示される。また、測定結果詳細情報表示ウィンドウは、ユーザがメニューウィンドウ内のデータブラウザボタンを左クリックした場合等にも表示される。

20

【0163】

図34は、測定結果詳細情報表示ウィンドウ286の構成を示す模式図である。図34に示すように、測定結果詳細情報表示ウィンドウ286は、測定結果に異常が認められるか否かを表示する異常表示領域286aと、検体情報を表示する検体情報表示領域286bと、測定結果の各種詳細情報を表示する詳細情報表示領域286cとを有している。図29及び図32に示した測定結果詳細情報表示ウィンドウ86, 186と同様に、異常表示領域286aは、測定結果詳細情報表示ウィンドウ286の左上部に設けられ、測定結果に異常が認められた場合には「Positive」と表示され、これがダブルクリックされることによって異常の分類を表示するようになっている。また、この異常表示領域286aは、異常および測定エラーのない場合に「Negative」と表示されるようになっている。また、検体情報表示領域286bは、図29及び図32で示した測定結果詳細情報表示ウィンドウ86, 186の検体情報表示領域86b, 186bと同様であるので、その説明を省略する。

30

【0164】

詳細情報表示領域286cには、各種測定結果に関する詳細情報を表示するためのウィンドウが表示される。図34では、詳細情報表示領域286cに血液凝固測定メインウィンドウ286dを表示した場合を示している。血液凝固測定メインウィンドウ286dは、各測定項目の数値データを表示するための数値データ表示領域286eと、各測定項目の凝固曲線をグラフ表示するためのグラフ表示領域286fとを有している。かかる血液凝固測定メインウィンドウ286dは、データ処理装置5の測定結果詳細情報表示ウィンドウ186の詳細情報表示領域186cに表示される血液凝固測定メインウィンドウ186dと同様であるので、その説明を省略する。

40

【0165】

また、上述のような詳細情報表示領域286cには、血液凝固測定メインウィンドウ286dの他、血球分析の測定結果についての詳細情報を表示する血球分析メインウィンドウ、測定結果をグラフ表示するグラフウィンドウ、白血球に関する詳細情報を表示するWBCウィンドウ、赤血球に関する詳細情報を表示するRBCウィンドウ、血液凝固測定の各測定項目についての詳細な情報を表示する測定項目詳細ウィンドウ等を開くことができる

50

ようになっている。これらのウィンドウの表示は、詳細情報表示領域 186c の上部に設けられたタブで切り替えることができる。例えば、「メイン (MCC)」と表記されたタブが左クリックされた場合には、血球分析メインウィンドウが表示され、「メイン (CA)」と表記されたタブが左クリックされた場合には、血液凝固測定メインウィンドウ 286d が表示され、「グラフ」と表記されたタブが左クリックされた場合には、グラフウィンドウが表示され、「詳細」と表記されたタブが左クリックされた場合には、測定項目詳細ウィンドウが表示されることとなる。

【0166】

このように、データ処理装置 6 の測定結果詳細情報表示ウィンドウ 286 は、データ処理装置 3 の測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86 の詳細情報表示領域 86c に表示されるウィンドウ (例えば、血球分析メインウィンドウ、グラフウィンドウ) を表示することが可能であると共に、データ処理装置 5 の測定結果詳細情報表示ウィンドウ 186 の詳細情報表示領域 186c に表示されるウィンドウ (例えば、血液凝固測定メインウィンドウ、測定項目詳細ウィンドウ) を表示することも可能であり、その点がデータ処理装置 3, 5 の測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86, 186 と異なっているが、その他のウィンドウ構成 (例えば、異常表示領域 286a、検体情報表示領域 286b、及び詳細情報表示領域 286c の配置) は測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86, 186 と同様となっている。上述したように、詳細情報表示領域 286c に表示されるウィンドウは、夫々測定結果詳細情報表示ウィンドウ 86, 186 の詳細情報表示領域 86c, 186c に表示されるウィンドウと共通のものである。したがって、これらのウィンドウの表示に関するプログラムモジュールは、アプリケーションプログラム 34a, 54a のプログラムモジュールと共用することが可能である。更に、詳細情報表示領域 186c 以外の部分、即ち異常表示領域 186a 及び検体情報表示領域 186b に表示する内容は、概ね血球分析の場合と一致している。したがって、これらの部分の表示に関するプログラムモジュールも、アプリケーションプログラム 34a, 54a と共用することが可能である。このようにアプリケーションプログラム 34a, 54a, 64a の間でプログラムモジュールを共用することによって、アプリケーションプログラム 34a, 54a, 64a の設計、開発の効率を向上させることが期待できる。また、上述のようにデータ処理装置 3, 5, 6 のユーザインタフェースを統一することによって、ユーザに共通の操作性を提供することができ、ユーザが各データ処理装置毎に学習しなければならない操作手順を可及的に少なくすることができ、ユーザの利便性が向上する。

【0167】

次に、本発明の実施の形態 1 に係る分析システム 1 のフォールトトレランスに関する動作について説明する。図 35 は、本発明の実施の形態 1 に係る分析システムのフォールトトレランスに関する動作の流れを説明するフローチャートである。血球分析装置 2a による測定を開始する場合、上述したように、オペレータは、検体が収容された採血管をラックにセットし、このラックを血球分析装置 2a の前部に設けられた搬送部にセットする。搬送部によって、採血管がラックごと搬送される途中で血球分析装置 2a に設けられたバーコードリーダによってバーコードから検体番号が読み取られる。血球分析装置 2a の制御部 25 は、検体番号データをデータ処理装置 3 へと送信する (ステップ S41)。CPU 31a は、血球分析装置 2a から検体番号データを受信した場合には (ステップ S42 で Yes)、血球分析装置 2a の送信要求に応じて測定項目データを血球分析装置 2a へ送信する (ステップ S43)。制御部 25 は、測定項目データを受信した場合には (ステップ S44 で Yes)、試料供給部に採血管から検体を吸引させ、測定を開始する (ステップ S45)。制御部 25 は、測定によって測定値データを生成し、この測定値データを測定オーダの発行元であるデータ処理部 3 へと送信し (ステップ S46)、処理を終了する。

【0168】

CPU 31a は、測定値データを受信した場合には (ステップ S47 で Yes)、受信した測定値データをデータベース DB21 に格納し、データベースの更新を実行する (ス

テップS 4 8)。次に、CPU 3 1 aは、データベースDB 2 1の更新前と更新後との差分データ、即ち、当該更新によってデータベースDB 2 1に生じた差分を表すデータを生成し(ステップS 4 9)、この差分データをデータ処理装置6へと送信する(ステップS 5 0)。データ処理装置6のCPU 6 1 aは、差分データを受信した場合には(ステップS 5 1でYes)、当該差分データを用いてハードディスク6 1 dに格納されているデータベースDB 2 1を更新する(ステップS 5 2)。このように、差分データはデータベースDB 2 1の更新前と更新後との差を表すデータであるため、当該差分データを用いてデータ処理装置3の更新後のデータベースDB 2 1にデータ処理装置6のデータベースDB 2 1を整合させることができる。かかる処理は、データ処理装置3のデータベースDB 2 1の更新の直後に行われるため、実質的にリアルタイムにデータベースDB 2 1のミラーリングが行われる。 10

【0 1 6 9】

CPU 3 1 aは、測定値データに基づいて血球の計数、白血球の分類等の分析処理を実行する(ステップS 5 3)。そして、生成した処理結果データをデータベースDB 2 1に格納し、データベースDB 2 1を更新する(ステップS 5 4)。次に、CPU 3 1 aは、データベースDB 2 1の更新前と更新後との差分データを生成し(ステップS 5 5)、この差分データをデータ処理装置6へと送信して(ステップS 5 6)、処理を終了する。データ処理装置6のCPU 6 1 aは、差分データを受信した場合には(ステップS 5 7でYes)、当該差分データを用いてハードディスク6 1 dに格納されているデータベースDB 2 1を更新し(ステップS 5 8)、処理を終了する。 20

【0 1 7 0】

なお、図3 5に示したフローチャートは、血球分析装置2 aが測定を行った場合のデータベースDB 2 1を二重化する処理の流れを説明したが、実際には、データベースDB 2 1の更新が血球分析装置2 aによる測定の実行によるものであるか否かを問わず、データ処理装置3のデータベースDB 2 1が更新された場合には、CPU 3 1 aに割り込みが発生し、差分データの生成が行われ、この差分データがデータ処理装置6へと送信されて、データベースDB 2 1の二重化が行われる。

【0 1 7 1】

このようにすることにより、データ処理装置3のデータベースDB 2 1に更新が必要となるタイミングで、その更新に必要なデータがデータ処理装置6にも与えられるため、データ処理装置3、6のデータベースDB 2 1の内容を一致させることができる。このように、データベースDB 2 1が二重化されるので、例えばデータ処理装置3が故障して動作しなくなった場合にあっては、データ処理装置6には最新の状態、または最新に近い状態のデータベースDB 2 1がバックアップされており、このデータベースDB 2 1を使用してシステムを停止せずにデータの処理を継続することが可能である。 30

【0 1 7 2】

なお、データベースDB 2 2についても同様に、例えばデータ処理装置3の設定値が変更されるなど、データベースDB 2 2の更新が必要となるタイミングで、その更新に必要なデータをデータ処理装置6に送信し、このデータによってデータ処理装置6のデータベースDB 2 2を更新することもできることはいうまでもない。また、ここでは説明を簡略化するために省略したが、データベースDB 4 1、DB 4 2についても同様である。 40

【0 1 7 3】

また、このような構成に限らず、例えば、データ処理装置3、5とデータ処理装置6とが、所定の時間間隔毎にデータベースDB 2 1、DB 2 2、DB 4 1、DB 4 2のミラーリングを行い、データ処理装置3のデータベースDB 2 1、DB 2 2とデータ処理装置6のデータベースDB 2 1、DB 2 2との内容を一致させ、データ処理装置5のデータベースDB 4 1、DB 4 2とデータ処理装置6のデータベースDB 4 1、DB 4 2との内容を一致させてもよいし、血球分析装置2 a、2 b(血液凝固測定装置4 a、4 b)が測定を実行したときに、測定値データをデータ処理装置3(5)とデータ処理装置6とに同時に送信し、この測定値データによりデータ処理装置3(5)、6が同時に夫々のデータベ 50

スDB21(DB41)を更新することによりデータベースDB21(DB41)のミラーリングを行う構成としてもよい。また、この場合には、データ処理装置3(5)が分析処理を行って分析結果データを生成した場合には、この分析結果データをデータ処理装置6へと送信し、データ処理装置6が当該分析結果データを用いてデータベースDB21(DB41)のデータの更新を行ってもよい。

【0174】

また、本実施の形態1においては、データ処理装置3,5がデータベースを更新する都度、データベースDB21,DB22,DB41,DB42の更新前と更新後との差分データを生成し、この差分データをデータ処理装置6へと送信して、データ処理装置6がデータベースDB21,DB22,DB41,DB42を最新の状態に更新する構成について述べたが、これに限定されるものではなく、データ処理装置3,5は、所定の時間間隔毎に、データベースDB21,DB22,DB41,DB42の更新前と更新後との差分データを生成し、この差分データをデータ処理装置6へと送信して、データ処理装置6がデータベースDB21,DB22,DB41,DB42を最新の状態に更新する構成としてもよい。

10

【0175】

また、本実施の形態1においては、アプリケーションプログラム34a,54a,64aの動作時にデータベースDB22,DB42から設定データが読み出され、かかる設定データが加工された上でデータツリーに展開される構成について述べたが、これに限定されるものではなく、例えば、設定用のデータベース自体をツリー構造のデータベースとし、アプリケーションプログラム34a,54a,64aの動作時に、前記データベースから設定データを読み出し、そのままのデータツリーをメモリ上に展開する構成としてもよいし、ハードディスク31d,41d,61dに格納されたデータベースに直接アクセスする構成としてもよい。また、ツリー構造に限らず、「設定項目」、「設定条件」、及び「設定値」を「設定項目」毎に関係付けたデータ構造であれば、テーブル形式やリスト形式等、如何なるデータ構造であってもよい。

20

(実施の形態2)

図36は、本発明の実施の形態2に係る分析システムの構成を示す模式図である。図36に示すように、本実施の形態2に係る分析システム101は、血球分析装置2a,2bと、血球分析装置2a,2b用のデータ処理装置103と、血液凝固測定装置4a,4bと、血液凝固測定装置4a,4b用のデータ処理装置105と、患者データ管理用のデータベースサーバ7とを主要な構成要素として構成されている。血球分析装置2a,2b、データ処理装置103、血液凝固測定装置4a,4b、データ処理装置105、及びデータベースサーバ7は、例えば、病院または病理検査施設等の医療機関の施設内に設けられている。また、例えば、血球分析装置2a,2b、データ処理装置103、血液凝固測定装置4a,4b、及びデータ処理装置105は、病理検査施設に設けられており、データベースサーバ7は、病院に設けられている等、分析システム101を構成する装置が複数の施設に別個に設けられていてもよい。また、血球分析装置2a,2b、データ処理装置103、血液凝固測定装置4a,4b、データ処理装置105、及びデータベースサーバ7は、互いにデータ通信が可能であるように、電話回線を使用した専用回線、LAN、またはインターネット等である通信ネットワークNWによって接続されている。データ処理装置103は、血球分析装置2a,2bの近傍に配置されており、主として血球分析装置2a,2bに関するデータ処理に用いられる。これに対してデータ処理装置105は、血液凝固測定装置4a,4bの近傍に配置されており、主として血液凝固測定装置4a,4bに関するデータ処理に用いられる。なお、血球分析装置2a,2b、血液凝固測定装置4a,4b、及びデータベースサーバ7については、実施の形態1に係る分析システム1における構成と同様であるので、同一構成要素については同一符号を付し、その説明を省略する。

30

40

【0176】

次に、データ処理装置103の構成について説明する。図37は、本発明の実施の形態

50

2に係るデータ処理装置103の構成を示すブロック図である。データ処理装置103は、本体131と、画像表示部32と、入力部33とから主として構成されたコンピュータ103aによって構成されている。本体131は、CPU31aと、ROM31bと、RAM31cと、ハードディスク131dと、読出装置31eと、入出力インタフェース31fと、通信インタフェース31gと、画像出力インタフェース31hとから主として構成されており、CPU31a、ROM31b、RAM31c、ハードディスク131d、読出装置31e、入出力インタフェース31f、通信インタフェース31g、および画像出力インタフェース31hは、バス31iによって接続されている。

【0177】

データ処理装置103のハードディスク131dには、データベースDB121、DB122がインストールされている。データベースDB121は、血球分析装置2a、2bの測定結果データ及び血液凝固測定装置4a、4bの測定結果データを検体番号に対応付けて格納するためのリレーショナルデータベースである。血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置の測定によって得られた測定結果データは、CPU31aによって実行されるアプリケーションプログラム134aによってこのデータベースDB121に格納されるようになっている。また、アプリケーションプログラム134aは、データベースDB121にアクセスして、過去の測定結果データを読み出し、画像表示部32に表示させることが可能である。

【0178】

データベースDB122は、アプリケーションプログラム134a、154aの設定値を格納するためのツリー構造データベースである。かかるデータベースDB122の構成は、実施の形態1で説明したデータベースDB22の構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0179】

可搬型記録媒体134には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム134aが格納されており、コンピュータ103aが読出装置31eによって当該可搬型記録媒体134から本発明に係るアプリケーションプログラム134aを読み出し、当該アプリケーションプログラム134aをハードディスク131dにインストールすることが可能である。

【0180】

アプリケーションプログラム134aは、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bに対する動作設定、測定項目の提供、測定結果の受信、測定結果のデータベースDB121への登録、測定結果の表示等の機能を提供するコンピュータプログラムであり、CPU31aで実行されることによってコンピュータ103aを上記機能を具備するデータ処理装置103として機能させることが可能である。かかるアプリケーションプログラム134aは、データベースDB121に対して測定結果のデータの登録、削除、変更、及び取得を行うことができる他は、実施の形態1で説明したアプリケーションプログラム64aの構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0181】

なお、データ処理装置103は、ハードディスク131dにアプリケーションプログラム134a、及びデータベースDB121、DB122がインストールされている他は、実施の形態1で説明したデータ処理装置3の構成と同様であるので、同一構成要素については同一符号を付し、その説明を省略する。

【0182】

次に、データ処理装置105の構成について説明する。図38は、本発明の実施の形態2に係るデータ処理装置105の構成を示すブロック図である。データ処理装置105は、本体151と、画像表示部52と、入力部53とから主として構成されたコンピュータ105aによって構成されている。本体151は、CPU51aと、ROM51bと、RAM51cと、ハードディスク151dと、読出装置51eと、入出力インタフェース51fと、通信インタフェース51gと、画像出力インタフェース51hとから主として構

10

20

30

40

50

成されており、CPU 51a、ROM 51b、RAM 51c、ハードディスク 151d、読出装置 51e、入出力インタフェース 51f、通信インタフェース 51g、および画像出力インタフェース 51hは、バス 51iによって接続されている。

【0183】

データ処理装置 105のハードディスク 151dには、データベース DB 121, DB 122がインストールされている。ハードディスク 151dにインストールされているデータベース DB 121, DB 122は、上述したデータ処理装置 103に設けられたデータベース DB 121, DB 122と夫々同一の内容のデータベースである。これらのデータベース DB 121, DB 122は、アプリケーションプログラム 134a, 154aの機能によってデータ処理装置 103に設けられたデータベース DB 121, DB 122とリアルタイムで同期が取られるようになっている。これにより、故障等によってデータ処理装置 103に障害が発生した場合にも、データ処理装置 105を用いて血球分析装置 2a, 2bの測定結果のデータ処理等を行うことが可能であり、またデータ処理装置 105に障害が発生した場合にも、同様にデータ処理装置 103を用いて血液凝固測定装置 4a, 4bの測定結果のデータ処理等を行うことが可能である。

10

【0184】

可搬型記録媒体 154には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム 154aが格納されており、コンピュータ 105aが読出装置 51eによって当該可搬型記録媒体 154から本発明に係るアプリケーションプログラム 154aを読み出し、当該アプリケーションプログラム 154aをハードディスク 151dにインストールすることが可能である。

20

【0185】

アプリケーションプログラム 154aは、血球分析装置 2a, 2b及び血液凝固測定装置 4a, 4bに対する動作設定、測定項目の提供、測定結果の受信、測定結果のデータベース DB 122への登録、測定結果の表示等の機能を提供するコンピュータプログラムであり、CPU 51aで実行されることによってコンピュータ 105aを上記機能を具備するデータ処理装置 105として機能させることが可能である。かかるアプリケーションプログラム 154aは、ハードディスク 151dに設けられたデータベース DB 122に対して測定結果のデータの登録、削除、変更、及び取得を行うことができる他は、実施の形態 1で説明したアプリケーションプログラム 64aの構成と同様であるので、その説明を省略する。

30

【0186】

なお、データ処理装置 105は、ハードディスク 151dにアプリケーションプログラム 154a、及びデータベース DB 121, DB 122がインストールされている他は、実施の形態 1で説明したデータ処理装置 5の構成と同様であるので、同一構成要素については同一符号を付し、その説明を省略する。

【0187】

このような本実施の形態 2に係る分析システム 101では、ユーザがデータ処理装置 103を使用して、血球分析装置 2a, 2b及び血液凝固測定装置 4a, 4bの動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血球分析装置 2a, 2b及び血液凝固測定装置 4a, 4bでの測定結果を表示することが可能である。また、ユーザがデータ処理装置 105を使用して、血球分析装置 2a, 2b及び血液凝固測定装置 4a, 4bの動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血球分析装置 2a, 2b及び血液凝固測定装置 4a, 4bでの測定結果を表示することが可能である。各データ処理装置 103, 105は、ユーザ毎に使用することができる機能を制限することが可能である。例えば、血球分析装置 2a, 2bを使用するオペレータに対しては、血球分析装置 2a, 2bの動作指示及び測定結果の表示の機能の使用のみを許可し、その他の機能の使用を禁止するようにデータ処理装置 103, 105のユーザ権限を設定することができる。また、血液凝固測定装置 4a, 4bを使用するオペレータに対しては、血液凝固測定装置 4a, 4bの動作指示及び測定結果の表示の機能の使用のみを許可し、その他の機能の使用を禁止するようにデー

40

50

タ処理装置 103, 105 のユーザ権限を設定することができる。また、血球分析装置 2a, 2b 及び血液凝固測定装置 4a, 4b の全てデータを参照することが可能な管理者(技師長等)に対しては、全ての機能を使用する権限を与えるようにデータ処理装置 103, 105 のユーザ権限を設定することができる。

【0188】

次に、本発明の実施の形態 2 に係る分析システム 101 のフォールトトレラントに関する動作について説明する。血球分析装置 2a, 2b、血液凝固装置 4a, 4b、及びデータ処理装置 103 (105) は、データベース DB121, DB122 の更新が必要なタイミングに、その更新に必要なデータを他方のデータ処理装置 105 (103) へと送信する。データを受信したデータ処理装置 105 (103) は、このデータにより、データベース DB121, DB122 を更新し、これによってデータベースの二重化が達成される。また、この実施の形態 2 においても、データ処理装置 103 とデータ処理装置 105 とが所定の時間間隔毎にデータベース DB121, DB122 のミラーリングを行い、データ処理装置 103 のデータベース DB121, DB122 とデータ処理装置 105 のデータベース DB121, DB122 との内容を一致させる構成であってもよい。このようにデータベース DB121, DB122 を二重化する(バックアップを取る)ことにより、データ処理装置 103, 105 のいずれか一方に障害が発生した場合でも、システムを停止せずに継続処理を行うことが可能となる。

10

【0189】

なお、本発明の実施の形態 2 に係る分析システム 101 のデータ処理装置 103, 105 のその他の動作については、実施の形態 1 で説明したデータ処理装置 6 の動作と同様であるので、その説明を省略する。

20

(実施の形態 3)

図 39 は、本発明の実施の形態 3 に係る分析システムの構成を示す模式図である。図 39 に示すように、本実施の形態 3 に係る分析システム 201 は、血球分析装置 2a, 2b と、血球分析装置 2a, 2b 用のデータ処理装置 203 と、血液凝固測定装置 4a, 4b と、血液凝固測定装置 4a, 4b 用のデータ処理装置 205 と、患者データ管理用のデータベースサーバ 7 とを主要な構成要素として構成されている。血球分析装置 2a, 2b、データ処理装置 203、血液凝固測定装置 4a, 4b、データ処理装置 205、及びデータベースサーバ 7 は、例えば、病院または病理検査施設等の医療機関の施設内に設けられている。また、例えば、血球分析装置 2a, 2b、データ処理装置 203、血液凝固測定装置 4a, 4b、及びデータ処理装置 205 は、病理検査施設に設けられており、データベースサーバ 7 は、病院に設けられている等、分析システム 201 を構成する装置が複数の施設に別個に設けられていてもよい。また、血球分析装置 2a, 2b、データ処理装置 203、血液凝固測定装置 4a, 4b、データ処理装置 205、及びデータベースサーバ 7 は、互いにデータ通信が可能であるように、電話回線を使用した専用回線、LAN、またはインターネット等である通信ネットワーク NW によって接続されている。データ処理装置 203 は、血球分析装置 2a, 2b の近傍に配置されており、主として血球分析装置 2a, 2b に関するデータ処理に用いられる。これに対してデータ処理装置 205 は、血液凝固測定装置 4a, 4b の近傍に配置されており、主として血液凝固測定装置 4a, 4b に関するデータ処理に用いられる。なお、血球分析装置 2a, 2b、血液凝固測定装置 4a, 4b、及びデータベースサーバ 7 については、実施の形態 1 に係る分析システム 1 における構成と同様であるので、同一構成要素については同一符号を付し、その説明を省略する。

30

40

【0190】

次に、データ処理装置 203 の構成について説明する。図 40 は、本発明の実施の形態 3 に係るデータ処理装置 203 の構成を示すブロック図である。データ処理装置 203 は、本体 231 と、画像表示部 32 と、入力部 33 とから主として構成されたコンピュータ 203a によって構成されている。本体 231 は、CPU 31a と、ROM 31b と、RAM 31c と、ハードディスク 231d と、読出装置 31e と、入出力インタフェース 3

50

1 f と、通信インタフェース 3 1 g と、画像出力インタフェース 3 1 h とから主として構成されており、CPU 3 1 a、ROM 3 1 b、RAM 3 1 c、ハードディスク 2 3 1 d、読出装置 3 1 e、入出力インタフェース 3 1 f、通信インタフェース 3 1 g、および画像出力インタフェース 3 1 h は、バス 3 1 i によって接続されている。

【0191】

データ処理装置 2 0 3 のハードディスク 2 3 1 d には、データベース DB 2 2 1、DB 2 2 2、DB 2 4 1、DB 2 4 2 がインストールされている。データベース DB 2 2 1 は、血球分析装置 2 a、2 b の測定結果データを検体番号に対応付けて格納するためのリレーショナルデータベースである。血球分析装置 2 a、2 b の測定によって得られた測定結果データは、CPU 3 1 a によって実行されるアプリケーションプログラム 2 3 4 a によってこのデータベース DB 2 2 1 に格納されるようになっている。また、アプリケーションプログラム 2 3 4 a は、データベース DB 2 2 1 にアクセスして、過去の測定結果データを読み出し、画像表示部 3 2 に表示させることが可能である。かかるデータベース DB 2 2 1 の構成は、実施の形態 1 で説明したデータベース DB 2 1 の構成と同様であるので、その説明を省略する。

10

【0192】

データベース DB 2 2 2 は、アプリケーションプログラム 2 3 4 a の設定値を格納するためのツリー構造データベースである。かかるデータベース DB 2 2 2 の構成は、実施の形態 1 で説明したデータベース DB 2 2 の構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0193】

ハードディスク 2 3 1 d にインストールされているデータベース DB 2 4 1、DB 2 4 2 は、後述するデータ処理装置 2 0 5 に設けられたデータベース DB 2 4 1、DB 2 4 2 と夫々同一の内容のデータベースである。これらのデータベース DB 2 4 1、DB 2 4 2 は、アプリケーションプログラム 2 3 4 a、2 5 4 a の機能によってデータ処理装置 2 0 5 に設けられたデータベース DB 2 4 1、DB 2 4 2 とリアルタイムで同期が取られるようになっている。これにより、故障等によってデータ処理装置 2 0 5 に障害が発生した場合にも、データ処理装置 2 0 3 を用いて血液凝固測定装置 4 a、4 b の測定結果のデータ処理等を行うことが可能である。

20

【0194】

可搬型記録媒体 2 3 4 には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム 2 3 4 a が格納されており、コンピュータ 2 0 3 a が読出装置 3 1 e によって当該可搬型記録媒体 2 3 4 から本発明に係るアプリケーションプログラム 2 3 4 a を読み出し、当該アプリケーションプログラム 2 3 4 a をハードディスク 2 3 1 d にインストールすることが可能である。

30

【0195】

アプリケーションプログラム 2 3 4 a は、血球分析装置 2 a、2 b 及び血液凝固測定装置 4 a、4 b に対する動作設定、測定項目の提供、測定結果の受信、測定結果のデータベース DB 2 2 1、DB 2 4 1 への登録、測定結果の表示等の機能を提供するコンピュータプログラムであり、CPU 3 1 a で実行されることによってコンピュータ 2 0 3 a を上記機能を具備するデータ処理装置 2 0 3 として機能させることが可能である。かかるアプリケーションプログラム 2 3 4 a は、データベース DB 2 2 1、DB 2 4 1 に対して測定結果のデータの登録、削除、変更、及び取得を行うことができる他は、実施の形態 1 で説明したアプリケーションプログラム 6 4 a の構成と同様であるので、その説明を省略する。

40

【0196】

なお、データ処理装置 2 0 3 は、ハードディスク 2 3 1 d にアプリケーションプログラム 2 3 4 a、及びデータベース DB 1 2 1、DB 1 2 2、DB 2 4 1、DB 2 4 2 がインストールされている他は、実施の形態 1 で説明したデータ処理装置 3 の構成と同様であるので、同一構成要素については同一符号を付し、その説明を省略する。

【0197】

次に、データ処理装置 2 0 5 の構成について説明する。図 4 1 は、本発明の実施の形態

50

3に係るデータ処理装置205の構成を示すブロック図である。データ処理装置205は、本体251と、画像表示部52と、入力部53とから主として構成されたコンピュータ205aによって構成されている。本体251は、CPU51aと、ROM51bと、RAM51cと、ハードディスク251dと、読出装置51eと、入出力インタフェース51fと、通信インタフェース51gと、画像出力インタフェース51hとから主として構成されており、CPU51a、ROM51b、RAM51c、ハードディスク251d、読出装置51e、入出力インタフェース51f、通信インタフェース51g、および画像出力インタフェース51hは、バス51iによって接続されている。

【0198】

データ処理装置205のハードディスク251dには、データベースDB221、DB222、DB241、DB242がインストールされている。データベースDB241は、血液凝固測定装置4a、4bの測定結果データを検体番号に対応付けて格納するためのリレーショナルデータベースである。血液凝固測定装置4a、4bの測定によって得られた測定結果データは、CPU31aによって実行されるアプリケーションプログラム254aによってこのデータベースDB241に格納されるようになっている。また、アプリケーションプログラム254aは、データベースDB241にアクセスして、過去の測定結果データを読み出し、画像表示部52に表示させることが可能である。かかるデータベースDB241の構成は、実施の形態1で説明したデータベースDB41の構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0199】

データベースDB242は、アプリケーションプログラム254aの設定値を格納するためのツリー構造データベースである。かかるデータベースDB242の構成は、実施の形態1で説明したデータベースDB42の構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0200】

ハードディスク251dにインストールされているデータベースDB221、DB222は、上述したデータ処理装置203に設けられたデータベースDB221、DB222と夫々同一の内容のデータベースである。これらのデータベースDB221、DB222は、アプリケーションプログラム234a、254aの機能によってデータ処理装置203に設けられたデータベースDB221、DB222とリアルタイムで同期が取られるようになっている。これにより、故障等によってデータ処理装置203に障害が発生した場合にも、データ処理装置205を用いて血球分析装置2a、2bの測定結果のデータ処理等を行うことが可能である。

【0201】

可搬型記録媒体254には、コンピュータを本発明に係る測定装置用データ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラム254aが格納されており、コンピュータ205aが読出装置51eによって当該可搬型記録媒体254から本発明に係るアプリケーションプログラム254aを読み出し、当該アプリケーションプログラム254aをハードディスク251dにインストールすることが可能である。

【0202】

アプリケーションプログラム254aは、血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bに対する動作設定、測定項目の提供、測定結果の受信、測定結果のデータベースDB221、DB241への登録、測定結果の表示等の機能を提供するコンピュータプログラムであり、CPU51aで実行されることによってコンピュータ205aを上記機能を具備するデータ処理装置205として機能させることが可能である。かかるアプリケーションプログラム254aは、データベースDB221、DB241に対して測定結果のデータの登録、削除、変更、及び取得を行うことができる他は、実施の形態1で説明したアプリケーションプログラム64aの構成と同様であるので、その説明を省略する。

【0203】

なお、データ処理装置205は、ハードディスク251dにアプリケーションプログラム254a、及びデータベースDB121、DB122、DB241、DB242がイン

10

20

30

40

50

ストールされている他は、実施の形態 1 で説明したデータ処理装置 5 の構成と同様であるので、同一構成要素については同一符号を付し、その説明を省略する。

【0204】

このような本実施の形態 3 に係る分析システム 201 では、ユーザがデータ処理装置 203 を使用して、血球分析装置 2a, 2b 及び血液凝固測定装置 4a, 4b の動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血球分析装置 2a, 2b 及び血液凝固測定装置 4a, 4b での測定結果を表示することが可能である。また、ユーザがデータ処理装置 205 を使用して、血球分析装置 2a, 2b 及び血液凝固測定装置 4a, 4b の動作設定及び動作開始指示を行うことができ、また血球分析装置 2a, 2b 及び血液凝固測定装置 4a, 4b での測定結果を表示することが可能である。各データ処理装置 203, 205 は、ユーザ毎に使用することができる機能を制限することが可能である。例えば、血球分析装置 2a, 2b を使用するオペレータに対しては、血球分析装置 2a, 2b の動作指示及び測定結果の表示の機能の使用のみを許可し、その他の機能の使用を禁止するようにデータ処理装置 203, 205 のユーザ権限を設定することができる。また、血液凝固測定装置 4a, 4b を使用するオペレータに対しては、血液凝固測定装置 4a, 4b の動作指示及び測定結果の表示の機能の使用のみを許可し、その他の機能の使用を禁止するようにデータ処理装置 203, 205 のユーザ権限を設定することができる。また、血球分析装置 2a, 2b 及び血液凝固測定装置 4a, 4b の全てデータを参照することが可能な管理者（技師長等）に対しては、全ての機能を使用する権限を与えるようにデータ処理装置 203, 205 のユーザ権限を設定することができる。

10

20

【0205】

次に、本発明の実施の形態 3 に係る分析システム 201 のフォールトトレラントに関する動作について説明する。血球分析装置 2a, 2b、血液凝固装置 4a, 4b、及びデータ処理装置 203（205）は、データベース DB 221, DB 222, DB 241, DB 242 の更新が必要なタイミングに、その更新に必要なデータを他方のデータ処理装置 205（203）へと送信する。データを受信したデータ処理装置 205（203）は、このデータにより、データベース DB 221, DB 222, DB 241, DB 242 を更新し、これによってデータベースの二重化が達成される。また、この実施の形態 3 においても、データ処理装置 203 とデータ処理装置 205 とが所定の時間間隔毎にデータベース DB 221, DB 222, DB 241, DB 242 のミラーリングを行い、データ処理装置 203 のデータベース DB 221, DB 222, DB 241, DB 242 とデータ処理装置 205 のデータベース DB 221, DB 222, DB 241, DB 242 との内容を一致させる構成であってもよい。このようにデータベース DB 221, DB 222, DB 241, DB 242 を二重化する（バックアップを取る）ことにより、データ処理装置 203, 205 のいずれか一方に障害が発生した場合でも、システムを停止せずに継続処理を行うことが可能となる。

30

【0206】

なお、本発明の実施の形態 3 に係る分析システム 201 のデータ処理装置 203, 205 のその他の動作については、実施の形態 1 で説明したデータ処理装置 6 の動作と同様であるので、その説明を省略する。

40

【0207】

また、実施の形態 1～3 においては、測定値データ及び分析結果データを格納するためのデータベース DB 21, DB 41, DB 121, DB 221, DB 241 並びに設定値データを格納するためのデータベース DB 22, DB 42, DB 122, DB 222, DB 242 を二重化して信頼性を確保する構成についてのみ説明したが、これに限定されるものではなく、例えば、データ処理装置 3, 5, 6, 103, 105, 203, 205 が夫々ログ保存用のデータベースに自身の動作状態に関するログを保存しておき、他のデータ処理装置との間でログ保存用のデータベースを二重化してもよい。この場合には、例えば 1 つのデータ処理装置が異常により動作不能となった場合にも、他のデータ処理装置が動作不能のデータ処理装置の動作ログに基づいて迅速に復旧作業を行い、分析システムの

50

動作を停止させることなく、又は停止させたとしても停止時間を僅かなものとして、システムの信頼性を確保することができる。

【0208】

また、実施の形態1～3においては、分析システム1が測定装置として血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bを有し、データ処理装置3、5、6、103、105、203、205によって血球分析装置2a、2b及び血液凝固測定装置4a、4bの動作設定、動作指示、測定結果の管理、及び測定結果の表示を行う構成について述べたが、これに限定されるものではなく、例えば、尿中有形成分分析装置、尿定性分析装置、便分析装置、粒子分析装置等、他の測定装置を有し、データ処理装置によってかかる測定装置の動作設定、動作指示、測定結果の管理、及び測定結果の表示等を行う構成としてもよい。

10

【産業上の利用可能性】

【0209】

本発明に係る分析システム、データ処理装置、測定装置、及びアプリケーションプログラムは、システムの信頼性を確保できると共に、複数のデータ処理装置の機能を夫々十分に活用することが可能となるという効果を奏し、測定装置の測定データを処理するデータ処理装置を二重化し、データ処理の信頼性を高める分析システム、当該分析システムに使用されるデータ処理装置及び測定装置、並びにコンピュータをデータ処理装置として機能させるためのアプリケーションプログラムとして有用である。

【図面の簡単な説明】

20

【0210】

【図1】本発明の実施の形態1に係る分析システムの構成を示す模式図である。

【図2】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置及びデータ処理装置の外観構成を示す斜視図である。

【図3】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置の構成を示すブロック図である。

【図4】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置の光学式検出部の構成を示す模式図である。

【図5】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置のRBC検出部の構成を示す模式図である。

【図6】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置のHGB検出部の構成を示す斜視図である。

30

【図7】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置のIMI検出部の構成を示す模式図である。

【図8】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。

【図9】本発明の実施の形態1に係る血球分析装置用のアプリケーションプログラムの構成を示す模式図である。

【図10】本発明の実施の形態1に係るアプリケーションプログラムの共通モジュールと機種依存モジュールのハードディスク内での格納状態を示す模式図である。

【図11】本発明の実施の形態1に係るアプリケーションプログラム及び測定装置の設定用のデータツリーの一例を示す概念図である。

40

【図12】本発明の実施の形態1に係るアプリケーションプログラムに機能を追加した場合のデータツリーの一例を示す概念図である。

【図13】本発明の実施の形態1に係るアプリケーションプログラムの設定動作の流れを示すフローチャートである。

【図14】本発明の実施の形態1に係る血液凝固測定装置の構成を示すブロック図である。

【図15】血液凝固測定における生物活性法による測定原理を説明するための模式図である。

【図16】血液凝固測定における合成基質法及び免疫比濁法による測定原理を説明するた

50

めの模式図である。

【図 17】本発明の実施の形態 1 に係る血液凝固測定装置用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 18】本発明の実施の形態 1 に係る血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラムの構成を示す模式図である。

【図 19】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置及び血液凝固測定装置の測定結果参照用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 20】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置及び血液凝固測定装置の測定結果参照用のアプリケーションプログラムの構成を示す模式図である。

【図 21】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置により検体を測定する場合のアプリケーションプログラムの処理手順を示すフローチャートである。 10

【図 22】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置により検体を測定する場合のアプリケーションプログラムの処理手順を示すフローチャートである。

【図 23】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置により検体を測定する場合のアプリケーションプログラムの処理手順を示すフローチャートである。

【図 24】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置用のアプリケーションプログラムの初期ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 25】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置用のアプリケーションプログラムの測定登録ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 26】測定装置への測定オーダ発行までのデータの流れを示す模式図である。 20

【図 27】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置用のアプリケーションプログラムの測定結果表示ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 28】本発明の実施の形態 1 に係るデータ処理装置が測定装置から測定値データを受信してから、測定結果を表示するまでのデータの流れを示す模式図である。

【図 29】本発明の実施の形態 1 に係る血球分析装置用のアプリケーションプログラムの測定結果詳細情報表示ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 30】本発明の実施の形態 1 に係る血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラムの測定登録ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 31】本発明の実施の形態 1 に係る血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラムの測定結果表示ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。 30

【図 32】本発明の実施の形態 1 に係る血液凝固測定装置用のアプリケーションプログラムの測定結果詳細情報表示ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 33】本発明の実施の形態 1 に係る血液分析装置及び血液凝固測定装置の測定結果参照用のアプリケーションプログラムの測定結果表示ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 34】本発明の実施の形態 1 に係る血液分析装置及び血液凝固測定装置の測定結果参照用のアプリケーションプログラムの測定結果詳細情報表示ウィンドウの構成の一例を示す模式図である。

【図 35】本発明の実施の形態 1 に係る分析システムのフォールトトレランスに関する動作の流れを説明するフローチャートである。 40

【図 36】本発明の実施の形態 2 に係る分析システムの構成を示す模式図である。

【図 37】本発明の実施の形態 2 に係る血球分析装置用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 38】本発明の実施の形態 2 に係る血液凝固測定装置用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 39】本発明の実施の形態 3 に係る分析システムの構成を示す模式図である。

【図 40】本発明の実施の形態 3 に係る血球分析装置用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。

【図 41】本発明の実施の形態 3 に係る血液凝固測定装置用のデータ処理装置の構成を示すブロック図である。 50

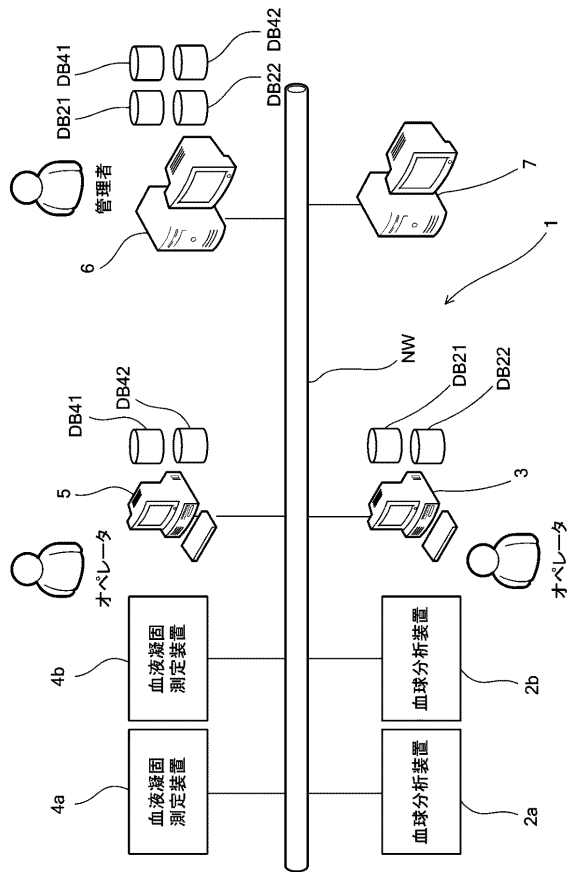
【符号の説明】

【0211】

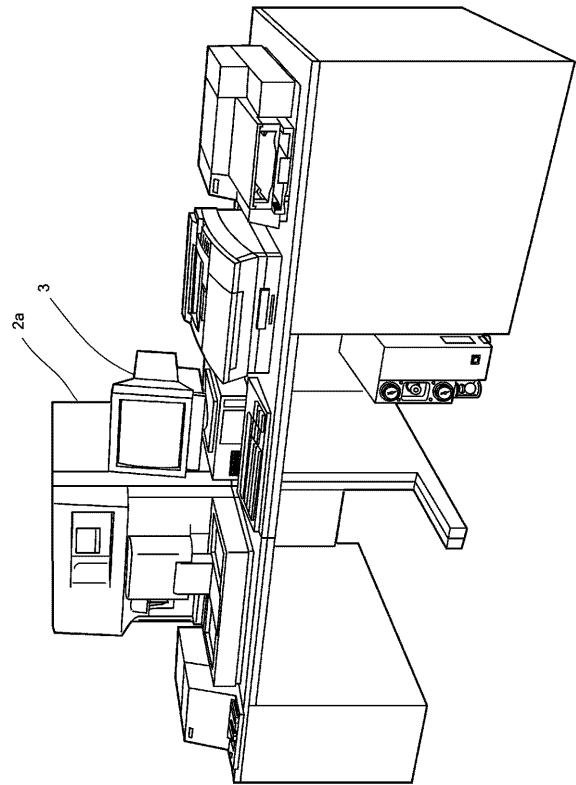
1, 101, 201	分析システム	
2a, 2b	血球分析装置	
21	光学式検出部	
21a	シースフローセル	
21b	オリフィス	
21k	光電子増倍管	
22	RBC検出部	
22a	シースフローセル	10
23	HGB検出部	
24	IMI検出部	
24g	アパーチャ	
25	制御部	
28	通信部	
3, 5, 6, 103, 105, 203, 205	データ処理装置	
3a, 5a, 6a, 103a, 105a, 203a, 205a	コンピュータ	
31a, 51a, 61a	CPU	
31b, 51b, 61b	ROM	
31c, 51c, 61c	RAM	20
31d, 51d, 61d, 131d, 151d, 231d, 251d	ハードディスク	
31h, 51h, 61h	画像出力インタフェース	
32, 52, 62	画像表示部	
34, 54, 64, 134, 154, 234, 254	可搬型記録媒体	
34a, 54a, 64a	アプリケーションプログラム	
34b, 54b, 64b	プレゼンテーション層	
34c, 54c, 64c	ビジネスロジック層	
34d, 54d, 64d	データアクセス層	
35a	基本表示モジュール	
35b, 55b	測定結果表示モジュール	30
35c	IPメッセージ表示モジュール	
35d	精度管理図チャート表示モジュール	
35e, 55e	通信モジュール	
35f	共通ロジックモジュール	
35g	血球分析ロジックモジュール	
35h	データベースアクセスモジュール	
35i, 35j	ダイナミックリンクライブラリ	
4a, 4b	血液凝固測定装置	
41	測定部	
41a	発光ダイオード	40
41b	ハロゲンランプ	
41e, 41f	フォトダイオード	
42	制御部	
45	通信部	
55c	検量線表示モジュール	
55g	血液凝固測定ロジックモジュール	
7	データベースサーバ	
81	初期ウィンドウ	
81d	ウィンドウ表示領域	
81e	メニューウィンドウ	50

8 1 f	測定登録ボタン	
8 1 h	サンプルエクスペローラボタン	
8 1 i	データブラウザボタン	
8 2 , 1 8 2	測定登録ウィンドウ	
8 2 a , 1 8 2 a , 2 8 2	測定項目グループ選択ボックス	
8 2 b , 1 8 2 b , 2 8 2 b	測定選択項目テーブル	
8 2 c , 1 8 2 c , 2 8 2 c	測定選択項目テーブル表示領域	
8 2 d , 1 8 2 d , 2 8 2 d	測定項目リスト	
8 2 e , 1 8 2 e , 2 8 2 e	測定項目リスト表示領域	
8 2 f , 1 8 2 f , 2 8 2 f	検体情報入力領域	10
8 2 g , 1 8 2 g , 2 8 2 g	患者情報表示領域	
8 2 o , 1 8 2 o , 2 8 2 o	ボタン表示領域	
8 3 a	キュー	
8 3 b	オーダ発行用測定項目管理バッファ	
8 4 , 1 8 4 , 2 8 4	測定結果表示ウィンドウ	
8 4 a , 1 8 4 a , 2 8 4 a	検体情報テーブル	
8 4 b , 1 8 4 b , 2 8 4 b	検体情報テーブル表示領域	
8 4 c , 1 8 4 c , 2 8 4 c	数値データテーブル	
8 4 d , 1 8 4 d , 2 8 4 d	数値データテーブル表示領域	
8 4 e , 1 8 4 e , 2 8 4 e	患者情報表示領域	20
8 4 s ~ 8 4 u , 1 8 4 s , 2 8 4 s ~ 2 8 4 u , 2 8 4 y	測定項目切替タブ	
8 5 a	キーリストマネージャクラス	
8 5 b	アクティブキーリスト管理バッファ	
8 5 c ~ 8 5 e	キーリストバッファ	
8 5 f	アイテムクラス	
8 5 g	データマネージャクラス	
8 6 , 1 8 6 , 2 8 6	測定結果詳細情報表示ウィンドウ	
8 6 a , 1 8 6 a , 2 8 6 a	異常表示領域	
8 6 b , 1 8 6 b , 2 8 6 b	検体情報表示領域	
8 6 c , 1 8 6 c , 2 8 6 c	詳細情報表示領域	30
8 6 e , 1 8 6 e , 2 8 6 e	数値データ表示領域	
D B 2 1 , D B 2 2 , D B 4 1 , D B 4 2	データベース	
N W	通信ネットワーク	

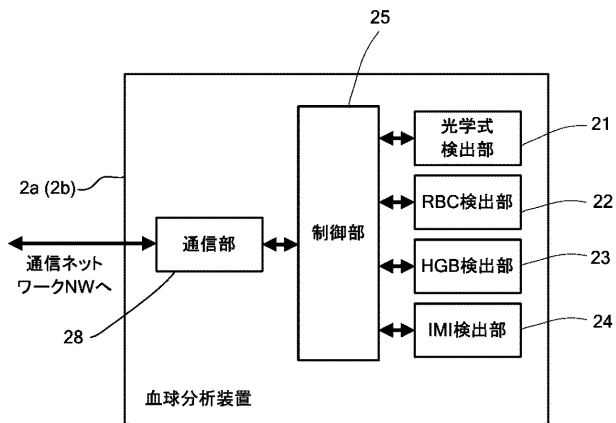
【図 1】



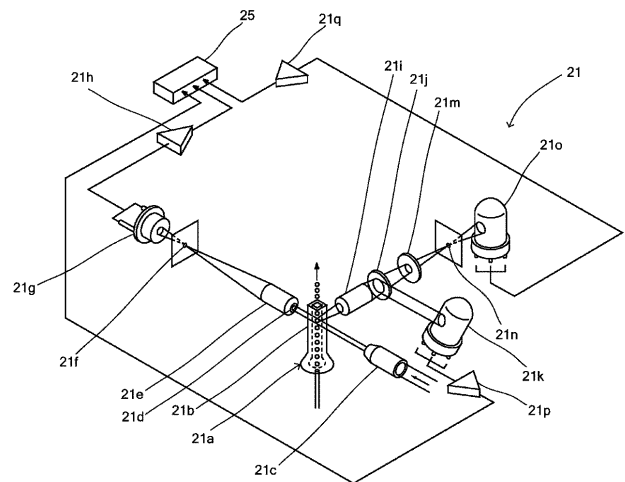
【図 2】



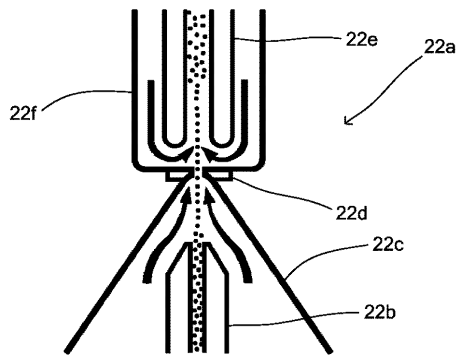
【図 3】



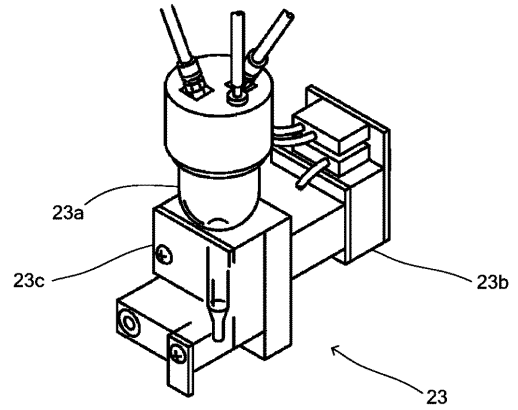
【図 4】



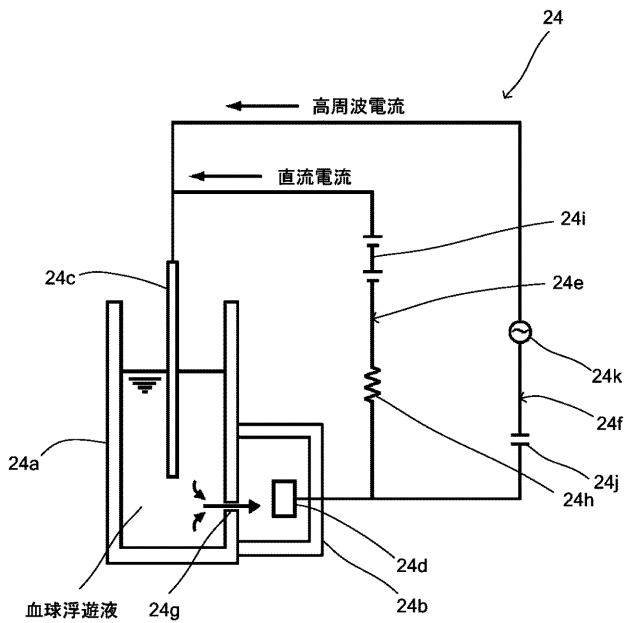
【 図 5 】



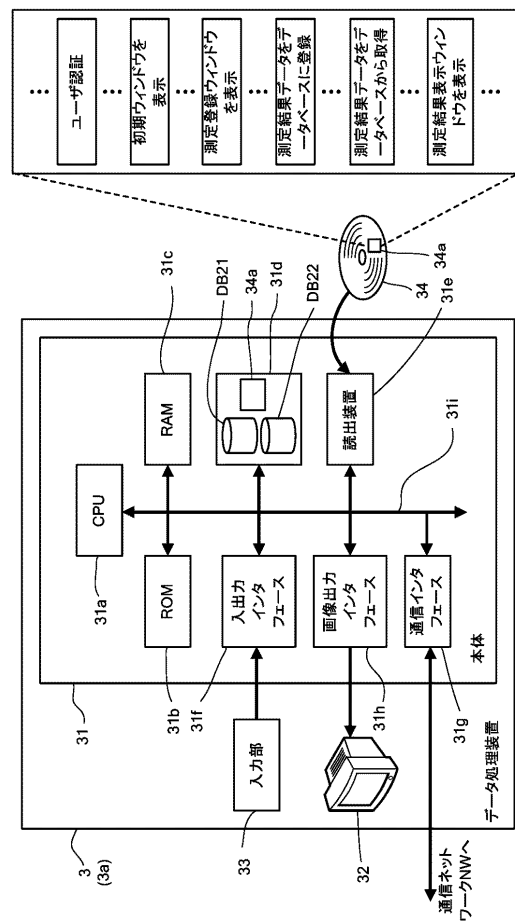
【 図 6 】



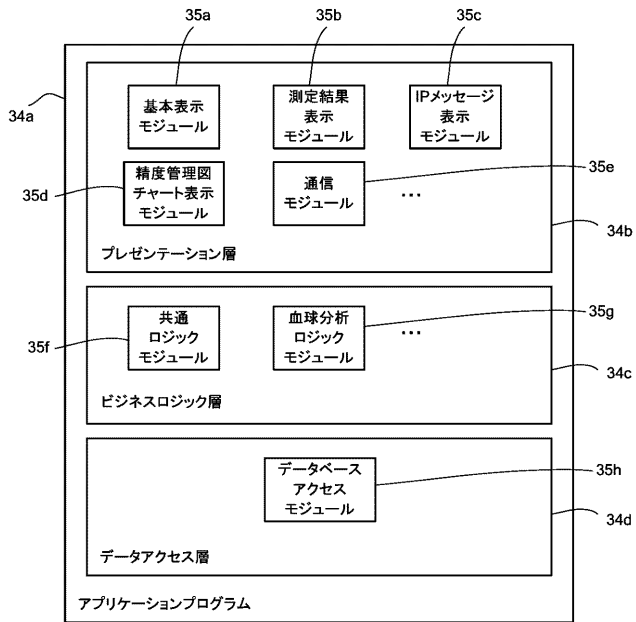
【 図 7 】



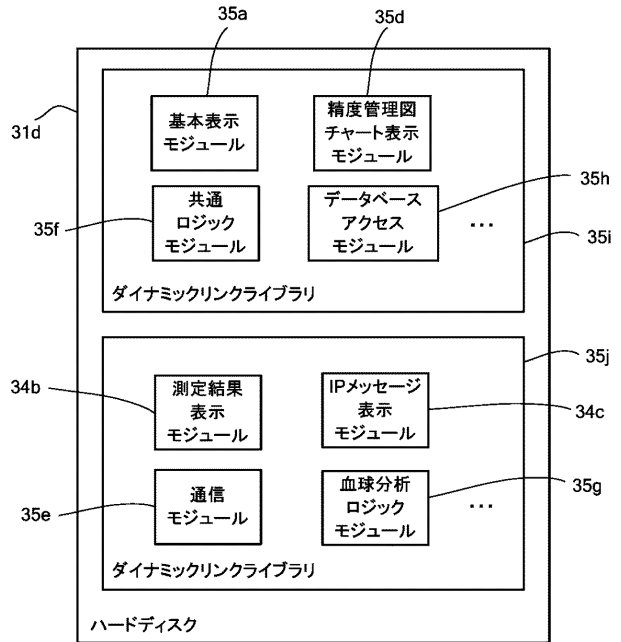
【 図 8 】



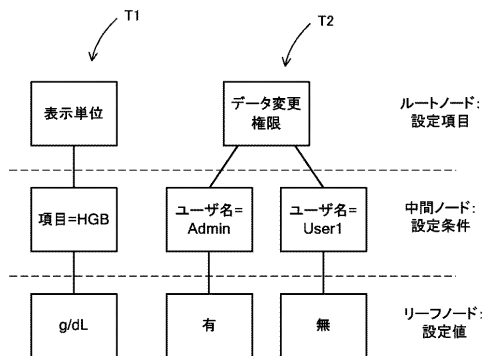
【図 9】



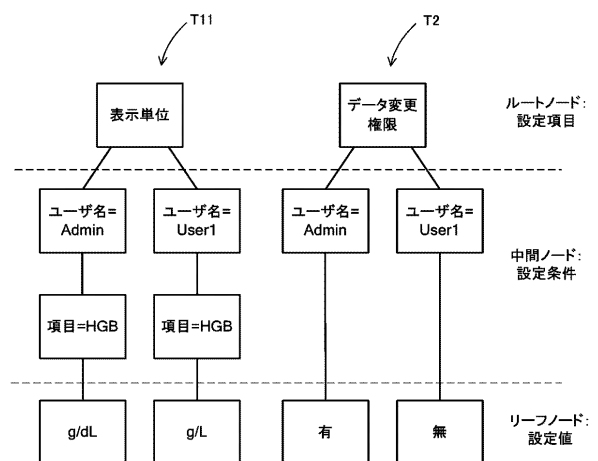
【図 10】



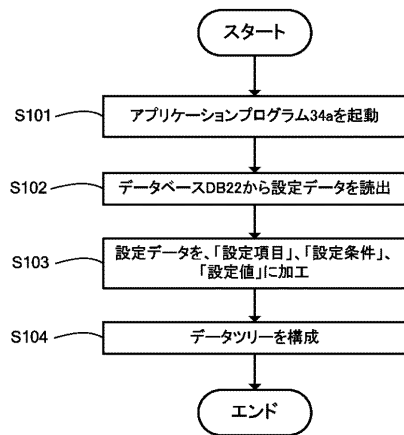
【図 11】



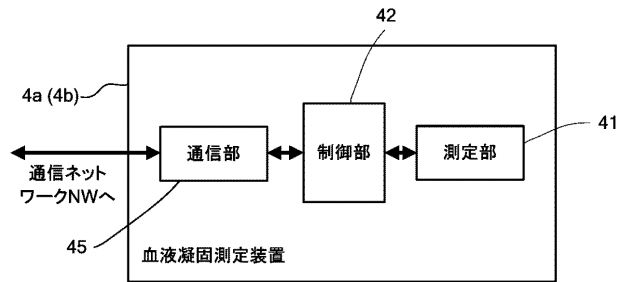
【図 12】



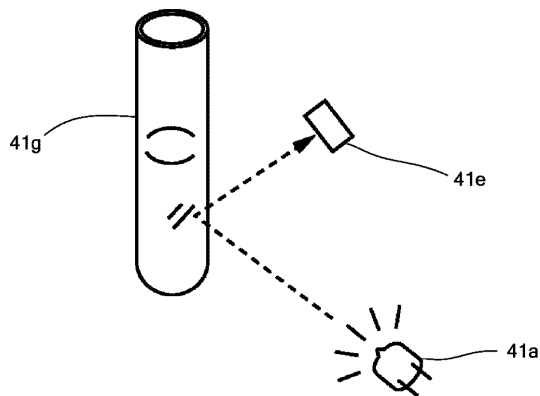
【図 13】



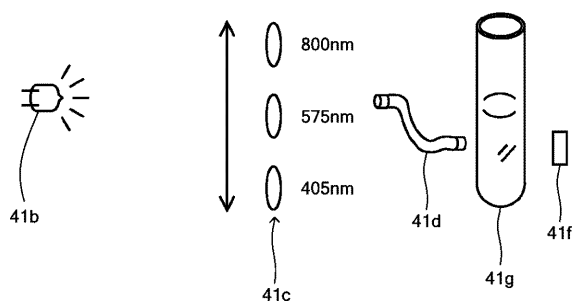
【図 14】



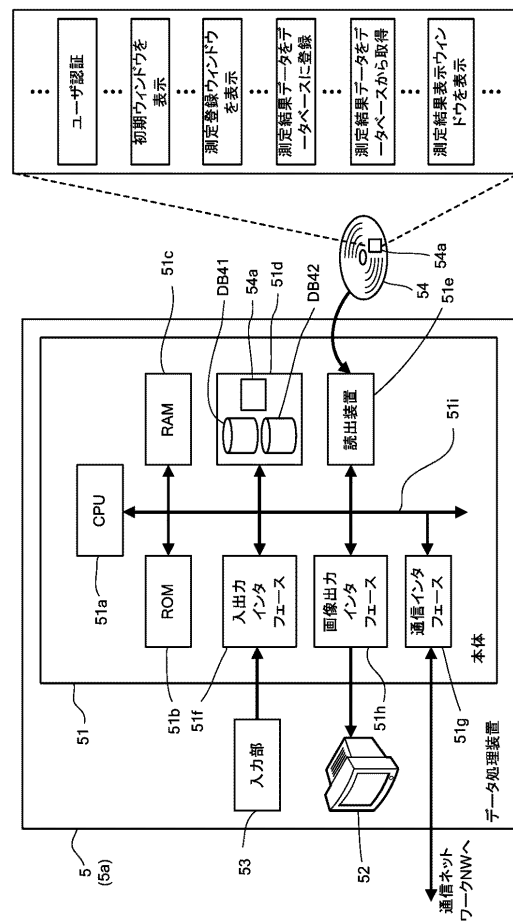
【図 15】



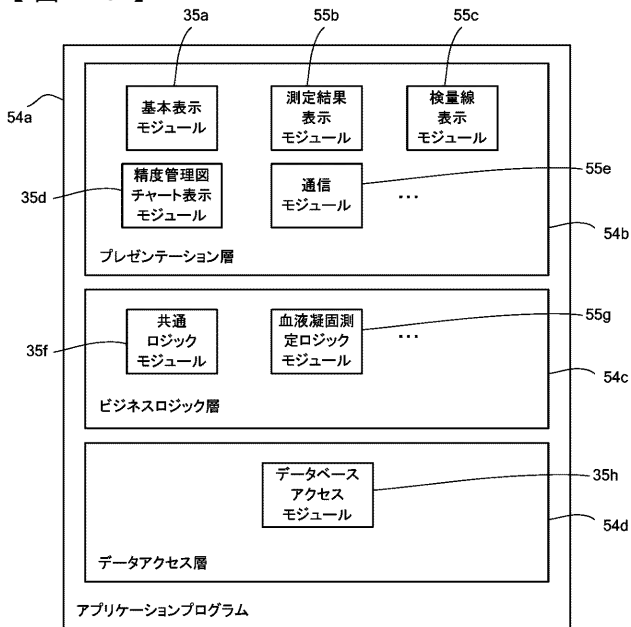
【図 16】



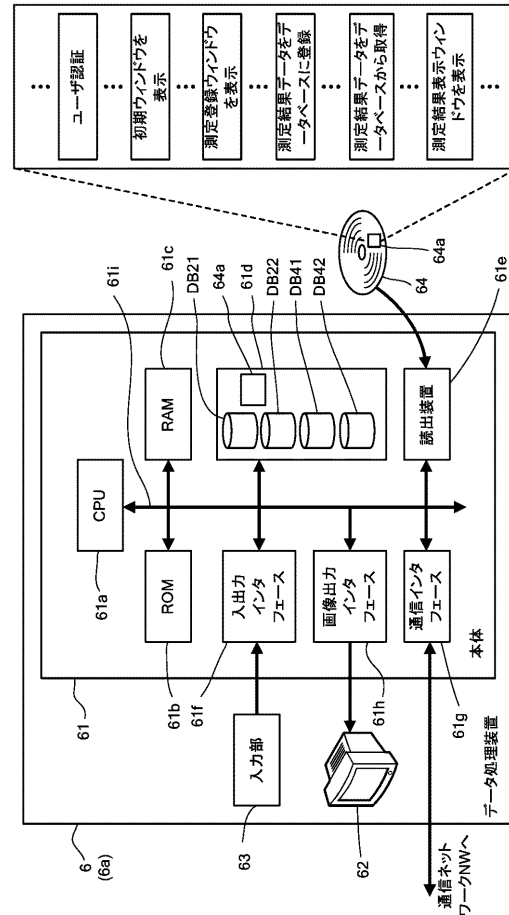
【図 17】



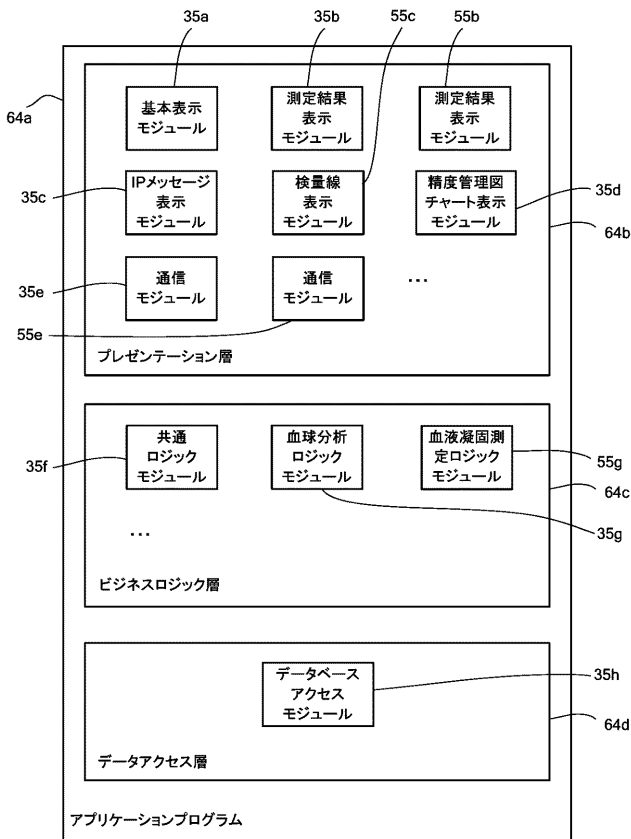
【図18】



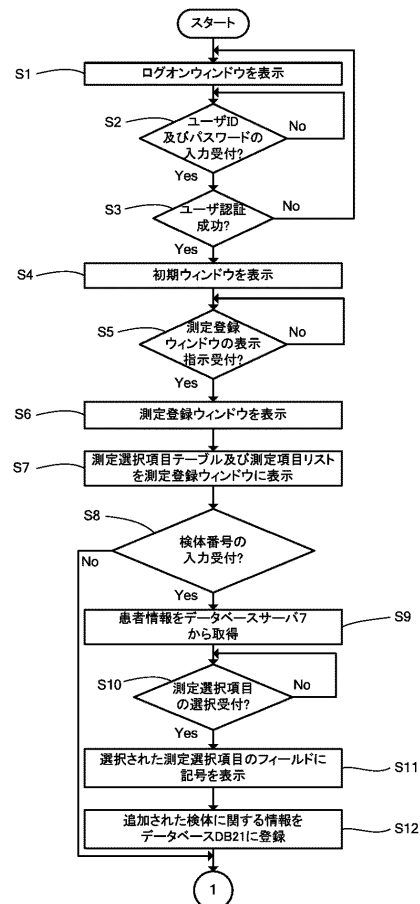
【図19】



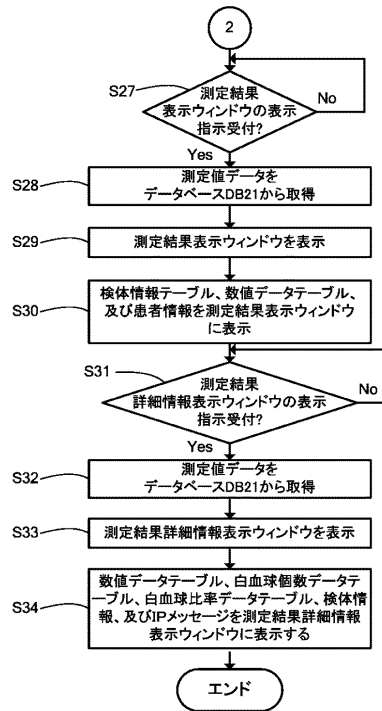
【図20】



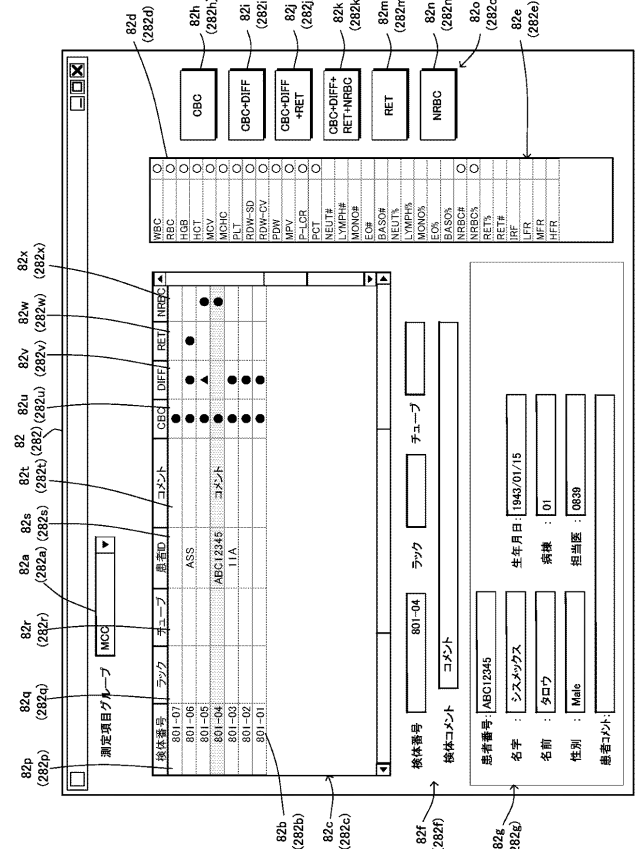
【図21】



【 図 2 3 】



【 図 2 5 】



【 30 】

182a 182b 182c 182d 182e 182f 182g 182h 182i 182j 182k 182l 182m 182n 182o 182p 182q 182r 182s 182t 182u 182v 182w 182x 182y 182z

測定項目グループ CA 測定法 3

ラック番号 123

検体番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

検体コメント 2

患者番号: ABC12345

名字: シズメックス

生年月日: 1943/01/15

名前: タロウ

性別: Male

病棟: 01

担当医: 0839

患者コメント:

【 32 】

186a 186b 186c 186d 186e 186f 186g 186h 186i 186j 186k 186l 186m 186n 186o 186p 186q 186r 186s 186t 186u 186v 186w 186x 186y 186z

測定項目

項目データ

項目	データ	単位	UL
PT	11.1	sec	
APTT	26.4	sec	
Fbg	8.0	mg/dL	
AT3	320.7	mg/dL	
APL		%	
Plg		%	

グラフ

186k 186l 186m 186n 186o 186p 186q 186r 186s 186t 186u 186v 186w 186x 186y 186z

患者番号: 00-0023-1

名字: シズメックス

生年月日: 1943/01/15

名前: タロウ

性別: Male

病棟: 01

担当医: 0839

患者コメント:

【 31 】

184a 184b 184c 184d 184e 184f 184g 184h 184i 184j 184k 184l 184m 184n 184o 184p 184q 184r 184s 184t 184u 184v 184w 184x 184y 184z

検体番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

検体コメント 2

患者番号: ABC12345

名字: シズメックス

生年月日: 1943/01/15

名前: タロウ

性別: Male

病棟: 01

担当医: 0839

患者コメント:

【 33 】

284a 284b 284c 284d 284e 284f 284g 284h 284i 284j 284k 284l 284m 284n 284o 284p 284q 284r 284s 284t 284u 284v 284w 284x 284y 284z

測定項目

項目データ

項目	データ	単位	UL
PT	11.1	sec	
APTT	26.4	sec	
Fbg	8.0	mg/dL	
AT3	320.7	mg/dL	
APL		%	
Plg		%	

グラフ

284k 284l 284m 284n 284o 284p 284q 284r 284s 284t 284u 284v 284w 284x 284y 284z

患者番号: 00-0023-1

名字: シズメックス

生年月日: 1943/01/15

名前: タロウ

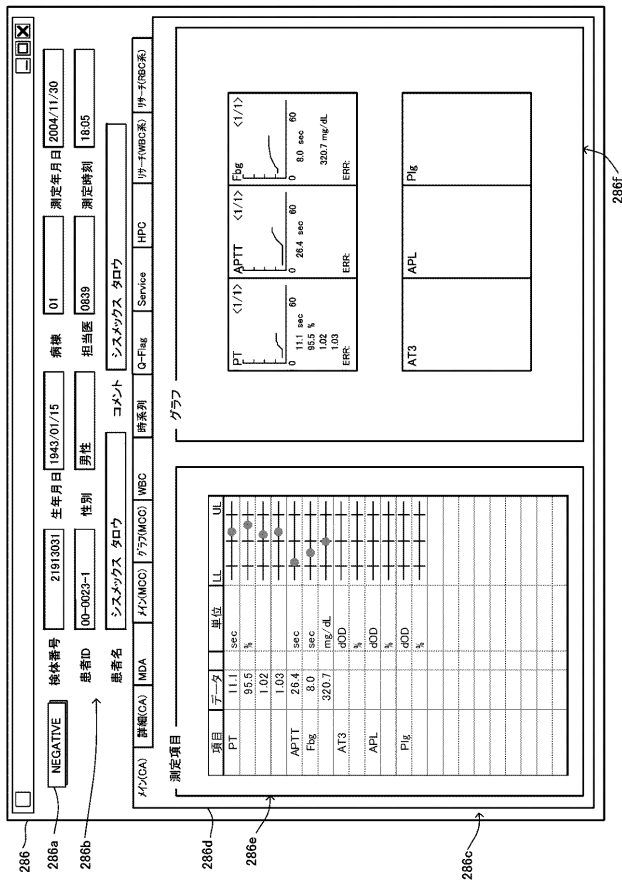
性別: Male

病棟: 01

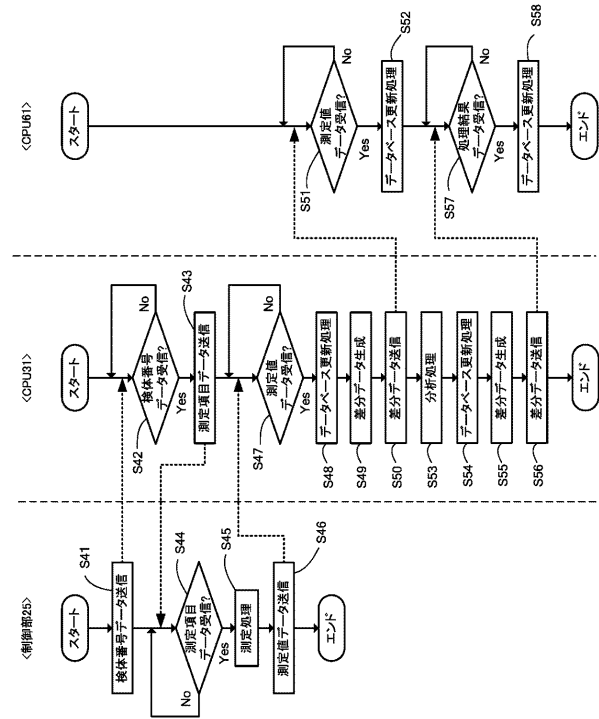
担当医: 0839

患者コメント:

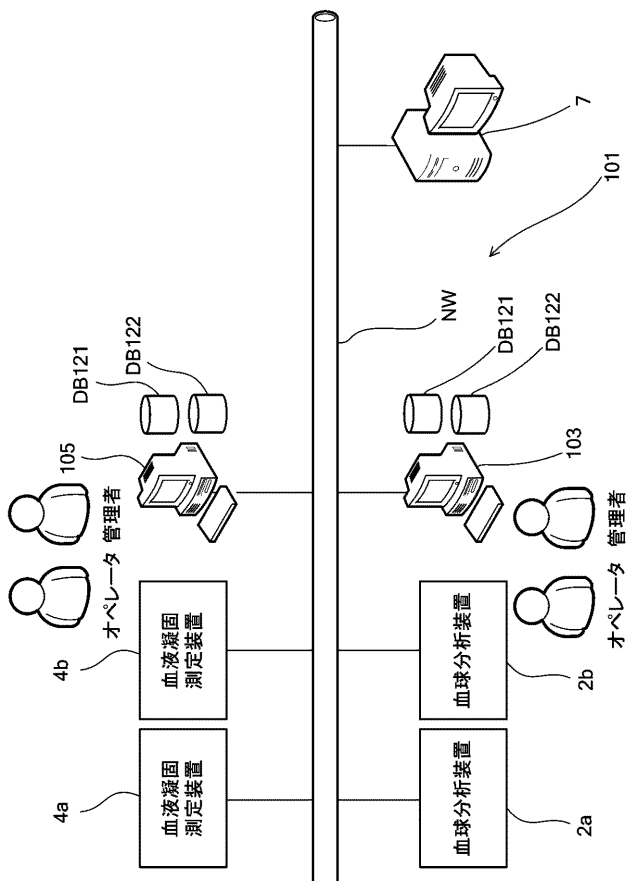
【 図 3 4 】



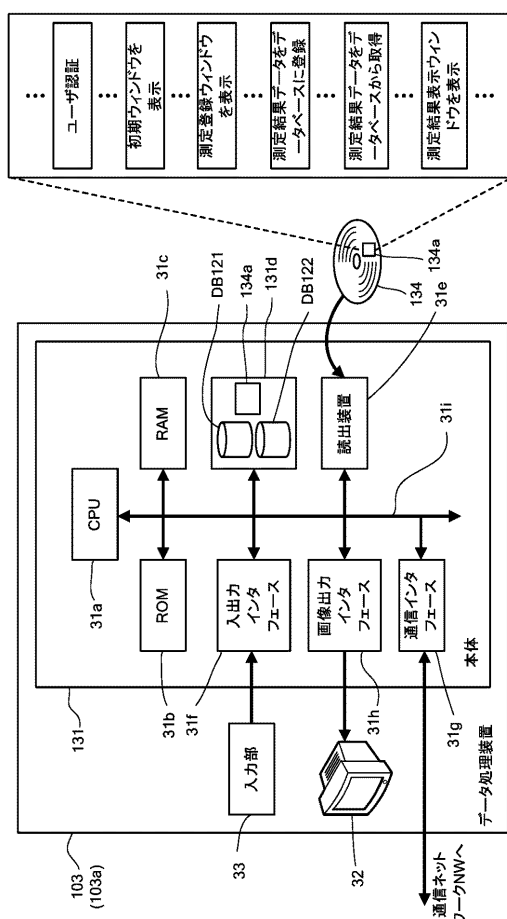
【 図 3 5 】



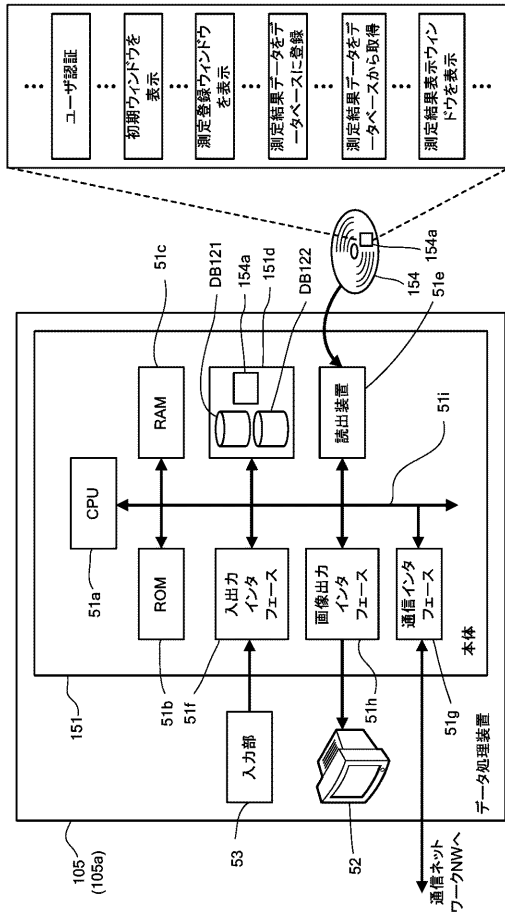
【 図 3 6 】



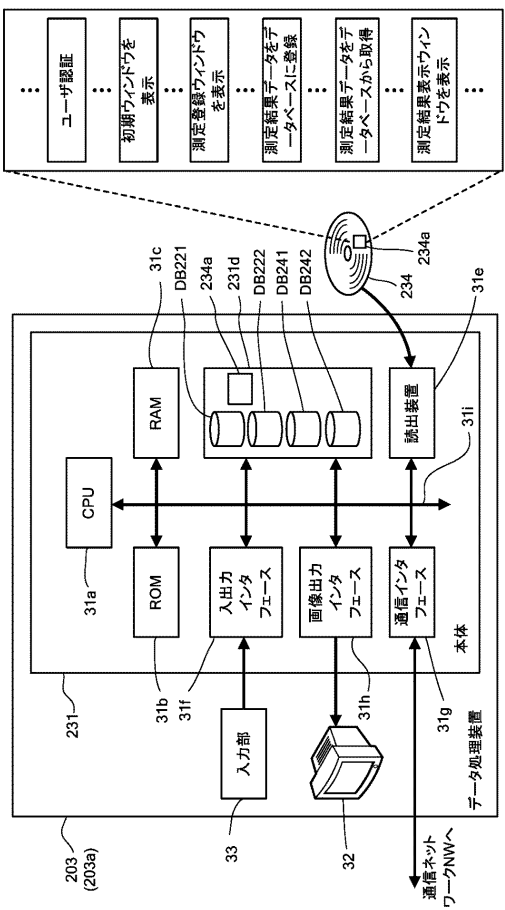
【 図 3 7 】



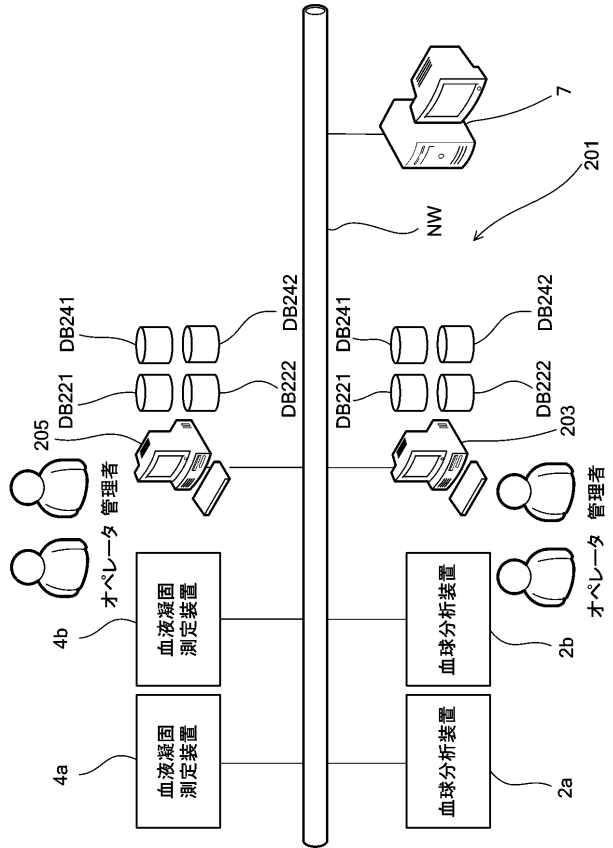
【図 38】



【図 40】



【図 39】



【図 41】

